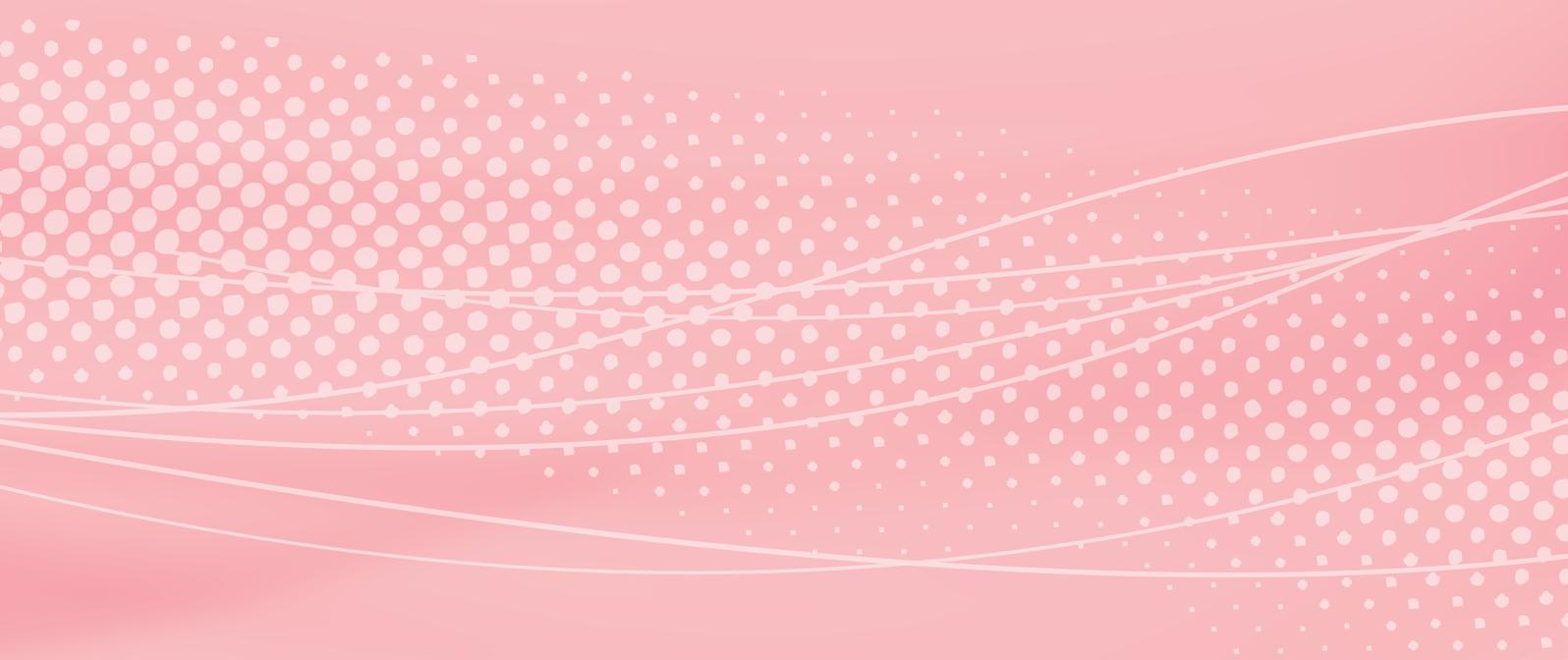


第2部

特別区の壮年期単独世帯の 実態



第二部 特別区の壮年期単独世帯の実態

I 調査の概要

1. 調査の目的

全国的に単独世帯の増加が続き、主要な世帯類型となっている。なかでも東京23区は単独世帯の割合が大きい。単独世帯がもっとも多くみられるのは高齢期であるが、壮年期における単独世帯も増加を続けている。その背景に非婚化の趨勢がある。現在の高齢単独世帯は配偶者と死別した女性高齢者が多いのに対して、壮年単独世帯の多数は非婚によるものである。このことは、両世代の単独生活の内容の違いにつながっている。しかも、壮年単独世帯の多くが将来高齢単独世帯となることが予想される。

これまで単独世帯は高齢期の特徴とする見方が強く社会的関心も高齢期問題として捉える傾向があり、増加する壮年期の単独世帯に関する関心は高かったとはいえない。しかし壮年期の一人暮らしは東京23区で際立っていて、今後当分の間、増加することが見込まれる。壮年期に一人暮らしをする人々には高齢期とは異なるライフスタイルとニーズが存在すること、そしてこの年齢層の単独世帯が増加することは地域社会の様相を変えるであろうことが予想される。一人暮らしをする人々の増加が中長期的にどのように進むのか、それともどこかの時点で変化が生じるのかを予想するには、一人暮らしをする壮年期の人々に焦点を当てた調査が必要である。

全国で未婚率がもっとも高く、単独世帯比率の高い東京都は、非婚化の進行とともに頼れる人が少ない壮年単身者が増加し、やがては頼れる人の少ない高齢単独世帯の急増時代へとつながるのではないかという懸念もある。それとも、これまでの結婚制度を前提としない新しいライフスタイルが開花する段階に到達するのだろうか。本調査から明らかにできることがあるのではなかろうか。

このような問題意識に立って、東京23区の中から特性の異なる世田谷区、豊島区、墨田区の3区を選び、一人暮らしをする35歳から64歳の壮年期の方を対象にアンケート調査を実施した。本調査は壮年期単独世帯の生活実態を把握し、その課題を明らかにするための基礎調査として位置づける。

2. 調査の方法

- ・調査対象：世田谷区、豊島区、墨田区の35-64歳の単独世帯の単身者
- ・調査方法：質問紙調査・郵送法
- ・調査項目：質問紙を9つのパートに分けて、現居住区での居住状況、以前の居住状況、居住区への要望、家族（親・きょうだい・子）とのつながり、知人・友人・地域とのつながり、日常の過ごし方、食生活・健康の状況、高齢期の生活の見通し、基本属性（性別、学歴、仕事の状況、くらし向き、生活費、年収）等をたずねた。
- ・抽出法：各区の住民基本台帳より単独世帯を各区5,000人単純無作為抽出
- ・調査期間：令和元（2019）年10月1日～31日
- ・その他：調査項目の作成にあたり3区の担当者と協議し、質問紙に対するご意見、ご要望、ご提案等をいただいた。住民基本台帳からの抽出作業は全面的に各区のご協力をいただいた。各区のご担当の皆様ならびに調査の回答にご協力いただいた区民の皆様に深く御礼申し上げます。

3. 回収結果

回収状況は次の図表 I -3-1 のとおりで、有効回収率は各区とも約18%と推定される。

なお、本調査では住民基本台帳では判別できない世帯分離等の世帯を対象から除くため、質問紙の最初に問0「あなたは、一人暮らしですか。」というフィルター質問を設けた。「一人暮らしである」と回答した方のみを調査対象者（単身者）と見なし、質問に回答してもらっている。「一人暮らしではない」と回答した方は、質問には回答せず返送していただいている（その数が下記の表のC）である。よって、「一人暮らしではない」方が返送されていないケースも想定されるので、実際の有効回収率はもう少し高い可能性はある。

図表 I -3-1 抽出数と有効回収数

	A) 抽出数 (配布数)			D) 有効 回収数	E) 推定有効 回収率% [D ÷ (A - B - C)]
		B) Aのうち 不在返送数 (*1)	C) Aのうち 「一人暮らし でない」 返送数 (*2)		
世田谷区	5,000	163	177	868	18.6%
豊島区	5,000	161	144	845	18.0%
墨田区	5,000	158	131	885	18.8%
合計	15,000	482	452	2,598	18.5%

注1 その住所に該当者が居住しておらず返送された数

注2 質問紙の最初に「一人暮らし」であるかどうかのフィルター質問で「一人暮らしではない」と回答して返送された数

4. 報告書を読む際の留意点

対象者の抽出は3区ごとに行っているため、各区ごとに集計を行ったが、性別の分布の偏りに基づく違いと考えられる以外に（図表 I -5-1 参照）、各区の間に大きな差が見られなかった。

よって、「II 調査の結果の集計では、全体・3区計と各区の度数分布（①全体）、全体・3区計で性別（②男女別）、年齢2区分（③年齢別）、性別・年齢2区分（④男女別年齢別）のクロス集計の結果を中心に報告する。

「II 調査の結果」では、④男女年齢別の集計結果は本文では文章のみで報告している（本文中の図表には掲載していない）。詳細な数値は巻末の集計表を参照されたい。また、一部で本報告書の集計表にも掲載していない各区ごとの詳細な集計を本文で文章のみで紹介している場合がある。

- ・本文やグラフの「全体」や「3区計」の略記は、3区を合計して集計したものである。
- ・年齢別の記載では、35-49歳を「前期」、50-64歳を「後期」と表記している。
- ・表・グラフ内の各質問の比率（%）は小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある。
- ・複数回答等の表においては、「その他」、「無回答」、「あてはまらない」等を除き、表の一番左上に配置される「全体・3区計」の回答比率の高い順（降順）に並び替えて表示している。

- ・グラフ内（ ）は実数（%基数）を表している。
- ・グラフ内の各選択肢の比率（%）は、煩雑になる場合、回答率が極端に低い項目や「その他」「無回答」等の比率（%）はグラフ内に表示していない。
- ・男女別と年齢別のクロス集計では、性別と年齢の「無回答」の集計は表示していない。

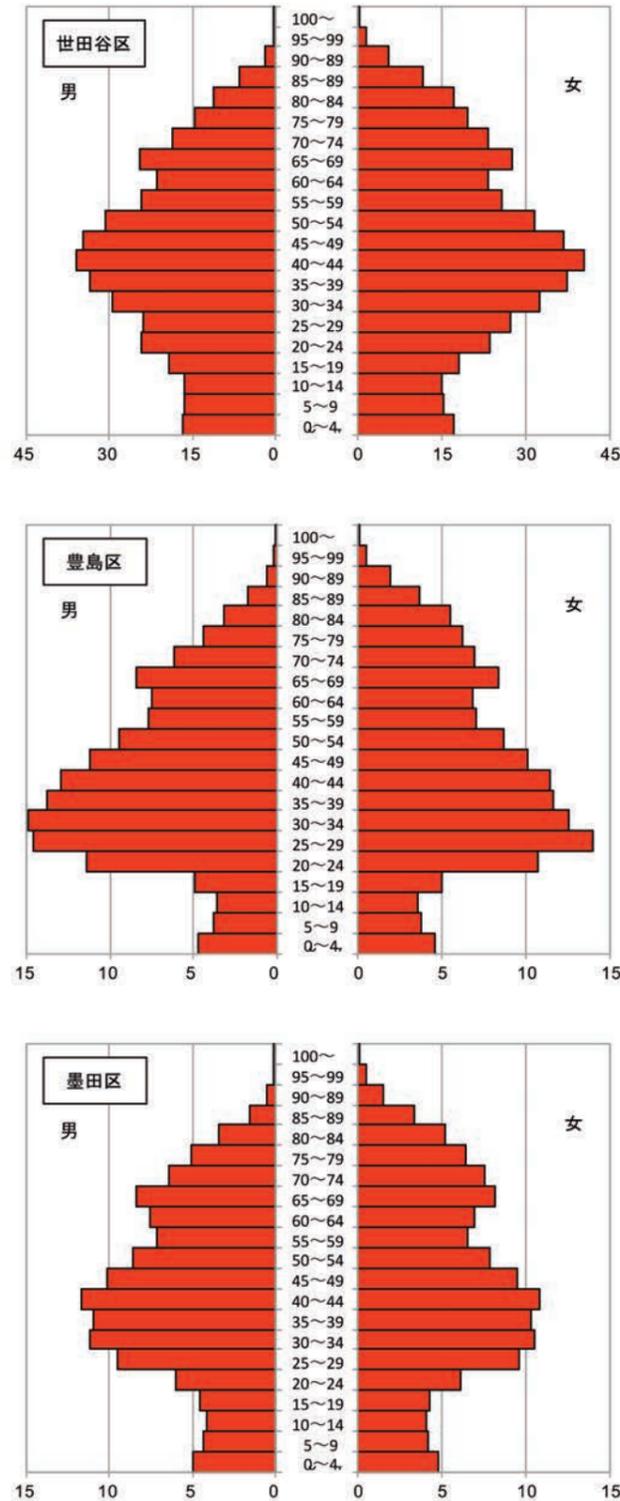
5. 各区の人口構成と本調査の回答者の基本属性

(1) 国勢調査にみる各区の人口構成

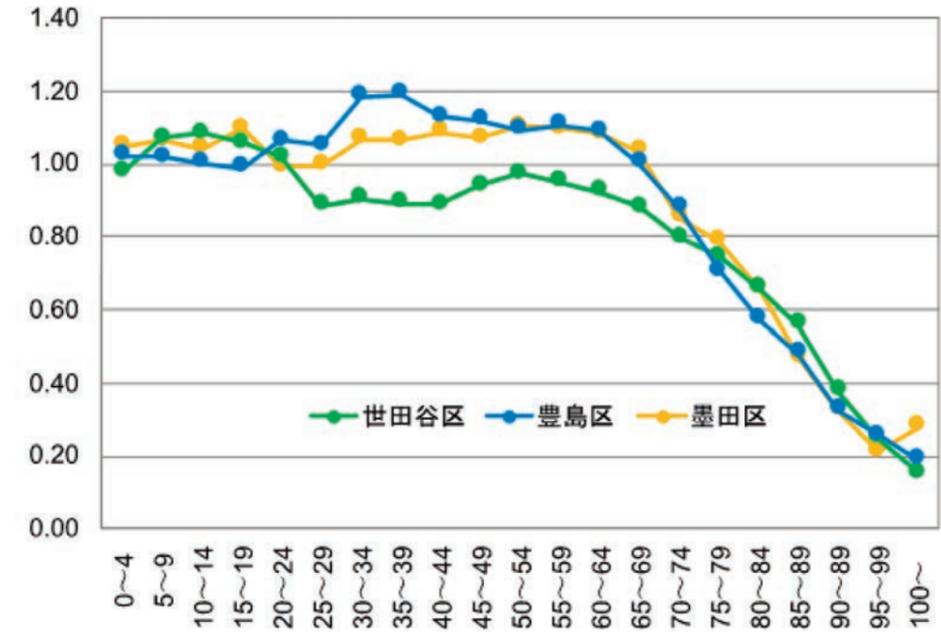
まず、国勢調査（平成27（2015）年）に基づき各区の人口構成を確認しておく。各区の全人口は、世田谷区（約90万人）、豊島区（約30万人）、墨田区（約25万人）の順である。

男女別・年齢別の人口構成をみると（図表 I -5-1 参照）、世田谷区だけ目盛りが違うものの、各区で人口が最も多い年齢層は、世田谷区が40代、豊島区が20代後半～30代の若年層、墨田区は30代～40代前半となっている。

図表 I -5-1 3区の人口ピラミッド



図表 I -5-2 3区の性比 (男性人口を女性人口で割った値)



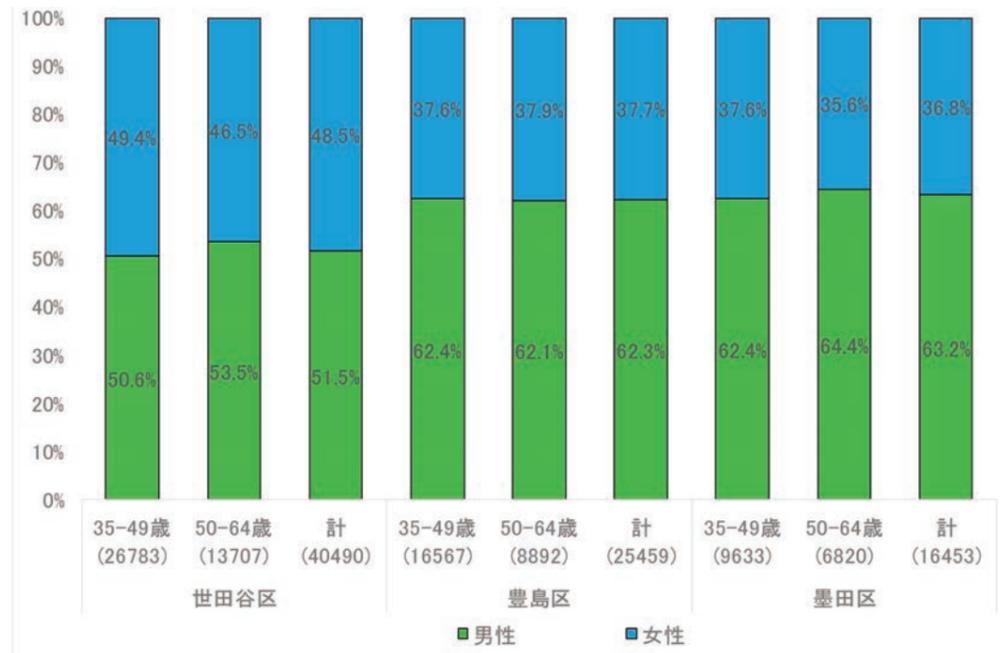
資料：平成27（2015）年国勢調査
 注：男性人口を女性人口で割った値で、1より大きければ男性が多いことを示す

全人口の男女比では、世田谷区は少し女性が多いが（性比で約0.9）、豊島区と墨田区はおよそ男女半々である（性比で約1.0）。

年齢別に各区の性比をみると（図表 I -5-2）、ちょうど生産年齢人口にあたる15歳から65歳未満での年齢層で、豊島区や墨田区は性比が1を超えている。つまり、男性の人口の方が多い。その反対に世田谷区は、性比が1を割っている。つまり、女性の人口の方が多い。特に豊島区は、人口ピラミッドでも確認できるが、30代の男性の人口が多いのが他の2区と比べて特徴的である。

出典：平成27（2015）年国勢調査
 注：人口ピラミッドのスケールは（×1,000）

図表 I -5-3 調査対象年齢別の単身者の男女比



出典：平成27（2015）年国勢調査
注：各区の「計」は35-49歳と50-64歳の合計

(2) 国勢調査にみる各区の単身者の男女比

国勢調査で、各区の単身者の調査対象年齢別の男女比をみると（図表 I -5-3）、各区とも年齢層、本調査でいう前期（35-49歳）と後期（50-64歳）での違いは見られず、ほぼ同じくらいである。世田谷区では男女比がおおむね5:5（性比で約1.1）、豊島区と墨田区はおおむね6:4（性比で約1.7）となっており、前項の全人口の男女比に沿った傾向となっている。

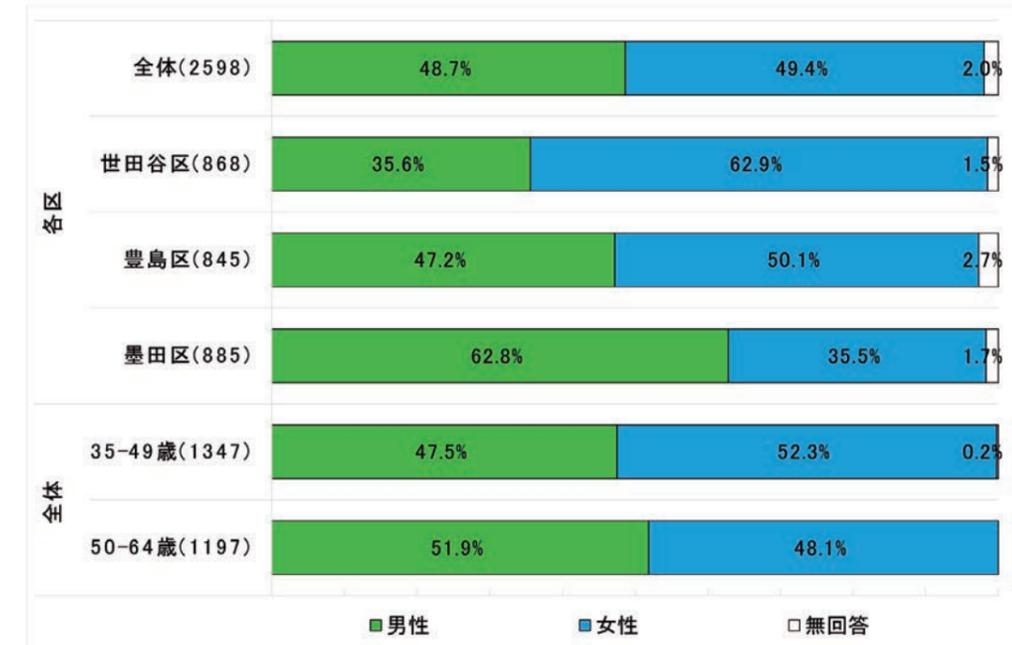
(3) 本調査の基本属性

続いて、本調査の基本属性についてみていく。まず性別について（図表 I -5-4のとおり）、本調査では世田谷区で男女比がおおよそ4:6、豊島区5:5、墨田区は6:4となっている。

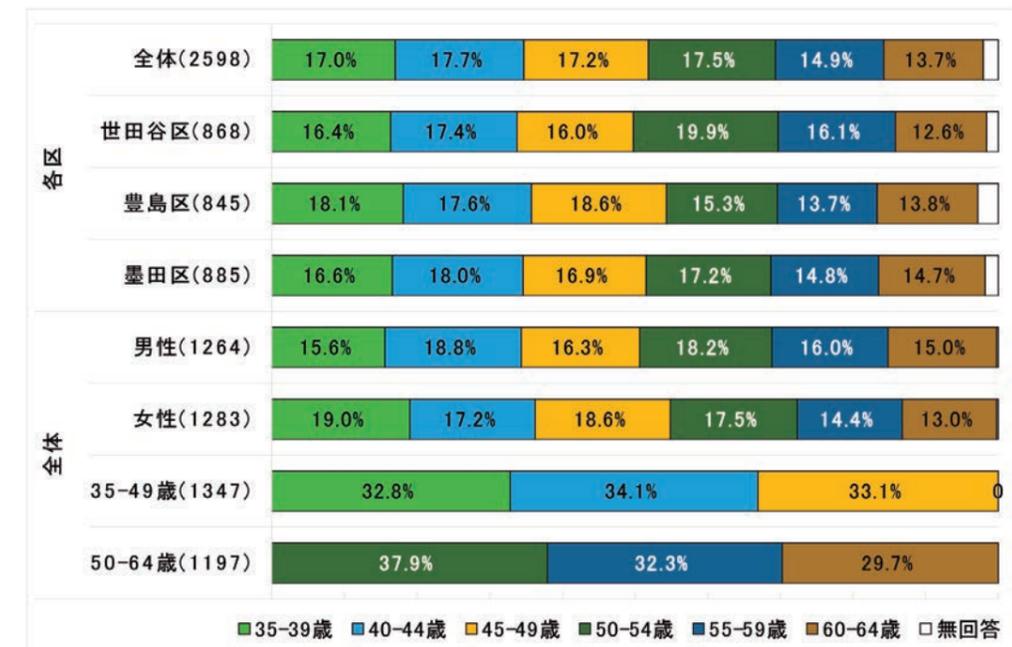
前項で述べたように、国勢調査での単身者の男女比は、世田谷区はおおよそ5:5、豊島区と墨田区は6:4であった。よって、墨田区は国勢調査とほぼ同じ男女比だが、世田谷区と豊島区とも、男性は%で約15～16ポイント本調査の方が低く、女性は%で約12～14ポイント本調査の方が高い。3区計・全体では、男性が約8ポイント本調査の方が低く、女性が約6ポイント高い。男女を合計した集計の解釈については、この点に少し留意する必要がある。

年齢は5歳区切りで、ほぼ均等に分布している。（図表 I -5-5）

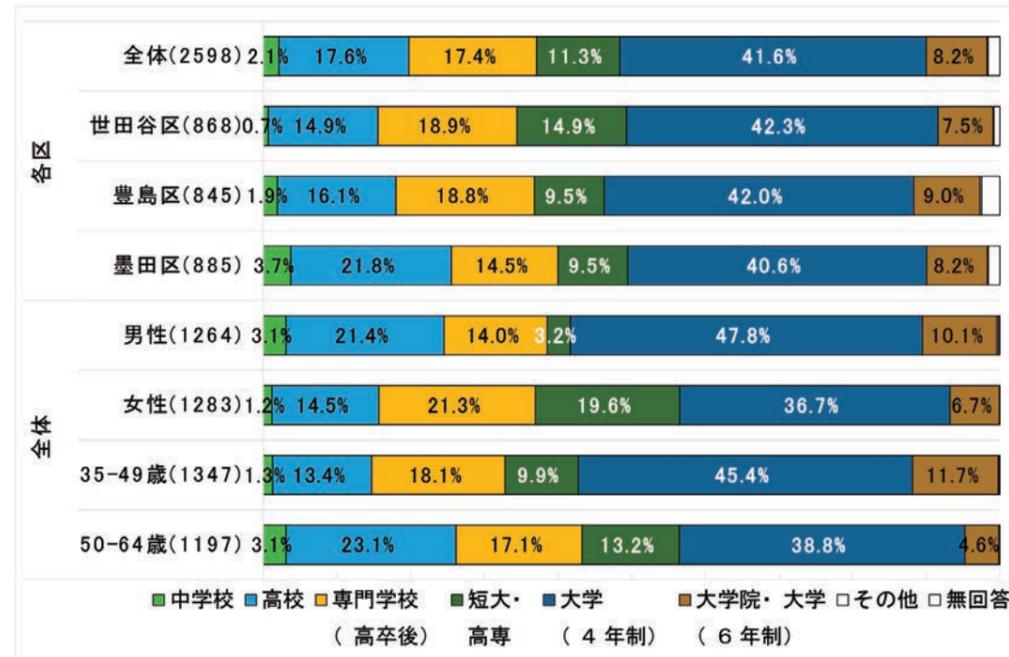
図表 I -5-4 性別（問34 / 単数回答）



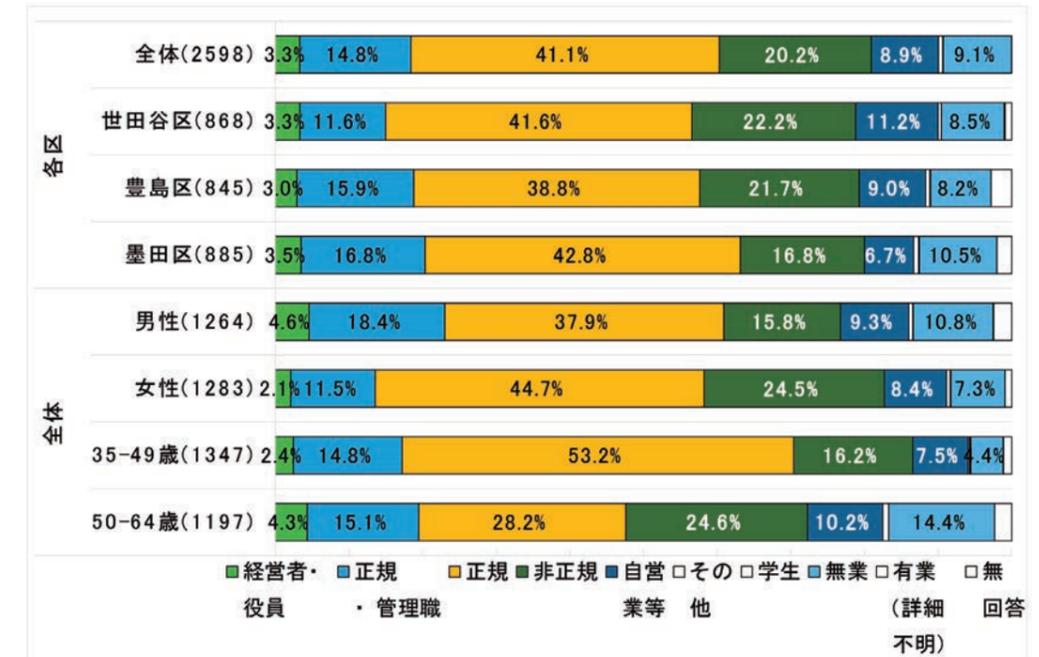
図表 I -5-5 年齢（問35 / 単数回答）



図表 I -5-6 学歴 (問36 / 単数回答)



図表 I -5-7 従業上の地位 (問37 / 単数回答)



学歴 (図表 I -5-6) は、全体および各区とも「大学 (4年制)」約40%、「専門学校」と「短大・高専」が約10%~20%である。

男女別では、「大学 (4年制)」は男性50%弱、女性約35%と男性の方が割合が高いが、女性は「短大・高専」約20%を占めるため、「短大・高専」と「大学 (4年制)」と「大学院・大学 (6年制)」を合計すると、男女ともほぼ60%である。

年齢別では、後期で「高校」が約20%と前期より約10ポイント高い。「短大・高専」と「大学 (4年制)」と「大学院・大学 (6年制)」を合計すると、前期は約65%、後期は約55%で、前期の方がやや学歴が高い傾向がある。

(4) 就業状況

図表 I -5-7 のとおり、全体・各区とも「経営者・役員」が約3%、管理職と管理職以外の「正規」をあわせて約50%、「非正規」が約20%、「自営」が約10%、「無業」が約10%である。

男女別では、男性の方が「正規・管理職」の割合がやや高く、女性の方が「非正規」の割合が高い傾向がある。

年齢別では、後期の方は「非正規」「無業」の割合が前期より高く、「正規」の割合が前期より20ポイント以上高い。

図表 I -5-8 有業者の過去1か月間の休日・夜間就業の状況 (問37-1 / (複数回答/全体・3区計の降順))

	全体・3区計	世田谷区	豊島区	墨田区	男性	女性	35-49歳	50-64歳
合計度数	2310	786	751	773	1095	1176	1271	997
1.午後6時~午後10時の間に働く	58.0%	59.4%	58.7%	55.8%	58.3%	57.8%	67.1%	46.8%
3.土曜日に働く	47.0%	49.1%	48.1%	43.9%	47.7%	46.1%	47.4%	46.2%
4.日曜日・祝日に働く	40.4%	41.7%	42.5%	37.1%	43.1%	38.1%	41.5%	39.1%
2.午後10時~午前7時の間に働く	23.7%	24.7%	25.7%	20.7%	25.9%	21.7%	26.5%	20.3%
5.いずれもあてはまらない	23.2%	22.8%	21.4%	25.2%	22.6%	23.6%	17.8%	30.0%
無回答	2.3%	2.3%	2.4%	2.1%	2.2%	2.3%	1.8%	2.8%

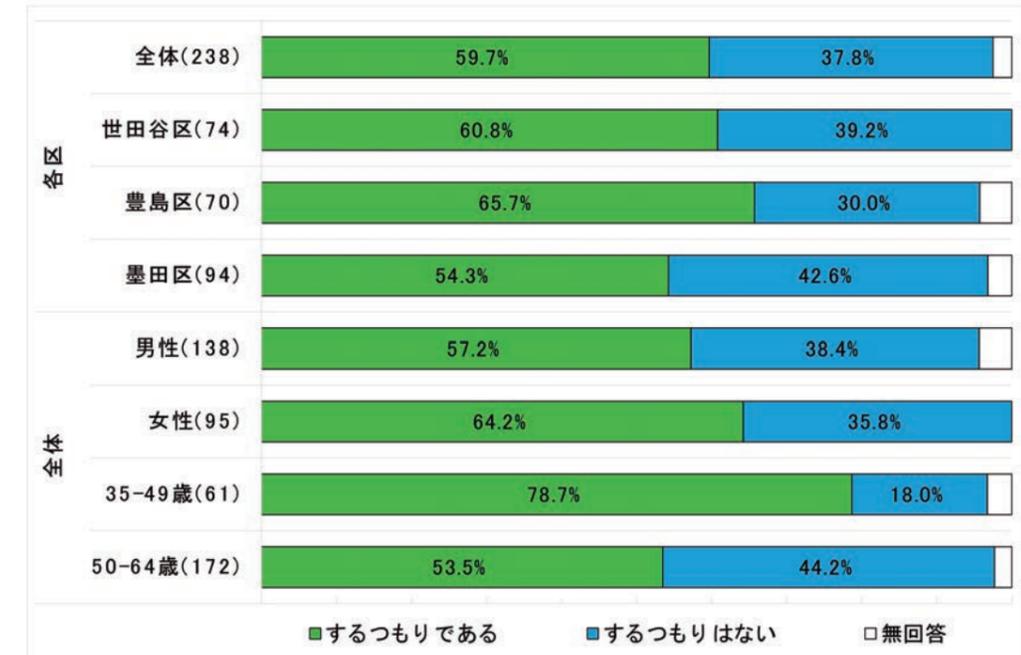
働いている人の過去1か月間の休日・夜間就業の状況 (図表 I -5-8) では、全体・各区とも「1. 午後6時~午後10時」の夜間の就業が60%弱と最も割合が高い。男女別もほぼ同じ傾向で、男女差はほとんど見られない。続いて「3.土曜日に働く」「4.日曜日・祝日に働く」の順である。

年齢別では、後期の方が「5.いずれもあてはまらない」の割合が30%と前期より10ポイント以上高い。

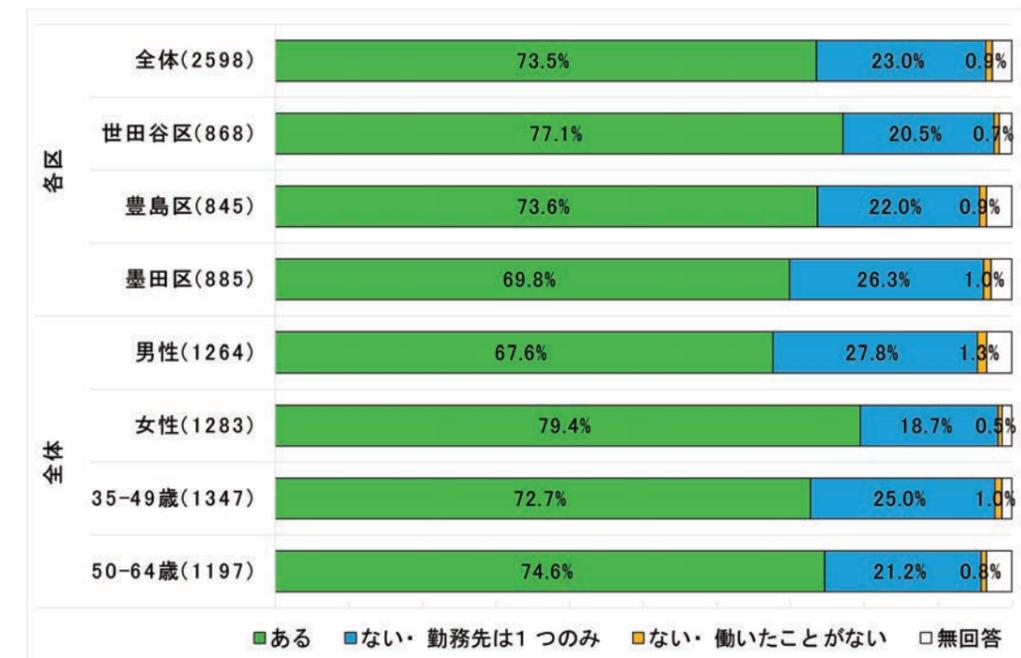
図表 I -5-9 有業者の「働くことについての考え」
(問37-2 / 単数回答)

	全体・ 3区計	世田 谷区	豊島 区	墨田 区	男性	女性	35-49 歳	50-64 歳
合計度数	2310	786	751	773	1095	1176	1271	997
(a) 今の仕事に満足している								
とてもそう思う	18.4%	20.1%	17.4%	17.7%	17.6%	19.1%	16.8%	20.5%
ややそう思う	49.6%	48.9%	49.8%	50.2%	48.2%	50.9%	50.4%	48.7%
あまりそう思わない	24.2%	23.4%	23.8%	25.4%	25.3%	23.4%	25.5%	22.9%
まったくそう思わない	7.1%	7.1%	8.1%	6.2%	8.4%	6.0%	6.8%	7.4%
無回答	0.6%	0.5%	0.8%	0.5%	0.5%	0.6%	0.5%	0.5%
(b) 仕事がきびしい								
とてもそう思う	11.2%	9.7%	12.6%	11.3%	11.9%	10.5%	10.9%	11.5%
ややそう思う	33.1%	32.6%	32.1%	34.7%	33.5%	33.0%	34.1%	32.3%
あまりそう思わない	41.5%	45.0%	39.5%	39.7%	40.4%	42.6%	42.6%	40.3%
まったくそう思わない	13.4%	12.1%	14.6%	13.5%	13.3%	13.1%	11.7%	14.9%
無回答	0.9%	0.6%	1.1%	0.9%	0.9%	0.8%	0.7%	0.9%
(c) 仕事の専門能力を高めたい								
とてもそう思う	34.9%	35.8%	35.2%	33.9%	34.8%	34.9%	40.7%	27.5%
ややそう思う	40.0%	41.5%	38.7%	39.6%	39.6%	41.0%	40.8%	39.9%
あまりそう思わない	18.3%	16.8%	18.9%	19.3%	18.2%	18.2%	14.2%	23.3%
まったくそう思わない	5.8%	5.2%	6.1%	6.2%	6.3%	5.2%	3.9%	8.1%
無回答	1.0%	0.8%	1.1%	1.0%	1.1%	0.7%	0.6%	1.2%
(d) 管理職や、より上の立場をめざしたい								
とてもそう思う	12.9%	11.5%	13.6%	13.6%	14.6%	11.2%	16.3%	8.4%
ややそう思う	20.0%	19.3%	19.4%	21.2%	20.4%	20.2%	24.5%	14.7%
あまりそう思わない	39.1%	43.4%	38.3%	35.6%	36.6%	41.8%	38.8%	40.0%
まったくそう思わない	26.7%	24.8%	27.4%	27.9%	26.8%	25.9%	19.7%	35.0%
無回答	1.3%	1.0%	1.2%	1.7%	1.6%	0.9%	0.7%	1.8%

図表 I -5-10 無業者の就業意向 (単数回答)



図表 I -5-11 転職経験 (単数回答)



働くことについての考えは (図表 I -5-9)、(a) の仕事満足度では、「とても」と「やや」を合計すると70%弱が満足している。各区、男女別、年齢別で大きな違いは見られない。

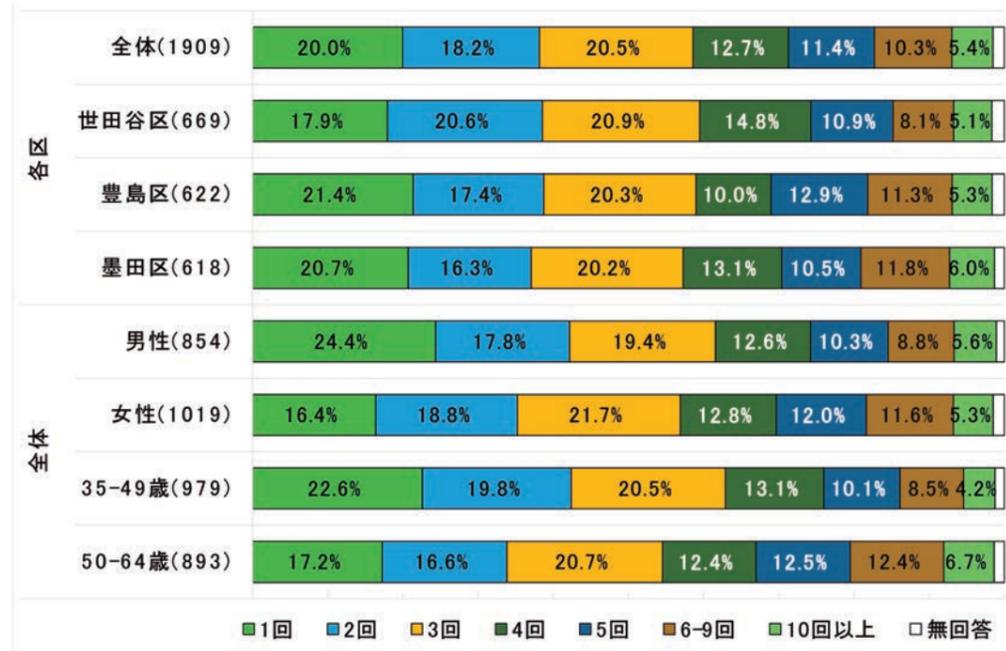
(b) 「仕事がきびしい」では、「とても」と「やや」を合計すると約45%がそのように感じている。各区、男女別、年齢別で大きな違いは見られない。

(c) 「仕事の専門能力を高めたい」では、「とても」と「やや」を合計すると約75%がそのように感じている。各区、男女別では大きな違いは見られないが、年齢別では前期の方が後期より約10ポイント希望している割合が高い。

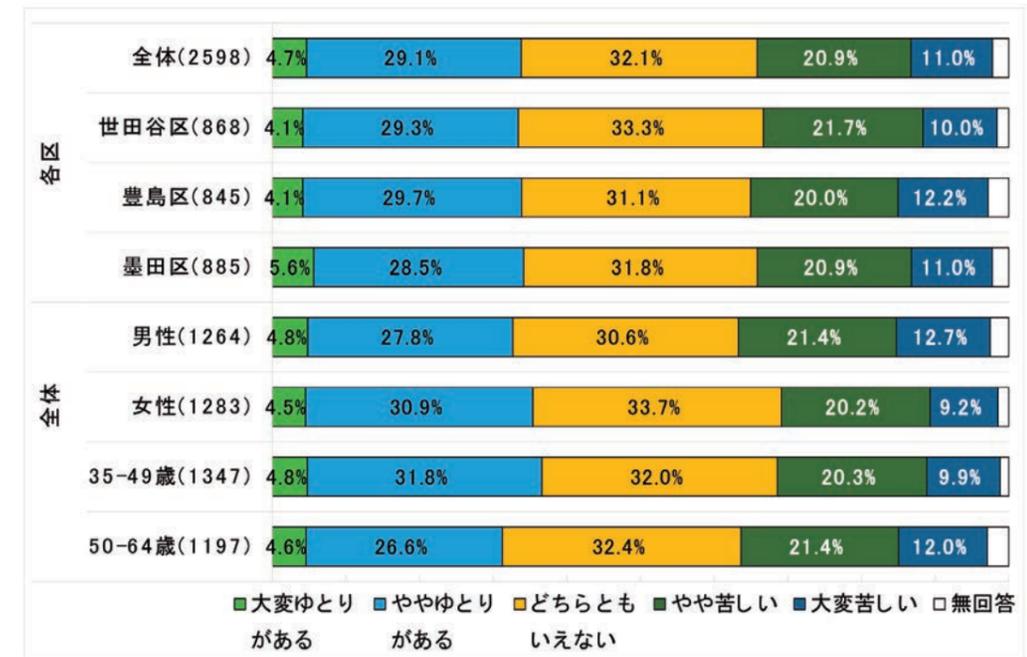
(d) 「管理職や、より上の立場をめざしたい」では、「とても」と「やや」を合計すると約30%が希望している。各区、男女別では大きな違いは見られないが、年齢別では前期の方が後期より約17ポイント希望している割合が高い。

無業者の就業意向は (図表 I -5-10)、約60%の人が就業を希望している。各区では墨田区就業希望がやや低い。男性より女性の方がやや就業を希望しており、年齢では前期の方が後期より約25ポイント就業を希望している。

図表 I -5-12 転職経験者の転職回数 (単数回答)



図表 I -5-13 暮らし向き (問39 / 単数回答)



現在の就業有無に関係なく、これまでの転職経験についてたずねたところ(図表 I -5-11)、転職経験「ある」が約70%である。女性の方が男性よりも転職経験が約10ポイント高い。年齢差はみられない。

転職経験者について、これまでの転職回数をたずねたところ(図表 I -5-12)、全体、各区とも、「1回」、「2回」、「3回」までが各20%前後、3回、4回、5回が各10%程度となった。男女別では、男性よりも女性の方が転職回数が多い傾向が見られる。年齢別では、前期よりも後期の方が転職回数が多い傾向が見られる。

(5) 暮らしの状況

現在の暮らし向きは(図表 I -5-13)、全体、各区分、男女別、年齢別いずれも、「大変ゆとりがある」が4~5%、「ややゆとりがある」が20%台後半から30%、「どちらともいえない」が30%台前半、「やや苦しい」が約20%、「大変苦しい」が9~12%くらいで大きな違いは見られない。ただし、年齢で後期の方が「ややゆとりがある」の割合が約27%と前期と比べて約5ポイント低い。

図表 I -5-14 最も主な生活費の出所 (問40 / 単数回答)

	全体・3区計	世田谷区	豊島区	墨田区	男性	女性	35-49歳	50-64歳
合計度数	2598	868	845	885	1264	1283	1347	1197
仕事による収入	85.2%	86.3%	85.0%	84.3%	82.8%	88.2%	93.2%	77.0%
預貯金の切りくずし	5.7%	6.5%	5.4%	5.1%	6.3%	5.1%	3.1%	8.7%
利子・配当・家賃・地代	0.8%	1.3%	0.6%	0.6%	0.9%	0.7%	-	1.7%
仕送り・援助など	0.8%	0.7%	0.9%	0.7%	0.3%	1.2%	0.4%	1.2%
公的年金(国民年金・厚生年金)	1.6%	1.3%	1.1%	2.4%	1.7%	1.4%	0.6%	2.6%
企業年金や民間の個人年金・保険金	0.4%	0.3%	0.6%	0.3%	0.4%	0.4%	-	0.8%
失業保険	0.4%	0.6%	0.4%	0.3%	0.3%	0.5%	0.4%	0.4%
生活保護	2.9%	1.7%	2.8%	4.1%	4.7%	1.0%	1.3%	4.6%
その他	0.2%	0.2%	0.2%	-	0.1%	0.2%	-	0.3%
無回答	2.1%	1.2%	3.0%	2.3%	2.5%	1.2%	1.0%	2.8%

最も主な生活費の出所については(図表 I -5-14)、全体、各区、男女別でも「仕事による収入」が約85%である。年齢別では、前期が「仕事による収入」が約90%、後期が77%と前期の方が割合が高い。後期では「預貯金の切り崩し」が約9%を占めている。

図表 I -5-15 昨年1年間の年収（問41 /単数回答）

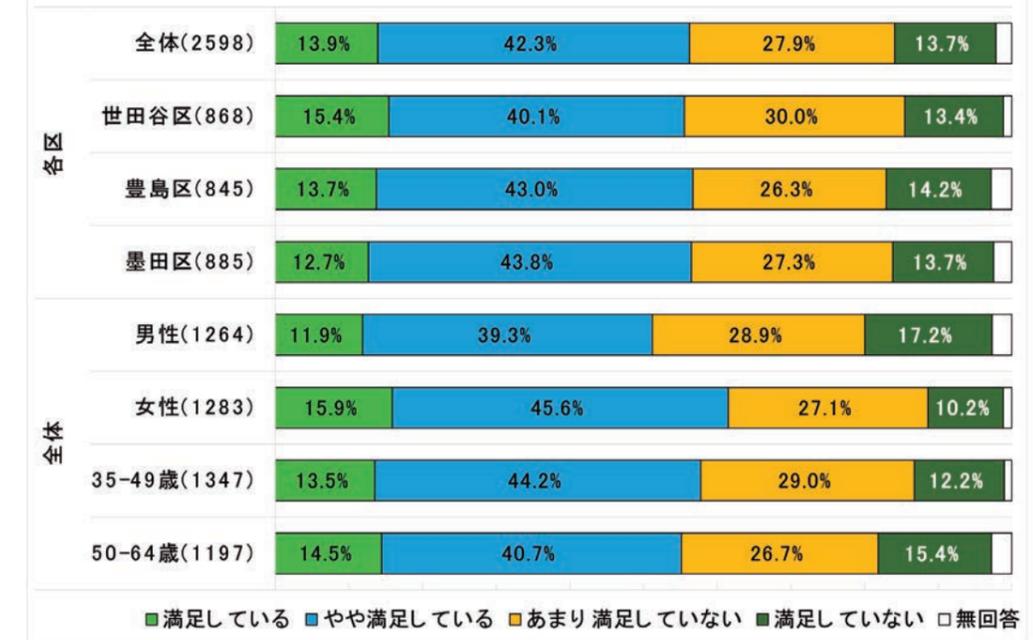
	全体・ 3区計	世田 谷区	豊島 区	墨田 区	男性	女性	35-49 歳	50-64 歳
合計度数	2598	868	845	885	1264	1283	1347	1197
100万円未満	5.4%	5.5%	5.3%	5.2%	5.3%	5.3%	2.9%	8.0%
100～199万円台	8.0%	7.1%	8.9%	7.9%	7.9%	7.6%	4.3%	11.6%
200～299万円台	13.0%	13.6%	13.6%	12.0%	11.1%	14.8%	10.9%	15.4%
300～399万円台	14.4%	15.7%	14.3%	13.1%	12.8%	16.0%	16.0%	12.7%
400～499万円台	13.2%	14.4%	12.7%	12.7%	11.6%	15.4%	16.1%	10.4%
500～599万円台	10.8%	11.3%	9.9%	11.2%	10.0%	11.6%	14.6%	6.8%
600～699万円台	8.5%	8.1%	7.7%	9.8%	8.8%	8.4%	10.2%	6.7%
700～799万円台	6.8%	6.2%	7.7%	6.6%	7.6%	6.2%	8.5%	5.0%
800～899万円台	5.0%	3.8%	5.2%	6.0%	5.9%	4.4%	5.0%	5.3%
900～999万円台	3.0%	3.3%	2.2%	3.5%	4.1%	2.1%	3.4%	2.8%
1,000万円以上	7.0%	6.5%	7.1%	7.5%	9.9%	4.4%	5.6%	8.9%
わからない	2.2%	2.8%	1.8%	2.1%	2.1%	2.2%	1.3%	3.2%
無回答	2.6%	1.7%	3.6%	2.5%	2.9%	1.6%	1.2%	3.3%

昨年1年間の年収（100万円刻み）では（図表 I -5-15）、全体、各区とも回答が分散している。100万円未満が約5%・100万円台が8%で、一方1,000万円以上が約7%おり、200万円台、300万円台、400万円台、500万円台が10%を少し超える割合となっている。

性別でも分散しており、低中所得ではあまり大きな違いが見れないが、800万円台以上からは男性の方が割合が高くなっている。

年齢別では、後期の方が100万円未満、100万円台の割合がかなり高くなっているが、1,000万円以上の最も高いカテゴリーも後期の方がやや高く、後期はかなり分散が大きい。

図表 I -5-16 現在のくらし満足度（問41 /単数回答）



現在のくらし満足度については（図表 I -5-16）、全体、各区とも「満足」と「やや満足」を合計した満足度は約55%である。

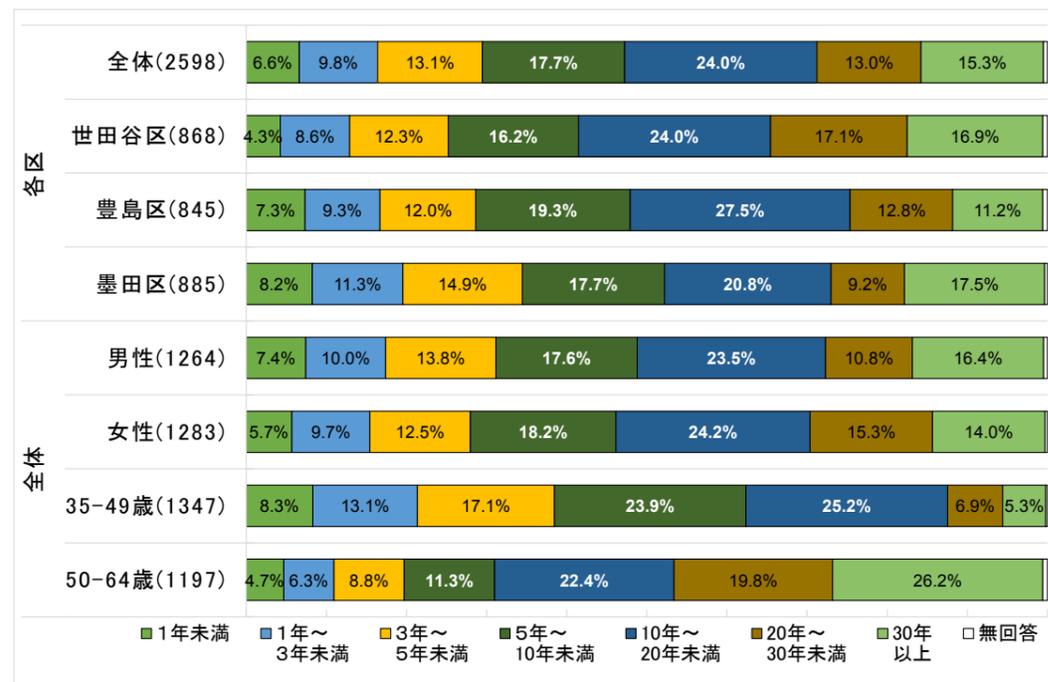
男女別では、「満足」と「やや満足」を合計した満足度は男性が約50%、女性が約60%と、女性の方が満足度が約10ポイント高い傾向がある。年齢別ではあまり大きな差は見られない。

II 調査の結果

1. 居住歴

(1) 居住年数 (問1)

図表 II -1-1 居住年数 (単数回答)



① 全体

居住年数で一番多いのは「10～20年未満」(24.0%)、次いで「5～10年未満」(17.7%)である。居住年数が「5年未満」と短い、または「20年以上」と長いのはそれぞれ約3割である。区別で見ると世田谷区は「20年以上」が他区より多い(34.0%)。逆に墨田区は「5年未満」が他区より多い(34.4%)。

② 男女別

男女別では男性の方がやや居住年数が短い傾向があるがその差は小さい。

③ 年齢別

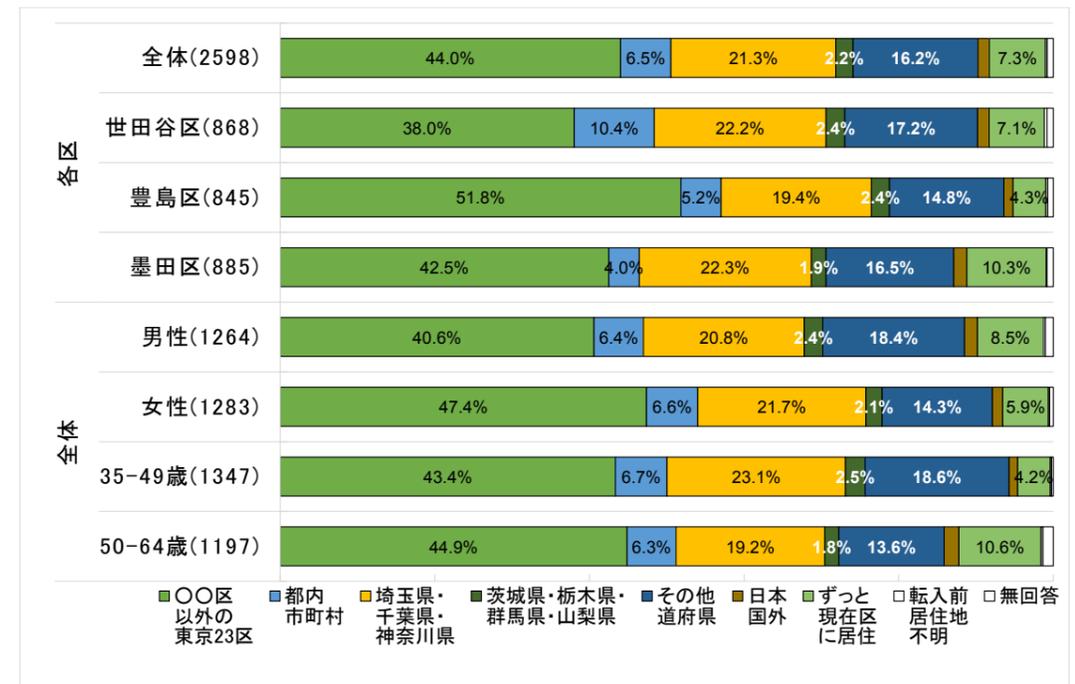
年齢別にみると前期より後期の方が居住年数は長く、「20年以上」が4割を超えるが、世田谷区は特にその割合が大きい(52.9%)。

④ 男女年齢別

居住年数を男女で見ると後期において女性の方が「20年以上」が占める割合が大きい(男性43.7% 女性48.6%)。

(2) 転入前の居住地 (問2)

図表 II -1-2 転入前の居住地 (単数回答)



① 全体

現在在住の区に転入する前の居住地をみると、「区外の東京23区」がもっとも多く(44.0%)、次いで「埼玉・千葉・神奈川県」(21.3%)となっている。「関東圏以外の都道府県」は少ない(16.2%)。区別にみると豊島区は「区外の東京23区」がもっとも多く(51.8%)、墨田区(42.5%)、世田谷区(38.0%)と少なくなる。

② 男女別

女性は男性より「区外の東京23区」が多い。3区とも同じ傾向がみられる。逆に「その他の都道府県」からの転入は男性の方が女性より多い。

③ 年齢別

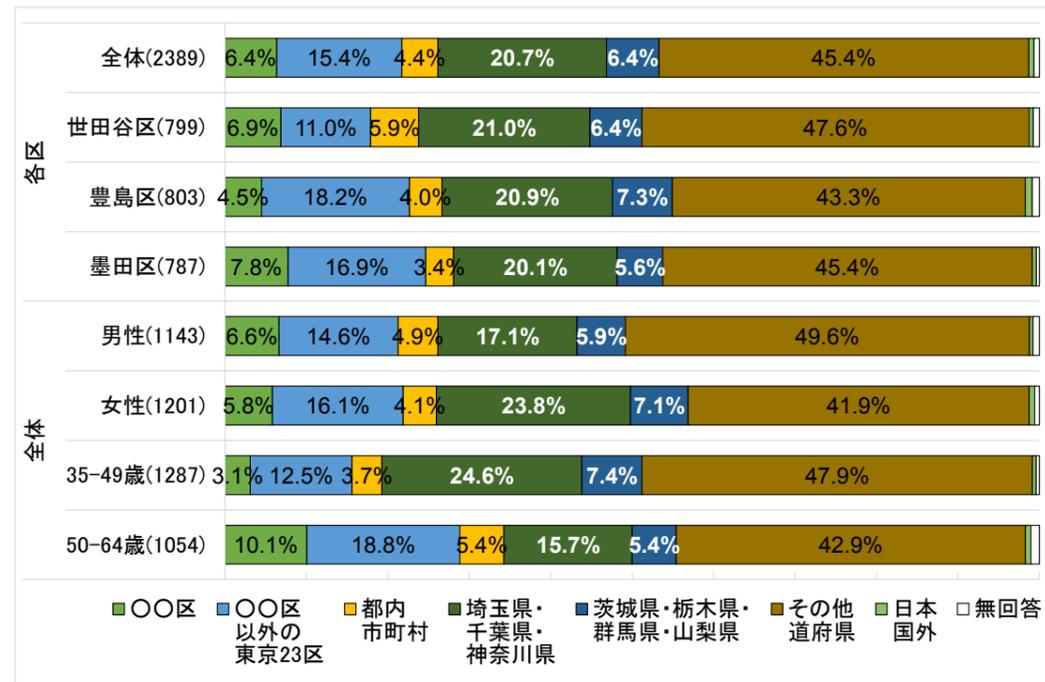
前期の方が「埼玉・千葉・神奈川県」からの転入、「その他の都道府県」からの転入が多い傾向がみられる。この傾向は3区に共通している。

④ 男女年齢別

年齢別の傾向は男女共にみられる。「区外の東京23区」からの転入がもっとも多い豊島区の場合、都内市町村も含めると、東京都からの転入が前期でやや多い。

(3) 中学校時の居住地 (問2-1)

図表 II-1-3 中学校時の居住地 (単数回答)



① 全体

中学校を卒業したときの居住地でもっとも多いのは「その他の都道府県」(45.4%)、次いで「埼玉・千葉・神奈川県」(20.7%)である。「区以外の東京23区」(15.4%)がそれに次いでいる。3区でみると世田谷区で、「居住区以外の東京23区」がやや少ない。

② 男女別

男女別にみると、女性は「埼玉・千葉・神奈川県」が男性より多く(女性23.8%;男性17.1%)、男性は「その他の都道府県」が女性より多い(男性49.6%;女性41.9%)。

③ 年齢別

年齢別にみると、後期は「区以外の東京23区」がより多く(前期12.5%;後期18.8%)、前期は「埼玉・千葉・神奈川県」がより多い(前期24.6%;後期15.7%)。また、前期は「その他の都道府県」がより多い(前期47.9%;後期42.9%)。

④ 男女年齢別

男女共に前期の方が「その他の都道府県」「埼玉・千葉・神奈川県」が多い。

(4) 転入のきっかけ (問2-2)

図表 II-1-4 転入のきっかけ (複数回答/全体・3区計の降順)

	全体・3区計	世田谷区	豊島区	墨田区	男性	女性	35-49歳	50-64歳
合計度数	2389	799	803	787	1143	1201	1287	1054
1.就職・転職など仕事のため	32.1%	31.7%	28.4%	36.3%	38.8%	25.9%	36.6%	26.9%
3.通勤・通学の便利さから	31.0%	28.3%	33.9%	30.9%	31.0%	31.0%	36.4%	24.5%
4.住宅事情	18.4%	17.9%	19.1%	18.2%	17.0%	20.0%	14.9%	23.1%
5.結婚・離婚・死別のため	7.4%	7.3%	7.1%	7.8%	6.2%	8.5%	5.5%	9.7%
7.家族の移動に伴って	4.1%	5.1%	2.9%	4.4%	3.2%	4.6%	2.1%	6.1%
6.家族・親戚との同居・近居のため	4.1%	4.5%	3.6%	4.2%	3.5%	4.7%	1.8%	7.0%
2.入学・進学のため	3.7%	4.6%	5.1%	1.3%	2.9%	4.5%	4.1%	3.1%
8.その他	11.6%	11.8%	13.1%	9.9%	11.0%	11.9%	10.3%	12.9%
無回答	0.7%	0.8%	0.7%	0.5%	0.7%	0.6%	0.6%	0.7%

① 全体

「就職・転職など仕事のため」(32.1%)「通勤・通学の便利さから」(31.0%)がもっとも多い。「住宅事情」(18.4%)がそれらに続く。豊島区は前者が他の2区よりやや少なく、逆に後者がやや多い。

② 男女別

男性は「就職・転職など仕事のため」が女性を上回っている(男性38.8%;女性25.9%)。

③ 年齢別

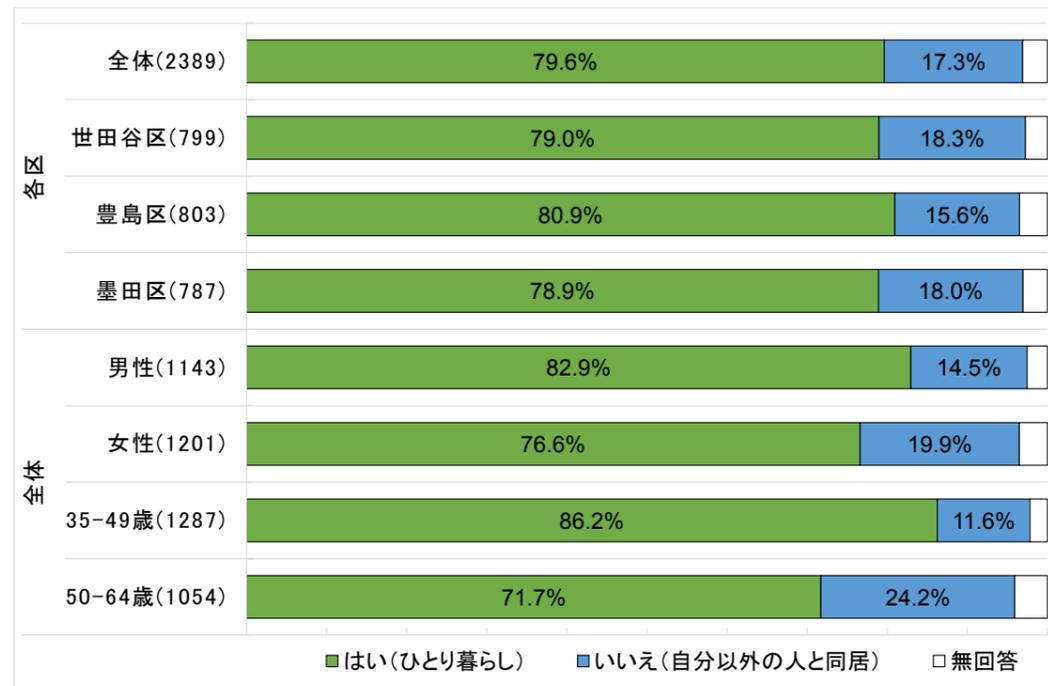
前期の方が「就職・転職など仕事のため」(前期36.6%;後期26.9%)「通勤・通学の便利さから」(前期36.4%;後期24.5%)が後期を上回る。この傾向は3区とも同じである。

④ 男女年齢別

男女共に、年齢による傾向は共通している。

(5) 転入時の世帯形態 (問2-3)

図表Ⅱ-1-5 転入時の世帯形態 (単数回答)



① 全体

現在居住する区に転入の際、79.6%は一人暮らしである。3区の違いはみられない。

② 男女別

転入の際、男性の方の一人暮らしが多い(男性82.9%;女性76.6%)。

③ 年齢別

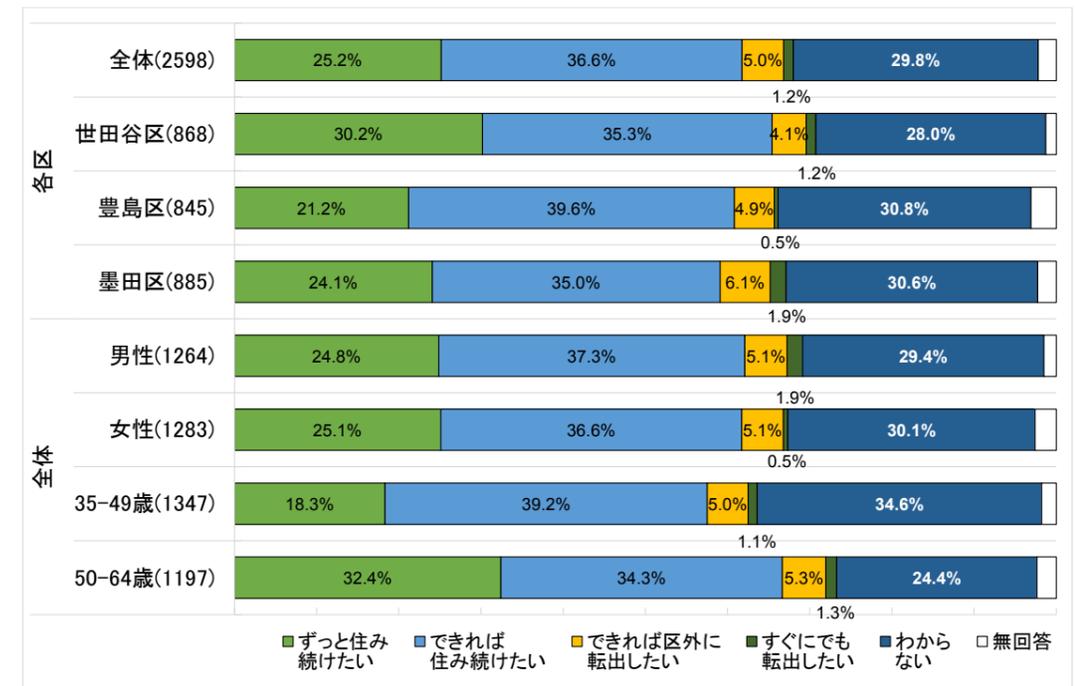
前期の方が後期より一人暮らしが多い(前期86.2%;後期71.7%)。

④ 男女年齢別

男女別、年齢別の傾向と変わらない。

(6) 定住意向 (問3)

図表Ⅱ-1-6 定住意向 (単数回答)



① 全体

「できれば住み続けたい」(36.6%)「ずっと住み続けたい」(25.2%)を合わせて6割強は定住意向をもっている。一方、「わからない」(29.8%)も少なくない。世田谷区は「ずっと住み続けたい」がやや多い。

② 男女別

男女で違いはみられない。

③ 年齢別

前期より後期の方が「住み続けたい」という定住意向が強く、「わからない」は少ない。

④ 男女年齢別

男女による違いはなく、後期の方が定住意向が強い。

(7) 一人暮らしのきっかけ (問4)

図表Ⅱ-1-7 一人暮らしのきっかけ
(複数回答/全体・3区計の降順)

	全体・ 3区計	世田 谷区	豊島 区	墨田 区	男性	女性	35-49 歳	50-64 歳
合計度数	2598	868	845	885	1264	1283	1347	1197
自分の進学・就職のため	31.6%	35.0%	33.0%	26.8%	32.9%	30.9%	40.1%	22.6%
自分の意思による(親元から 離れたくなった など)	21.6%	21.0%	23.1%	20.8%	19.2%	23.6%	24.2%	18.4%
その他、同居する家族との 離別・死別のため	17.4%	18.0%	14.4%	19.7%	19.1%	15.7%	7.9%	28.1%
自分の転勤・転職のため	16.7%	13.2%	16.4%	20.5%	19.9%	13.9%	19.7%	13.5%
同居する家族が結婚により 別世帯となったため	2.9%	3.3%	2.2%	3.2%	0.9%	5.0%	1.1%	5.1%
同居する家族が転勤・転職により 別世帯となったため	1.5%	2.2%	1.4%	0.9%	0.4%	2.5%	1.0%	1.9%
同居する家族が進学・就職により 別世帯となったため	1.3%	1.6%	1.7%	0.8%	0.9%	1.7%	0.7%	2.1%
その他	5.0%	5.1%	4.6%	5.3%	5.2%	4.6%	3.6%	6.3%
無回答	1.9%	0.6%	3.1%	2.1%	1.4%	2.2%	1.6%	2.0%

① 全体

「自分の進学・就職のため」(31.6%)がもっとも多い。次いで「自分の意思による(親元から離れたくなったなど)」(21.6%)、「同居する家族との離別・死別のため」(17.4%)が多い。区による差はあまりない。

② 男女別

男性では「自分の転勤・転職のため」「同居する家族との離別・死別」が女性よりやや多く、女性は「自分の意思による」がやや多い。

③ 年齢別

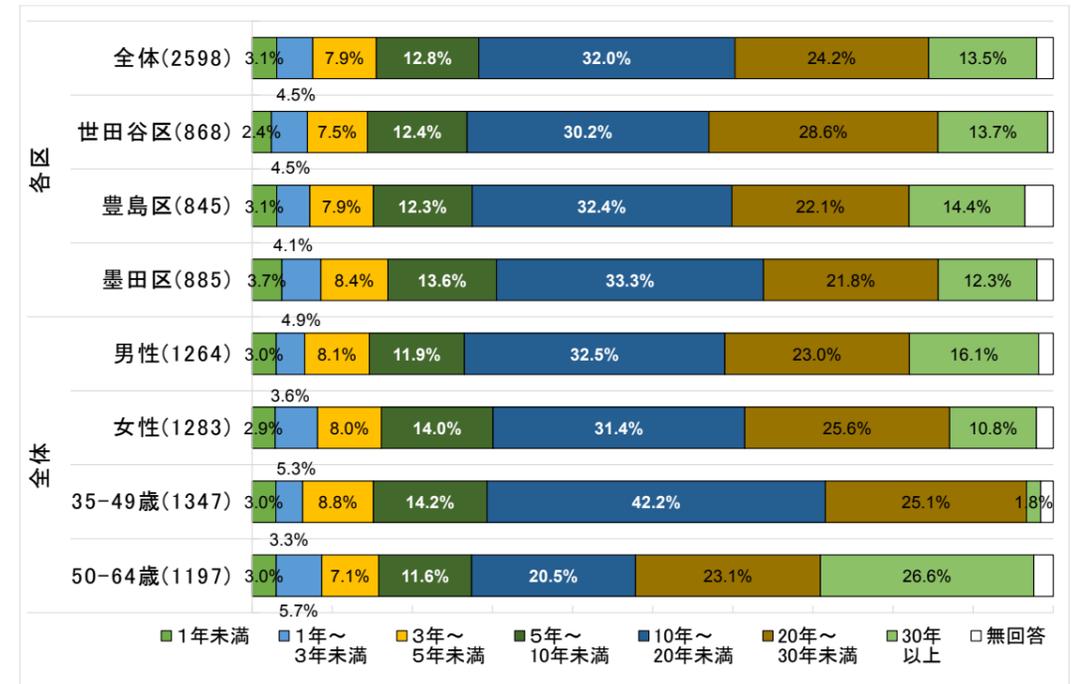
年齢による違いがみられる。前期では「自分の進学・就職のため」(40.1%)「自分の転勤・転職のため」(19.7%)「自分の意思による」(24.2%)が後期より多く、後期では「同居する家族との離別・死別のため」(28.1%)が前期より多い。

④ 男女年齢別

男女共、「進学・就職」や「転勤・転職」は前期の方が多い。逆に「同居する家族との離別・死別」は後期の方が多い。また、「自分の転勤・転職のため」は前期の方が多い。

(8) 一人暮らしの期間 (問5)

図表Ⅱ-1-8 一人暮らしの期間 (単数回答)



① 全体

「10年～20年未満」がもっとも多く(32.0%)、「20年～30年未満」が次いで多い(24.2%)。「30年以上」も13.5%を占めている。区による違いはみられない。

② 男女別

男女の違いはみられない。

③ 年齢別

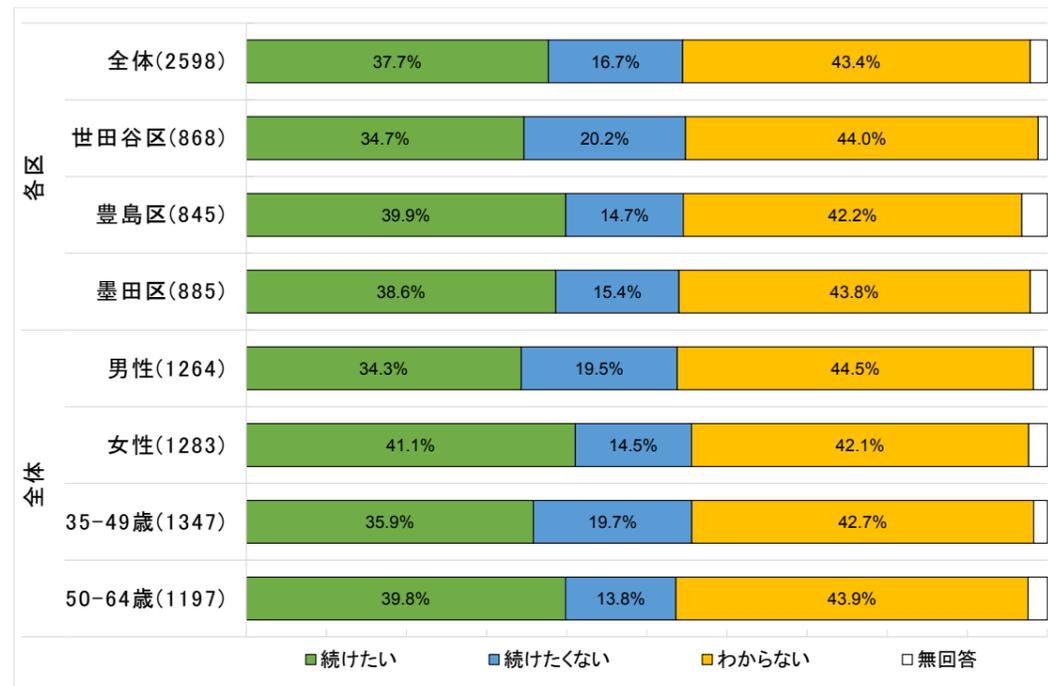
前期の方が「10年～20年未満」が多く(42.2%)、「30年以上」は後期の方が多い(26.6%)。

④ 男女年齢別

男女共に、前期の方が「10年～20年未満」が多く、「30年以上」は後期の方が多い。

(9) 一人暮らしの継続意向 (問6)

図表Ⅱ-1-9 一人暮らしの継続意向 (単数回答)



① 全体

一人暮らしを続けたいかどうかに関しては、「わからない」が多数 (43.4%) を占め、次いで「続けたい」(37.7%)が多い。世田谷区は「続けたくない」がやや多い。

② 男女別

女性の方が「続けたい」が多く (男性34.3%；女性41.1%)、男性は「続けたくない」が女性より多い。

③ 年齢別

前期より後期の方が「続けたい」が多く、「続けたくない」は少ない。ただし、豊島区は年齢による違いはみられない。

④ 男女年齢別

女性は男性より年齢による違いが大きく、後期の方が「続けたい」(45.5%)が多く、「続けたくない」(9.9%)が少ない。ただし豊島区では男女ともに年齢による違いはみられない。

2. 住宅

(1) 住宅形態 (問7)

図表Ⅱ-2-1 住宅形態 (単数回答)

	全体・3区計	世田谷区	豊島区	墨田区	男性	女性	35-49歳	50-64歳
合計度数	2598	868	845	885	1264	1283	1347	1197
賃貸マンション・アパート	62.1%	63.8%	65.3%	57.4%	64.9%	59.5%	74.8%	48.1%
分譲マンション・アパート	21.4%	21.0%	20.4%	22.9%	16.7%	26.2%	15.0%	28.8%
持ち家の一戸建て	7.0%	6.8%	6.0%	8.0%	7.7%	6.2%	2.4%	11.9%
社宅・借上社宅・公務員官舎	3.0%	2.2%	2.7%	4.2%	4.8%	1.4%	3.5%	2.7%
賃貸のUR都市機構・公社のマンション・アパート	2.3%	3.7%	0.8%	2.4%	2.4%	2.3%	1.7%	2.9%
都営・区営住宅	1.0%	0.7%	0.2%	2.0%	0.7%	1.2%	0.3%	1.8%
その他	0.8%	0.8%	0.9%	0.7%	0.6%	1.0%	0.4%	1.2%
賃貸の一戸建て	0.7%	0.5%	0.7%	0.8%	0.9%	0.4%	0.4%	1.0%
持ち家(一戸建てか分譲マンション・アパートか不明)	0.0%	-	-	0.1%	-	0.1%	-	0.1%
無回答	1.6%	0.6%	2.8%	1.5%	1.3%	1.7%	1.5%	1.5%

① 全体

「賃貸マンション・アパート」(62.1%)が多数を占めている。「分譲マンション・アパート」(21.4%)がそれに次いでいる。区別で見ると、「賃貸マンション・アパート」は墨田区でやや少ない。その代わりに、割合は小さいが「都営・区営住宅」「社宅・借り上げ社宅・公務員官舎」がやや多い。

② 男女別

「賃貸マンション・アパート」は男性が女性よりやや多く、逆に女性は「分譲マンション・アパート」が男性より多い。

③ 年齢別

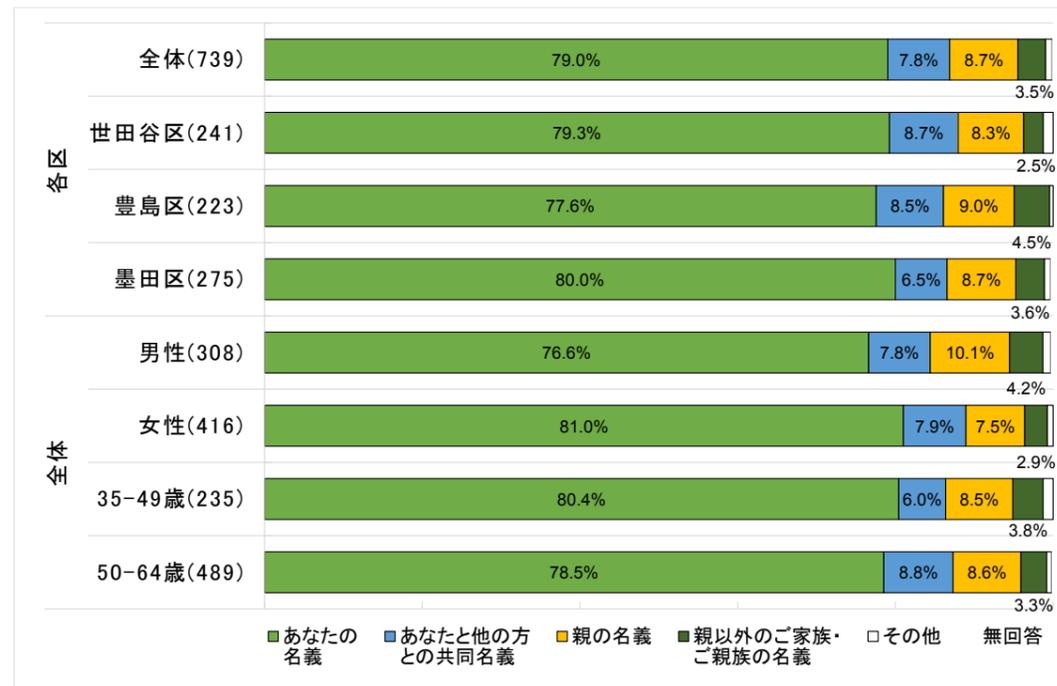
「賃貸マンション・アパート」は前期 (74.8%)より後期 (48.1%)で少ない。逆に「分譲マンション・アパート」(前期15.0%；後期28.8%)、「持ち家の一戸建て」(前期2.4%；後期11.9%)は後期の方が多い。

④ 男女年齢別

男女共に「賃貸マンション・アパート」が前期ほど多く、「分譲マンション・アパート」は後期ほど多い。その傾向は女性の方がはっきりしている。

(2) 住宅の所有名義 (問7-1)

図表 II -2-2 住宅の所有名義 (単数回答)



① 全体

「本人の名義」(79.0%)がもっとも多い。その他に、「共有名義」「親の名義」「親以外の家族・親族の名義」などがある。区別の違いはみられない。

② 男女別

女性の方が男性よりやや「本人の名義」が多い。

③ 年齢別

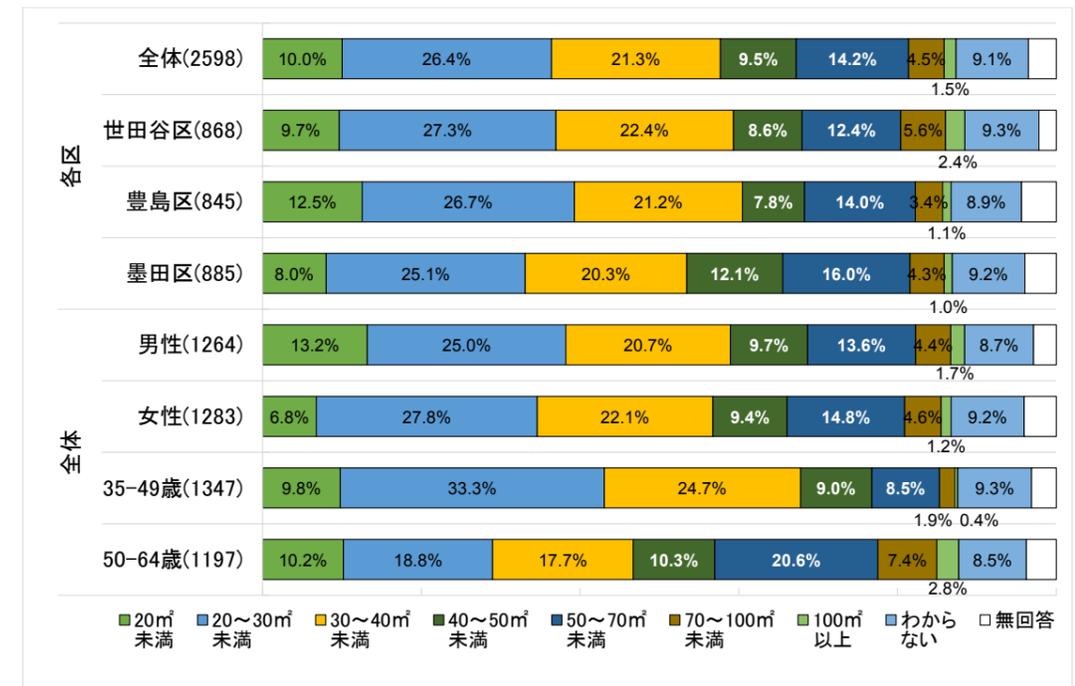
年齢による違いはみられない。

④ 男女年齢別

女性の方が「本人の名義」がやや多いが、年齢による違いはみられない。

(3) 住宅の床面積 (問8)

図表 II -2-3 住宅の床面積 (単数回答)



① 全体

「20~30㎡未満」(26.4%)「30~40㎡未満」(21.3%)が多数を占める。「50~70㎡未満」(14.2%)がそれに続いている。賃貸と分譲の違いが大きいだろう。墨田区は「40~50㎡未満」「50~70㎡未満」が他区よりやや多い。

② 男女別

女性は男性より「20㎡未満」がやや少ない。その他には大きな違いはない。

③ 年齢別

前期の方が後期より「40㎡未満」が多く、逆に「50㎡以上」は後期の方がより多い。

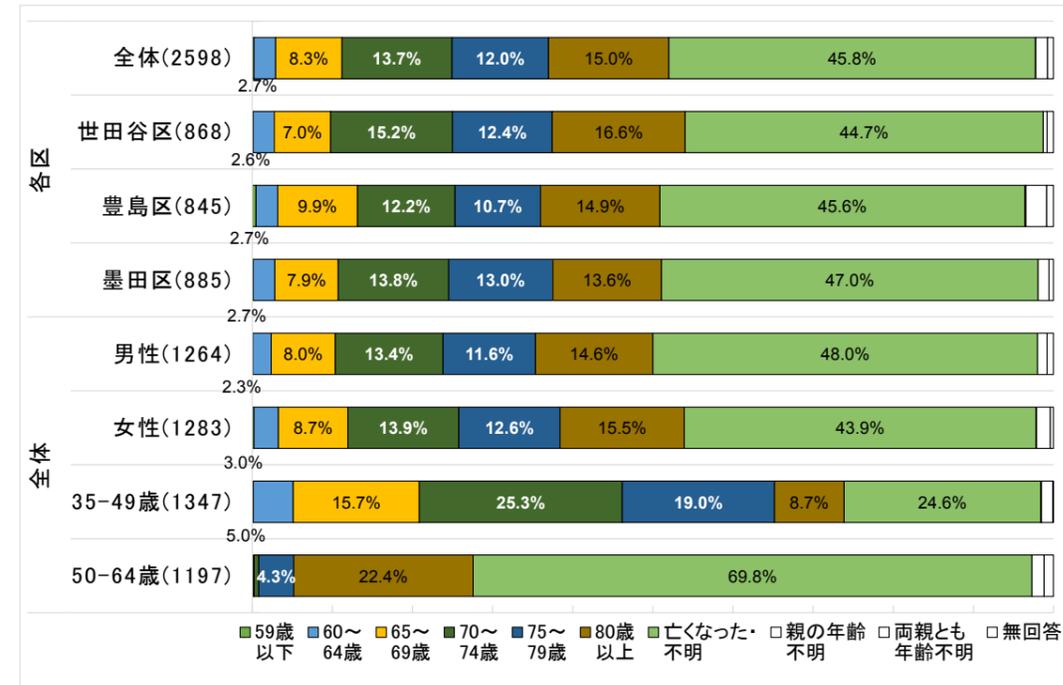
④ 男女年齢別

男女共に、前期より後期の方が床面積の小さい住宅は減少し、床面積の大きい住宅が増加している。

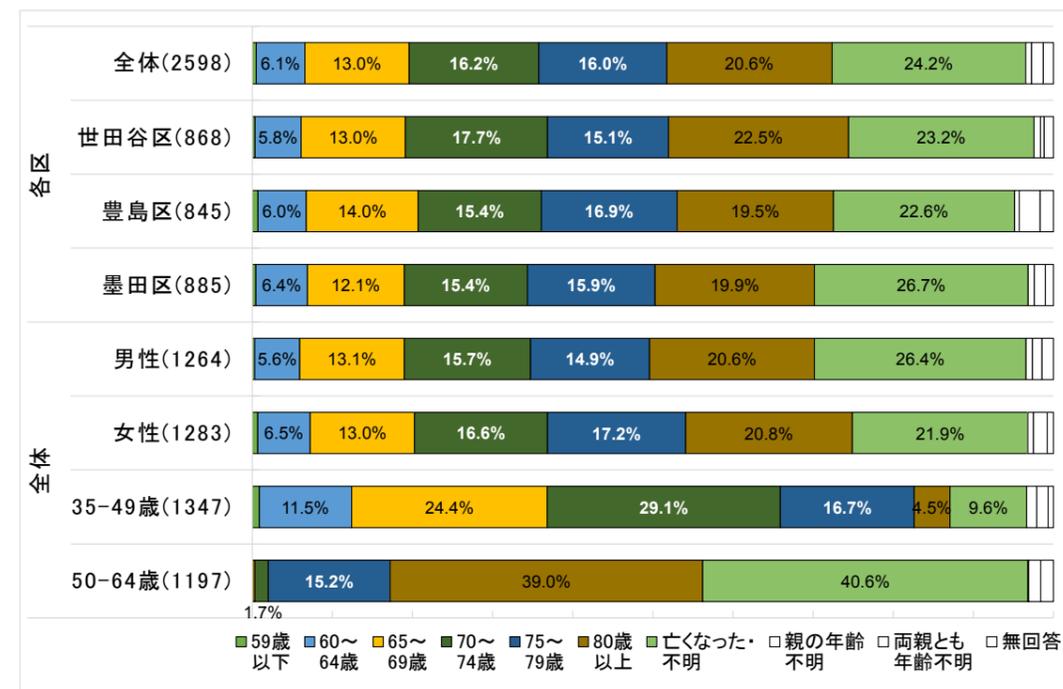
3. 親との関係

(1) 両親の年齢 (問9 (1))

図表Ⅱ-3-1 父親の年齢 (単数回答)



図表Ⅱ-3-2 母親の年齢 (単数回答)



① 全体

父親に関しては、半数近く(45.8%)が亡くなっている。母親に関しては、亡くなったのは24.2%で、80歳以上が20.6%、70代後半が16.0%である。区による差はみられない。

② 男女別

父親・母親共に、男性の方が女性より親の年齢が高く、亡くなっている割合も大きい。

③ 年齢別

父親に関しては、前期では70代前半が一番多く(25.3%)、24.6%は亡くなっている。後期では69.8%が亡くなり、生存している場合の年齢は80歳以上が多数を占める。

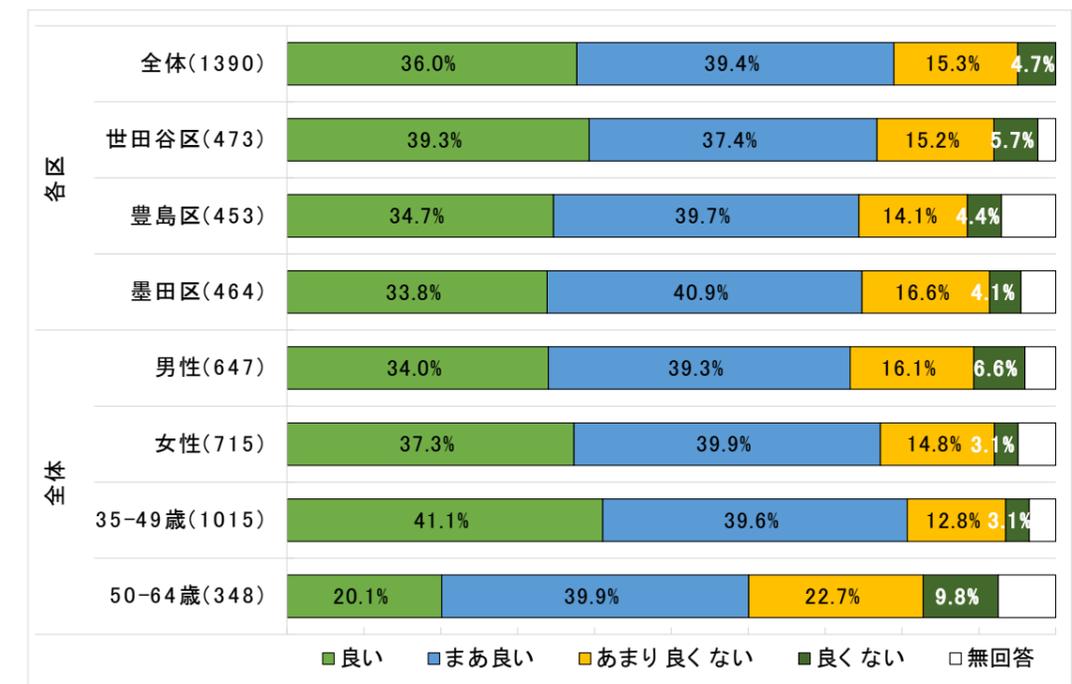
母親に関しては、前期では亡くなっているのは9.6%と少なく、70代前半(29.1%)と60代後半(24.4%)が多数を占める。後期では40.6%が亡くなり、39%が80歳以上である。

④ 男女年齢別

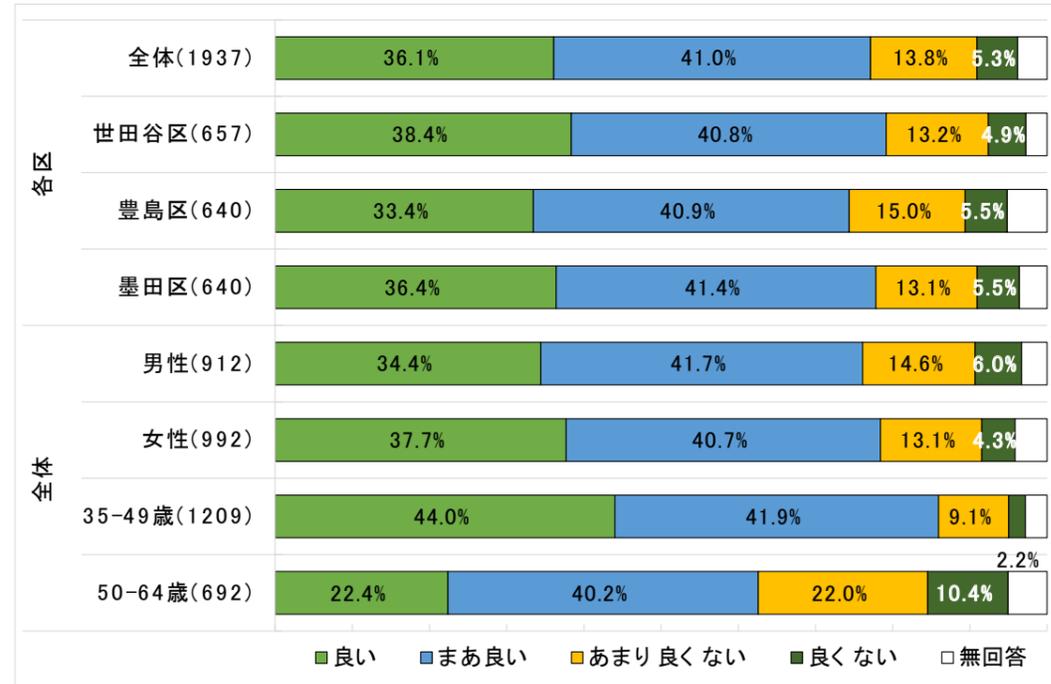
父親、母親ともに男性の方が前期より後期でより多く亡くなっている。

(2) 両親の健康状態 (問9 (2))

図表Ⅱ-3-3 父親の健康状態 (単数回答)



図表Ⅱ-3-4 母親の健康状態（単数回答）



① 全体

父母共に、健康状態が「良い」「まあ良い」が7割強を占める。

② 男女別

父親・母親共に、女性の方が「良い」「まあ良い」がやや多い。

③ 年齢別

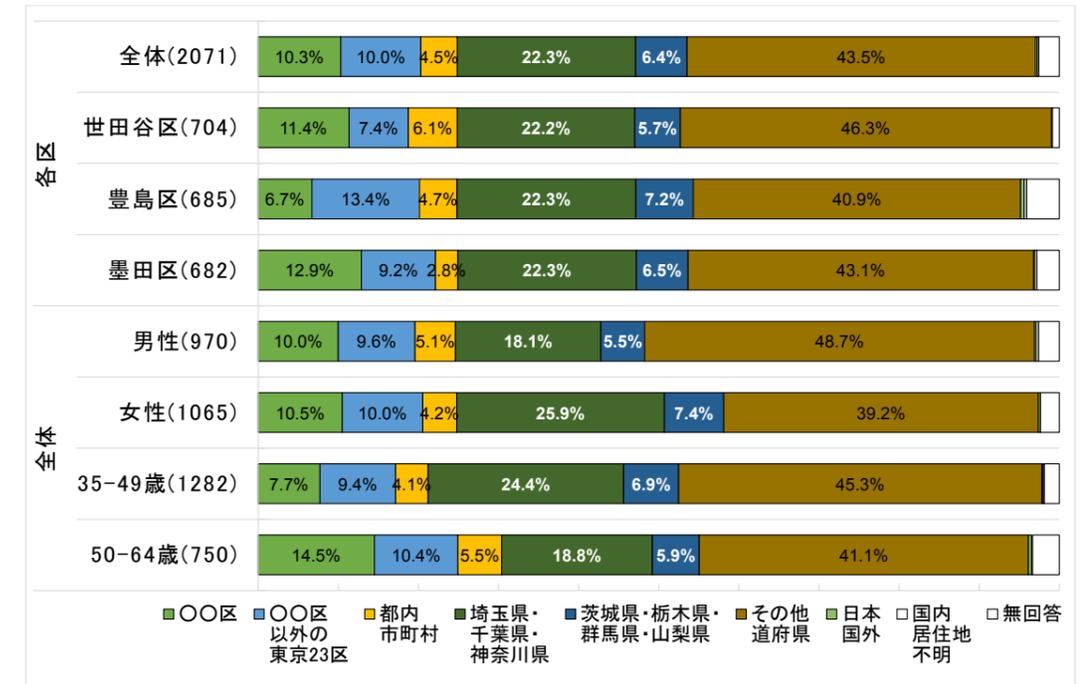
前期より後期の方が健康状態が「あまり良くない」「良くない」人が多い（前期父親15.9%；後期父親32.5%、前期母親11.3%；後期母親32.4%）である。

④ 男女年齢別

父親に関しては女性の方が後期になっても「良い」「まあ良い」が多い。母親に関しては父親ほどの違いは見られない。

(3) 親の居住地（問9（3））

図表Ⅱ-3-5 親の居住地（単数回答）



① 全体

親の居住地でもっとも多いのは「その他の道府県」（43.5%）、次に多いのは「埼玉・千葉・神奈川県」（22.3%）である。逆に、「同じ区内」（10.3%）および「区外の東京23区」（10.0%）が2割を占めている。

② 男女別

女性は男性より「埼玉・千葉・神奈川県」が多く（男性18.1%；女性25.9%）、逆に男性は女性より「その他の道府県」が多い（男性48.7%；女性39.2%）。

③ 年齢別

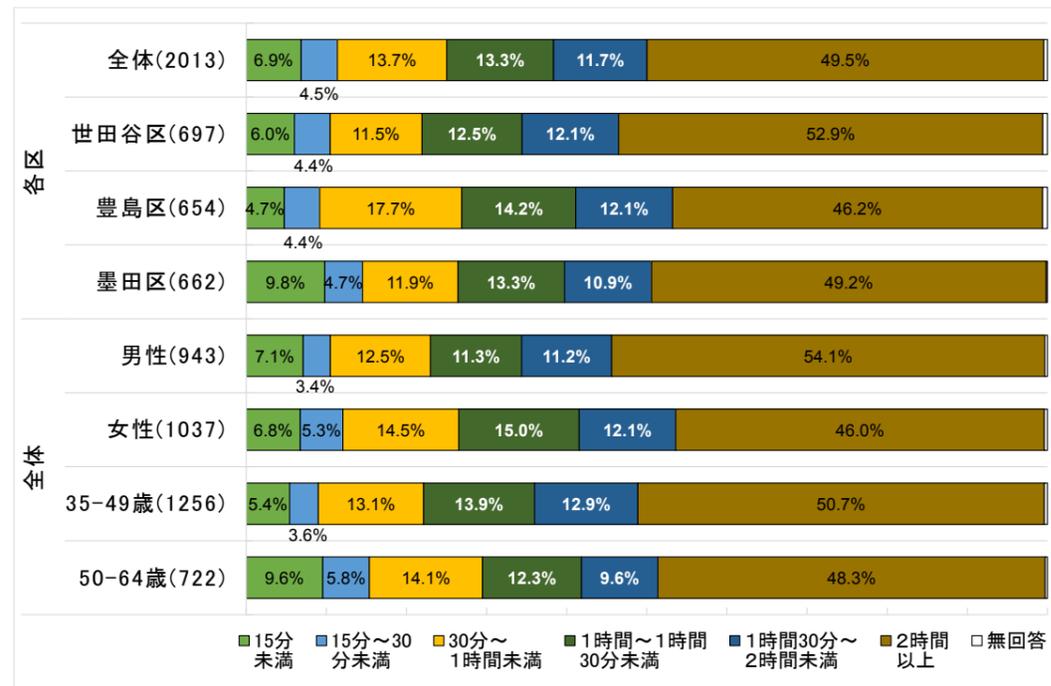
前期の方が後期より「その他の道府県」「埼玉・千葉・神奈川県」が多い。一方、後期の方が「区内」がやや多い。

④ 男女年齢別

男女共に、後期の方が「同じ区内」が多い。また男性は、前期の方が「埼玉・千葉・神奈川県」が多い。

(4) 親の住まいまでの移動時間 (問9 (3) - 1)

図表Ⅱ-3-6 親の住まいまでの移動時間 (単数回答)



① 全体

「2時間以上」がもっとも多い(49.5%)。一方、「15分未満」(6.9%)「15分~30分未満」(4.5%)「30分~1時間未満」(13.7%)など1時間未満の範囲に親がいる人が4人に1人はいる。

② 男女別

「2時間以上」は男性の方が多。その傾向は豊島区、墨田区に見られる。

③ 年齢別

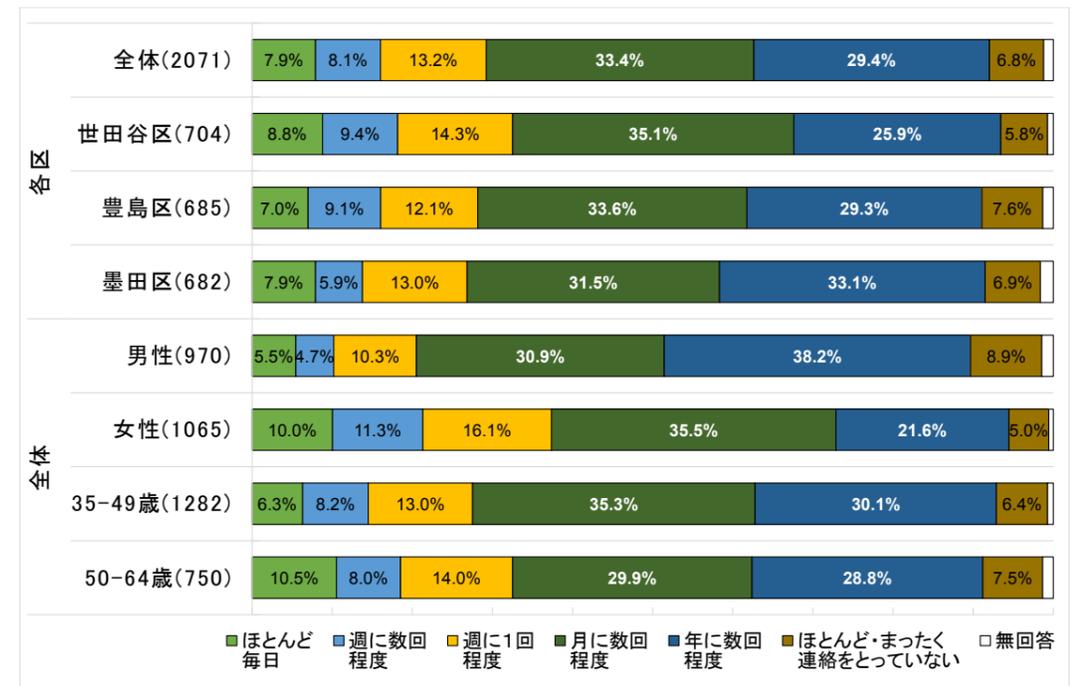
後期の方が多少ではあるが30分未満の近いところに親が住む例が多くなっている。

④ 男女年齢別

女性は前期より後期で「15分未満」(9.5%)「15分~30分未満」(7.8%)「30分~1時間未満」(15.7%)など1時間未満の範囲に親がいる人が33.0%(男性は25.9%)と多い。一方、男性は女性より「2時間以上」の遠方に親がいる人が多く、前期と後期で割合は変わらない。

(5) 親との連絡頻度 (問9 (4))

図表Ⅱ-3-7 親との連絡頻度 (単数回答)



① 全体

「月に数回程度」(33.4%)「年に数回程度」(29.4%)が多い。「ほとんど毎日」「週に数回程度」「週に1回程度」など、頻度が高い人が29.2%いる。一方、「ほとんど・まったく連絡をとっていない」(6.8%)は少ない。

② 男女別

女性は「ほとんど毎日」から「月に数回程度」まで、親と連絡をとる頻度が男性より多い。男性は「年に数回程度」(38.2%)がもっとも多く、しかも女性との差が大きい。

③ 年齢別

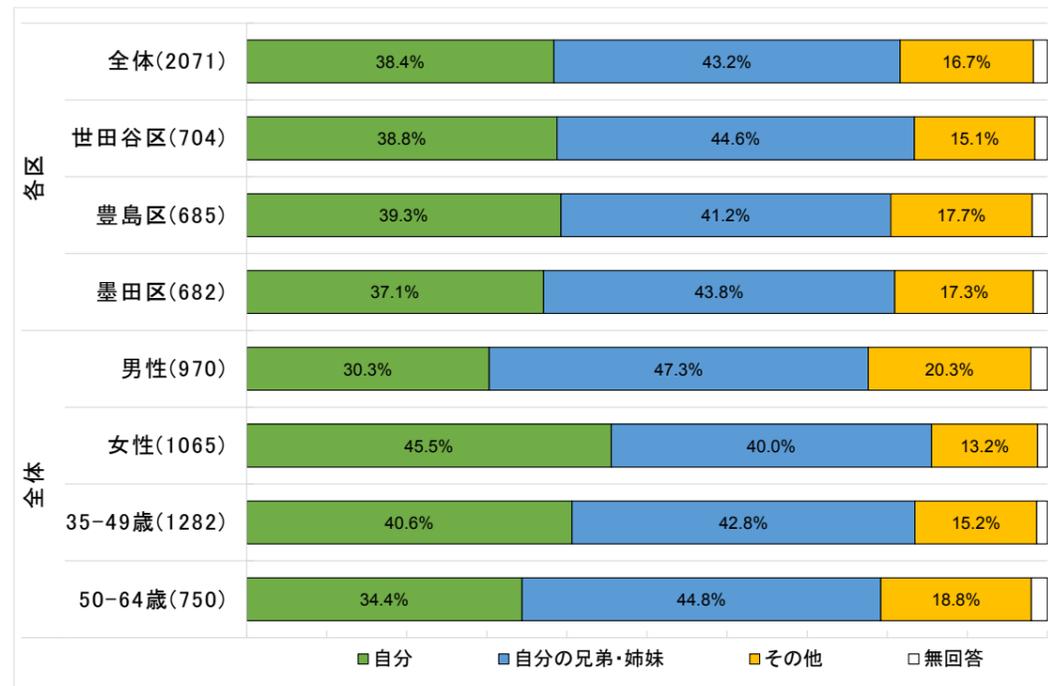
「ほとんど毎日」は後期の方が多く、「月に数回程度」は前期の方が多く、それ以外では年齢による差はない。

④ 男女年齢別

男女共に後期の方が「ほとんど毎日」「週に数回程度」「週に1回程度」が多いが、女性の方がその割合は大きい。他方、男性は「ほとんど・まったく連絡をとっていない」が前期より後期の方が多(前期7.8%;後期10.6%)。

(6) 親の介護担当者 (問9 (5))

図表Ⅱ-3-8 親の介護担当者 (単数回答)



① 全体

親の介護が必要になったとき、主に介護をするのは誰になるのかを聞いた結果、「自分の兄弟・姉妹」(43.2%)がもっとも多い。「自分」(38.4%)がそれに続く。「その他」(16.7%)と答える人もいる。

② 男女別

男性は「自分の兄弟・姉妹」(47.3%)がもっとも多く、「自分」(30.3%)が次に多い。女性は、「自分」(45.5%)がもっとも多く、「自分の兄弟・姉妹」(40.0%)が次に多い。

③ 年齢別

後期の方が「自分」が少なく「自分の兄弟・姉妹」が多い。

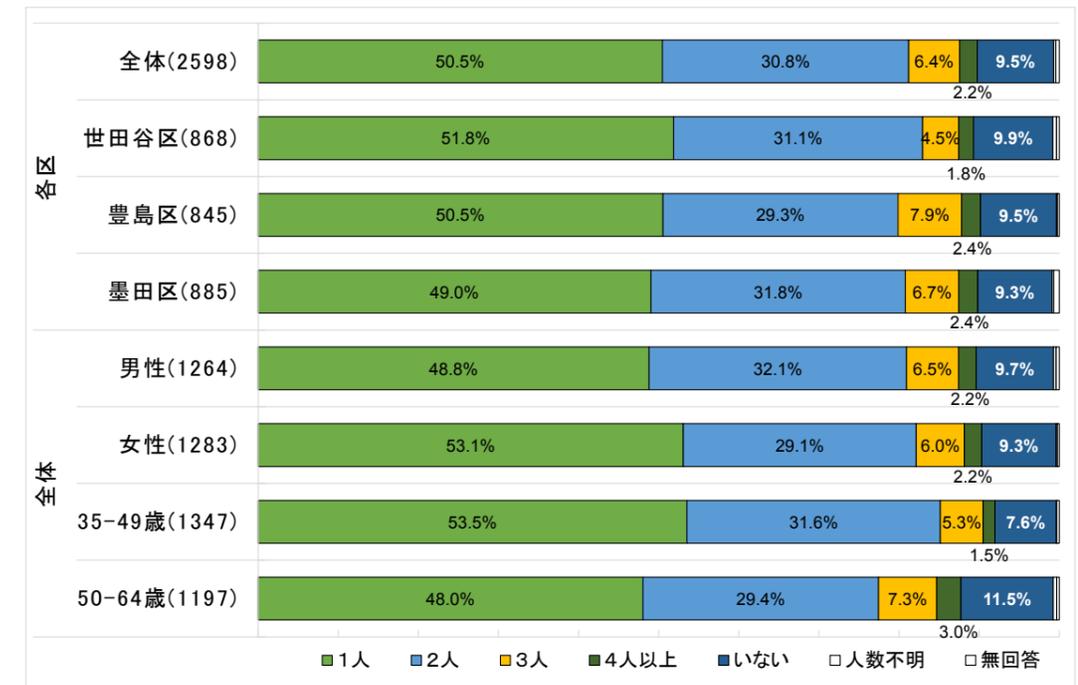
④ 男女年齢別

男性は「自分」と答える人が前期より後期で少ない。女性は年齢による差がなく、男性より「自分」と答える割合が大きい。

4. 兄弟・姉妹との関係

(1) 兄弟・姉妹の人数 (問10)

図表Ⅱ-4-1 兄弟・姉妹の人数 (単数回答)



① 全体

兄弟・姉妹の人数は1人がもっとも多く(50.5%)、2人が次に多い(30.8%)。「兄弟・姉妹はいない」は9.5%である。

② 男女別

男性の方が「1人」が少なく「2人」が多い。

③ 年齢

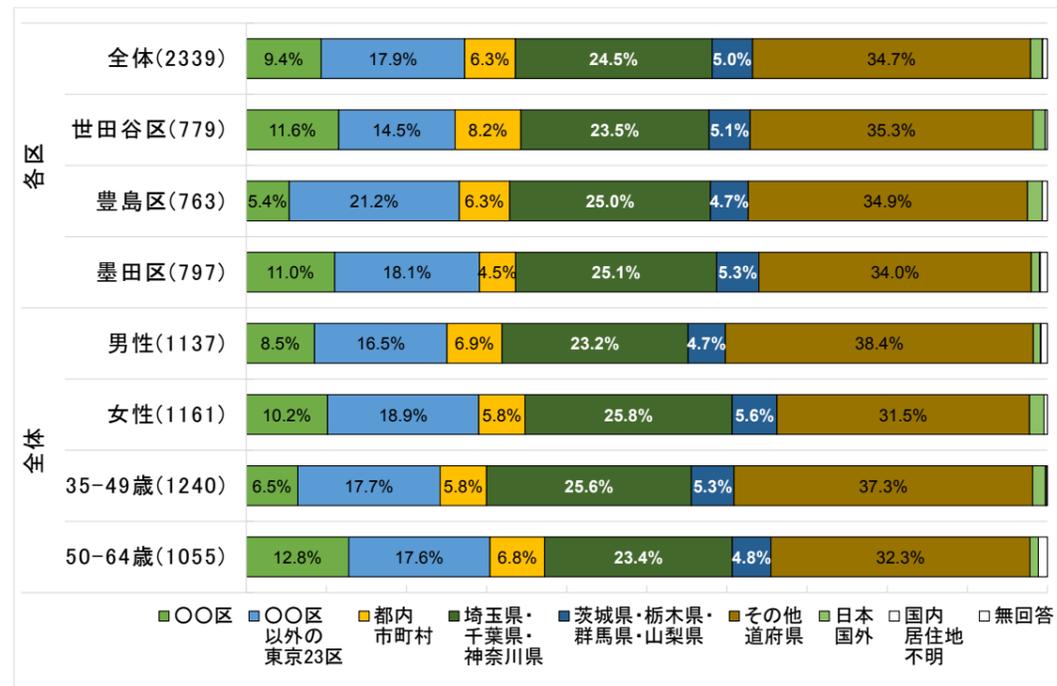
前期より後期の方が「1人」「2人」がやや少ない。また、「兄弟・姉妹はいない」がやや多い。

④ 男女年齢別

男女共に前期より後期の方が兄弟・姉妹の数の多い人がやや多い傾向がみられる。

(2) 最も親しい兄弟・姉妹の居住地 (問10-1)

図表Ⅱ-4-2 最も親しい兄弟・姉妹の居住地 (単数回答)



① 全体

「その他の道府県」(34.7%)「埼玉・千葉・神奈川県」(24.5%)が多い。一方、「区内」(9.4%)「区外の東京23区」(17.9%)を合わせると27.3%の人が23区内に親しくしている兄弟・姉妹がいる。

② 男女別

女性より男性の方が、「その他道府県」がやや多い。

③ 年齢別

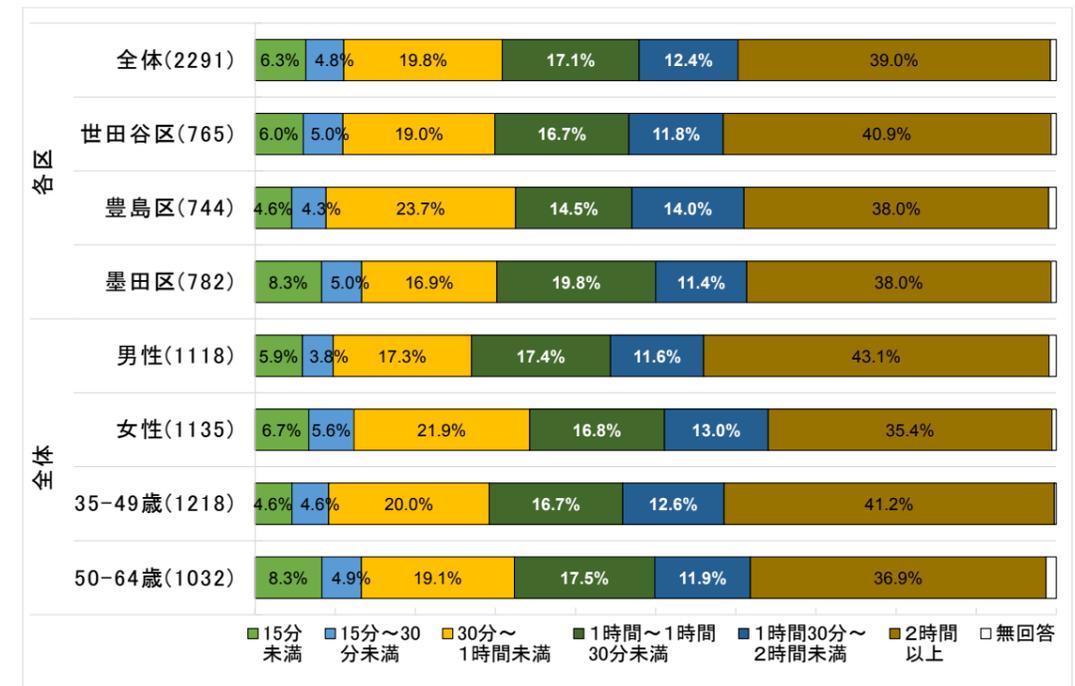
「その他道府県」は前期の方が多。逆に「区内」は後期の方が多。区別にみると世田谷区と墨田区は「区内」が後期でより多く、「その他道府県」は後期ではより少ない。豊島区は「区内」「区外の東京23区」が後期でより多い。

④ 男女年齢別

男女ともに、前期より後期の方が「その他道府県」が少ない。また、前期より後期の方が「区内」にいる人が多い。

(3) 兄弟・姉妹の住まいまでの移動時間 (問10-2)

図表Ⅱ-4-3 兄弟・姉妹の住まいまでの移動時間 (単数回答)



① 全体

「2時間以上」がもっとも多い(39.0%)。一方、5人に1人は「15分未満」(6.3%)「15分～30分未満」(4.8%)「30分～1時間未満」(19.8%)など1時間未満の範囲に兄弟・姉妹がいる。

② 男女別

「2時間以上」は男性の方が多。その傾向は3区に共通している。

③ 年齢別

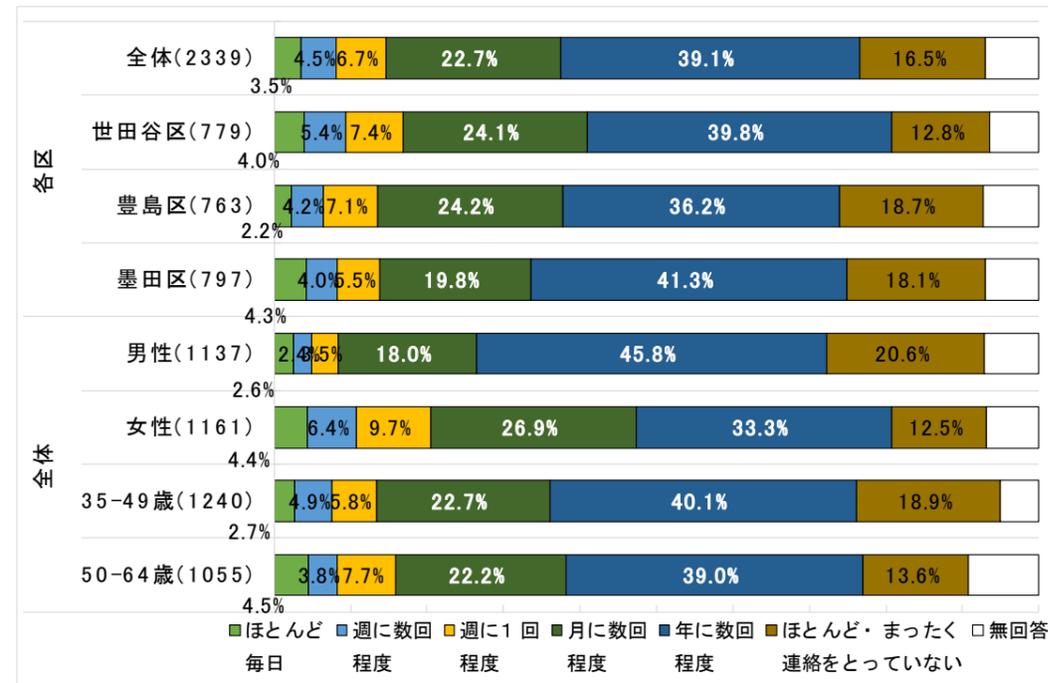
「2時間以上」は前期の方が多。また、後期は前期より「15分未満」が多い。それ以外では年齢による違いはみられない。この点について区別にみると、世田谷区は前期の方が「2時間以上」がやや多く、「1時間30分～2時間未満」は後期の方がやや多い。

④ 男女年齢別

女性は後期の方が1時間程度の近距離に住む率が高く、2時間以上の遠距離に住む率は低い。男性は後期の方が「15分未満」がやや多く、2時間以上はやや少ないが、それ以外では移動時間には差はみられない。

(4) 兄弟・姉妹との連絡頻度 (問10-3)

図表Ⅱ-4-4 兄弟・姉妹との連絡頻度 (単数回答)



① 全体

「年に数回程度」(39.1%)がもっとも多く、「月に数回程度」(22.7%)が次に多い。「ほとんど・まったく連絡をとっていない」は16.5%である。

② 男女別

女性の方が男性より「ほとんど毎日」から「月に数回程度」まで連絡をとる頻度が高い。男性の20.6%は「ほとんど・まったく連絡をとっていない」。女性は12.5%である。

③ 年齢別

「ほとんど・まったく連絡をとっていない」が後期は前期よりやや少ない。逆に、「ほとんど毎日」「週に1回程度」は人数は少ないが後期の方が前期よりやや多い。

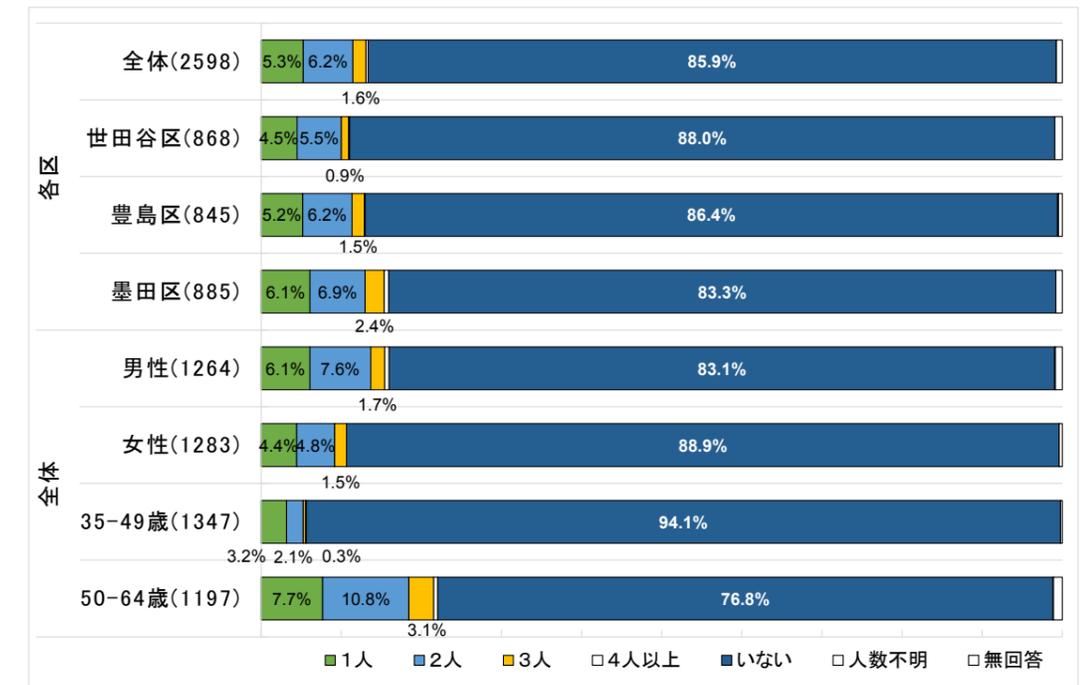
④ 男女年齢別

男性より女性の方が連絡の頻度は高いが、男女共に後期の方が頻度がやや高くなっている。

5. 子どもとの関係

(1) 子ども的人数 (問11)

図表Ⅱ-5-1 子ども的人数 (単数回答)



① 全体

子どもがいると回答した人は全体で約13%であった。そのうちの8割以上が子どもの数は「1人」ないし、「2人」と答えている。各区を見てみると、墨田区ではやや子どもがいる単身者が多く(約16%)、世田谷区(約11%)との差がみられる。豊島区はその中間(約13%)である。

② 男女別

男女別にみると、「子どもがいる」と答えた単身者は女性(10.7%)にくらべて男性の方が多い。(16.0%)

③ 年齢別

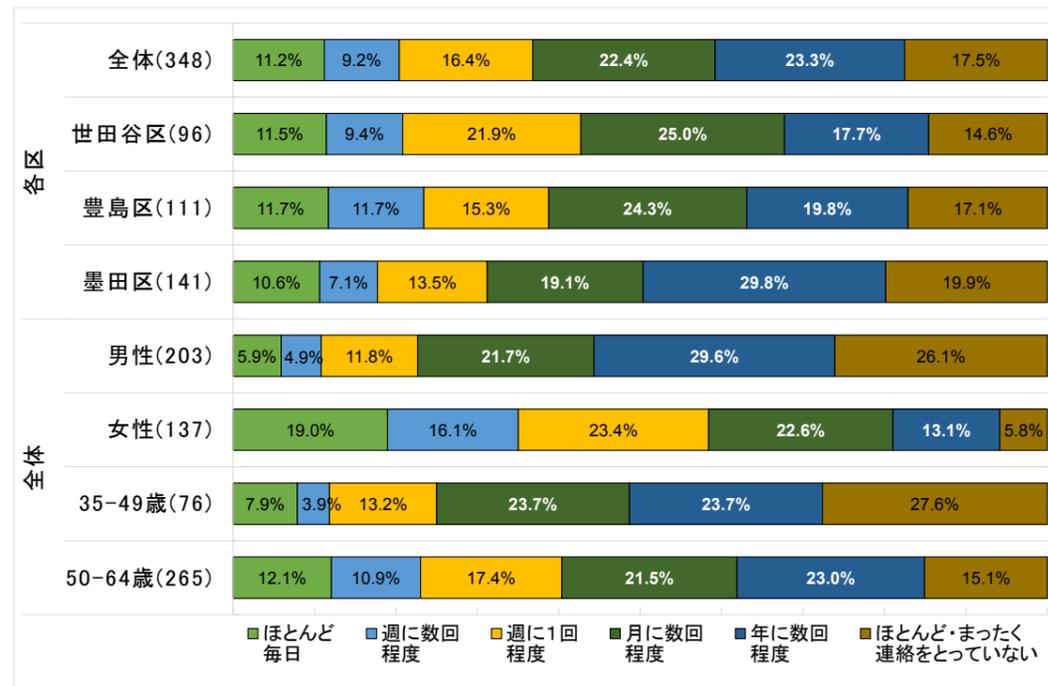
後期では子どものいる割合が上がるが(5.7%→22.1%)、子どもが1人という単身者に限って見てみると、前期(3.2%)と、後期(7.7%)との差が比較的少ないことがみられる。

④ 男女年齢別

前期の男性は子どもがいるが単身者であるケースが前期女性と比べて多い(5%対1.4%)。一方で後期では子どもの有無について男女の違いはほぼみられない。

(2) 子どもとの連絡頻度 (問11-1)

図表Ⅱ-5-2 子どもとの連絡頻度 (単数回答)



人の割合は男性（24.6％）が女性（4.1％）を大きく上回る。一方で前期は男女の差はさほど大きくはない（29.5％と21.4％）。また後期の男性は半数以上が連絡の頻度が低いもしくは皆無の状態である一方、後期の女性はその割合2割以下である。

① 全体

子どもがいると回答した人の中では、週に1回以上連絡をとっている人が全体の4割近くに達するのに対し、「ほとんど・まったく連絡をとっていない」もしくは「年に数回程度」という人もほぼ同数いることがわかる。区の違いをみると、墨田区では子どもとの連絡頻度が低い、もしくは皆無という人が他区に比べてやや多い。

② 男女別

子どもとの連絡頻度は男性では低く、女性では高いことがうかがえる。特に女性では「ほとんど・まったく連絡をとっていない」人は5.8%に過ぎないが、男性では4分の1が連絡を取っておらず、「年に数回程度」という人を加えるとおよそ6割が連絡頻度が低い、もしくは皆無である。

③ 年齢別

年齢別では後期単身者がより活発なコミュニケーションをとっていることが読み取れる。連絡を「ほとんど・まったく連絡をとっていない」人は前期が後期の倍程度と高い。

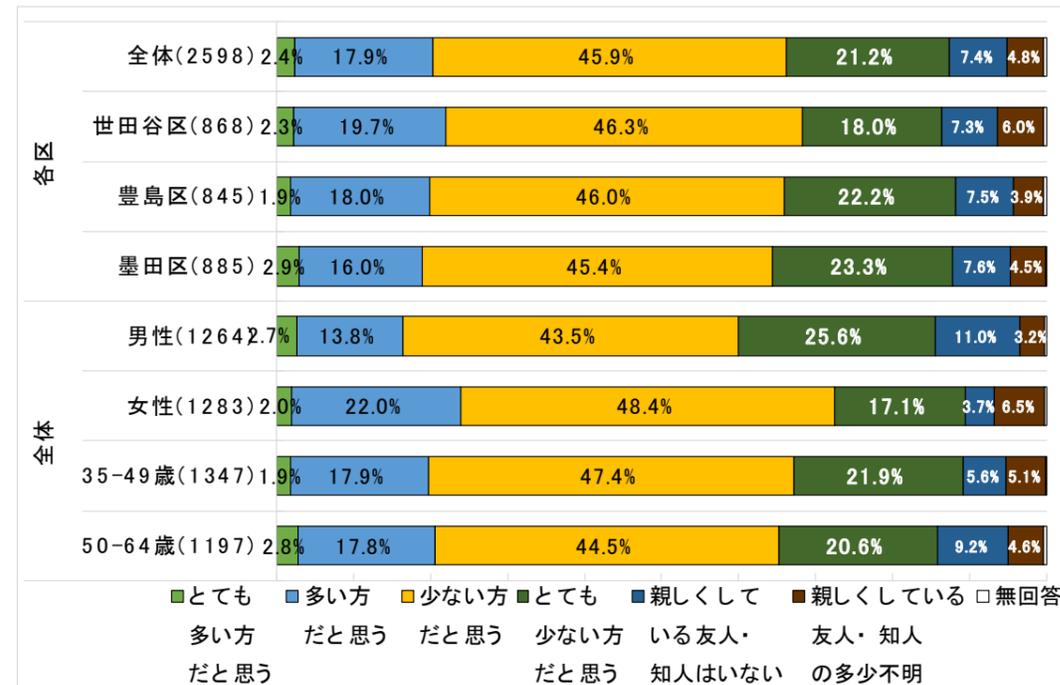
④ 男女年齢別

男女年齢別では、後期においては「ほとんど・まったく連絡をとっていない」

6. 友人・知人との関係

(1) 友人・知人の多寡 (問12)

図表Ⅱ-6-1 友人・知人の多寡 (単数回答)



① 全体

親しくしている友人・知人の数については、「少ない方だと思う」であると答える人が約半数となっている。一方で「多い方だと思う」もしくは「とても多い方だと思う」という人が2割、「とても少ない方だと思う」もしくは「いない」と答えた人が3割ほどいる。区による違いはほとんど見られないが、世田谷区でわずかに「とても少ない方だと思う」と答えた割合が他区と比べて少ない。

② 男女別

男女別にみると「少ない方だと思う」と答えた人の差異はそれほど大きくないが、一方で「とても少ない方だと思う」「いない」と答えた男性は女性の倍程度いることがわかる。

③ 年齢別

年齢別には友人の多寡はあまり違いがみられないが、「いない」と答える人の割合が後期では前期と比較してやや多い(前期5.6%:後期9.2%)。

④ 男女年齢別

男女年齢別では傾向に大きな違いはみられない。

(2) 友人・知人の種類 (問12-1)

図表Ⅱ-6-2 友人・知人の種類 (複数回答/全体・3区計の降順)

	全体・3区計	世田谷区	豊島区	墨田区	男性	女性	35-49歳	50-64歳
合計度数	2395	801	778	816	1121	1232	1269	1082
2.仕事関係の友人・知人(元同僚などを含む)	69.4%	73.2%	69.7%	65.3%	63.7%	74.9%	69.6%	69.3%
1.学校時代の友人・知人	57.9%	62.5%	56.8%	54.4%	52.2%	63.4%	62.3%	53.1%
3.趣味を通じた友人・知人	37.9%	41.3%	38.9%	33.6%	32.3%	43.3%	40.3%	35.3%
6.近所の友人・知人	8.8%	8.6%	8.1%	9.6%	8.0%	9.7%	5.3%	13.0%
4.地域活動・社会活動を通じた友人・知人	6.3%	5.4%	7.1%	6.6%	6.3%	6.2%	4.3%	8.4%
7.インターネット上の友人・知人	6.2%	5.6%	7.8%	5.3%	7.0%	5.7%	7.6%	4.8%
5.子どもを通じた友人・知人	2.3%	2.4%	1.7%	2.7%	0.6%	3.7%	0.4%	4.3%
8.その他	6.8%	6.2%	6.0%	8.0%	6.7%	6.7%	5.4%	8.0%
無回答	0.5%	0.5%	0.6%	0.2%	0.6%	0.2%	0.2%	0.6%

① 全体

親しくしている友人・知人の種類についての問いには、「仕事関係」の友人・知人という回答が最も多く(69.4%)、次に「学校時代」(57.9%)、「趣味を通じた」(37.9%)となり、この3種類が他よりも多い。区の違いをみると、世田谷区では「仕事、学校、趣味」と回答した人が他区よりわずかに多く、墨田区では全体に少ない。一方で豊島区では「インターネット上」と回答した人が他区よりやや多く、「子どもを通じた」はやや少ない。

② 男女別

「インターネット上」の、および「地域活動・社会活動を通じた」友人・知人は男性がわずかに多いことを除くと、そのほかはすべて女性の方が回答が多い。特に「趣味」「子どもを通じた」は女性の方が多い。

③ 年齢別

年齢別では、「地域活動・社会活動を通じた」「子どもを通じた」「近所」の友人・知人という回答が後期は前期より多くなる傾向がみられる。特に「近所」は前期が5.3%であるのにたいし、後期では13%と多い。一方で「仕事関係」は前期、後期で違いは見られない。

④ 男女年齢別

男女年齢別では、女性は「子どもを通じた」友人・知人が前期と比べて後期では大きく増える(前期:0.4%、後期7.7%)一方で、男性は前期後期ともに「子どもを通じた」はほぼいないことが読み取れる。また「近所」は男女ともに後期の方が前期より多いが、女性の方がその傾向が顕著である。

(3) 時間を共有する相手 (問13 - a,b,c)

図表Ⅱ-6-3 (a) 気軽におしゃべりしたり、気晴らしする
(複数回答/全体・3区計の降順)

	全体・3区計	世田谷区	豊島区	墨田区	男性	女性	35-49歳	50-64歳
合計度数	2598	868	845	885	1264	1283	1347	1197
7.仕事関係の友人・知人(元同僚を含む)	61.4%	64.2%	61.1%	58.9%	54.4%	68.9%	64.1%	58.9%
6.学校時代の友人・知人	40.0%	46.5%	39.6%	34.0%	32.6%	47.8%	44.9%	35.2%
9.それ以外の友人・知人	32.4%	33.2%	33.1%	30.8%	27.4%	37.5%	33.3%	31.7%
1.親	28.8%	30.1%	28.4%	28.0%	22.9%	34.8%	34.7%	22.3%
4.恋人・(元)配偶者・パートナー	24.9%	27.2%	24.0%	23.4%	21.0%	28.9%	27.8%	21.9%
2.兄弟・姉妹	24.6%	27.3%	23.9%	22.6%	17.2%	32.0%	24.6%	24.7%
8.近所の友人・知人	10.9%	10.4%	10.3%	12.1%	11.1%	10.8%	7.6%	14.7%
5.その他親族・親戚	6.4%	6.9%	6.4%	5.8%	4.7%	8.0%	4.9%	8.0%
3.子ども	4.7%	4.7%	5.3%	4.2%	4.0%	5.4%	1.4%	8.5%
10.誰ともしなかった	7.7%	6.8%	9.0%	7.2%	12.7%	2.4%	6.6%	8.6%
無回答	1.8%	1.6%	1.8%	1.9%	2.3%	0.7%	1.1%	1.8%

図表Ⅱ-6-4 (b) 仕事のない休日などに一緒に過ごす
(複数回答/全体・3区計の降順)

	全体・3区計	世田谷区	豊島区	墨田区	男性	女性	35-49歳	50-64歳
合計度数	2598	868	845	885	1264	1283	1347	1197
7.仕事関係の友人・知人(元同僚を含む)	30.1%	35.6%	28.9%	26.0%	20.3%	40.4%	33.0%	27.3%
6.学校時代の友人・知人	28.6%	34.0%	28.5%	23.4%	19.1%	38.4%	33.9%	23.3%
9.それ以外の友人・知人	28.6%	29.4%	30.1%	26.4%	21.7%	35.6%	30.3%	27.0%
4.恋人・(元)配偶者・パートナー	23.9%	26.7%	22.1%	22.9%	20.6%	27.4%	27.2%	20.4%
1.親	18.2%	19.9%	17.5%	17.1%	10.9%	25.0%	21.5%	14.2%
2.兄弟・姉妹	13.8%	17.2%	13.6%	10.7%	7.0%	20.5%	15.4%	12.0%
8.近所の友人・知人	6.7%	6.8%	5.9%	7.3%	6.6%	6.9%	5.7%	7.9%
3.子ども	4.6%	5.3%	4.6%	3.8%	3.9%	5.3%	1.6%	7.9%
5.その他親族・親戚	3.7%	3.2%	4.5%	3.5%	2.0%	5.4%	3.2%	4.3%
10.誰ともしなかった	22.4%	19.1%	23.7%	24.4%	32.6%	12.2%	20.6%	24.4%
無回答	3.9%	2.8%	4.3%	4.6%	5.1%	2.2%	1.8%	5.6%

図表Ⅱ-6-5 今年のお正月(1月1日~3日)と一緒に過ごした
(複数回答/全体・3区計の降順)

	全体・3区計	世田谷区	豊島区	墨田区	男性	女性	35-49歳	50-64歳
1.親	49.0%	52.3%	49.0%	45.8%	42.6%	55.8%	61.2%	35.8%
2.兄弟・姉妹	35.2%	39.6%	34.7%	31.4%	29.4%	41.2%	39.2%	30.9%
4.恋人・(元)配偶者・パートナー	11.2%	11.3%	13.3%	12.0%	12.3%	12.3%	11.5%	13.3%
9.それ以外の友人・知人	7.2%	7.1%	7.2%	7.1%	6.6%	7.7%	6.6%	7.9%
5.その他親族・親戚	7.0%	7.5%	5.8%	7.6%	6.0%	7.9%	7.1%	6.8%
7.仕事関係の友人・知人(元同僚を含む)	6.5%	6.2%	7.1%	6.2%	5.5%	7.6%	6.8%	6.2%
6.学校時代の友人・知人	6.3%	6.0%	6.3%	6.6%	6.4%	6.2%	8.2%	4.2%
3.子ども	6.1%	6.1%	5.4%	6.8%	5.9%	6.1%	2.2%	10.4%
8.近所の友人・知人	2.4%	2.4%	1.7%	3.1%	2.6%	2.2%	1.8%	3.0%
10.誰ともしなかった	23.1%	21.9%	22.6%	24.7%	29.9%	16.5%	20.3%	26.4%
無回答	3.5%	2.4%	3.7%	4.4%	4.5%	1.9%	1.9%	4.6%

① 全体

気軽におしゃべりをする程度の時間を過ごす相手は主に「友人・知人(仕事関係、学校時代、それ以外)」が多く、「親」「兄弟・姉妹」「子ども」などの肉親がそれに続く。一方で、休日などに過ごす人も同じく様々な友人・知人が多いが、その割合が下がり、「誰とも過ごさなかった」という回答が2割以上となる。また「恋人などパートナー」などと気軽におしゃべりをしたり、休日を過ごす人が一定数いることもうかがえる。正月を誰と過ごしたかの設問に対しては「親」「兄弟・姉妹」「子ども」と回答する人が多い一方で、「誰とも過ごさなかった」と回答した人が2割以上いることもわかる。

区の違いは比較的小さいが、世田谷区では気軽におしゃべりをしたり休日を過ごす相手でも他区よりも「学校関係の友人・知人」が多く、「誰とも過ごさなかった」という人がやや少ない。墨田区では休日や正月に「誰とも過ごさなかった」人が他区と比べるとわずかに多い。

② 男女別

男女別にみると、すべての状況(気軽におしゃべり、休日、正月)で男性は「誰とも過ごさなかった」という回答が女性を大きく上回っている。正月を「誰とも過ごさなかった」男性が3割であったのに対して、女性は16.5%と半分程度である。仕事のない休日に「親」と過ごす人は女性の約4分の1であるのに対し、男性は1割程度である。「友人・知人(学校、仕事)」と休日に過ごす人も女性は男性の倍となっている。一方で「近所の友人・知人」とおしゃべりをしたり、休日、正月を過ごす人は男女ともに大きな違いがない。

③ 年齢別

年齢別では、気軽におしゃべりをする人が全体に前期より後期でやや少なく

なるが、一方で「近所の友人・知人」は多くなる傾向がみられる（前期：7.6%、後期：14.7%）。休日を過ごす人としては、後期で子ども、「その他親族・親戚」「近所の友人・知人」が前期よりも多いが、その他は全体に少なく、「誰とも過ごさなかった」人が後期では4分の1に達する。正月を過ごす人については、後期で「親」「親族・親戚」と過ごす人が減り、「子ども」という回答が増え、一方で「恋人などパートナー」と過ごす人がやや前期より多い。

④ 男女年齢別

男女年齢別では、気軽におしゃべりをする人のうち、「仕事関係の友人・知人」では男性は前期、後期と違いがみられないのに対し、女性は前期（72.7%）より後期（64.1%）とやや少なくなる。「子ども」とおしゃべりをする人は女性前期ではほぼいない（0.6%）のに対して、女性後期では11.3%となる。休日に過ごす人が「誰とも過ごさなかった」という回答は男性後期で35.7%と、女性の後期（12.2%）と比べて高い。また、正月を一緒に過ごす人は女子前期の約7割が「親」と過ごす、としている。一方で「誰とも過ごさなかった」人は男性後期で35%ほどおり、前期（25.2%）よりも多い。女性は前期・後期で「誰とも過ごさなかった」人の割合があまり変わらない。

7. 地域との関係

(1) 近所で過ごす場所（問14）

図表Ⅱ-7-1 近所で過ごす場所（複数回答／全体・3区計の降順）

	全体・ 3区計	世田 谷区	豊島 区	墨田 区	男性	女性	35-49 歳	50-64 歳
合計度数	2598	868	845	885	1264	1283	1347	1197
6.スーパーマーケット、コンビニ、近所の商店	56.2%	63.5%	54.9%	50.4%	46.0%	66.4%	59.6%	52.4%
5.レストラン、コーヒーショップ、居酒屋などの飲食店	43.1%	47.0%	44.0%	38.5%	38.8%	47.9%	47.1%	39.3%
1.自宅周辺の公園、遊歩道、河川	24.6%	28.9%	16.2%	28.5%	27.2%	22.1%	23.6%	25.8%
3.スポーツジム、運動場などのスポーツ施設	19.5%	21.5%	18.6%	18.4%	17.9%	21.0%	20.5%	18.1%
2.図書館、コミュニティセンターなどの公共施設	17.2%	18.9%	16.9%	15.7%	15.2%	19.3%	17.5%	16.9%
4.カラオケ、パチンコ、ゲームセンターなどの遊興施設	10.6%	7.0%	14.0%	10.8%	13.9%	7.3%	12.0%	9.1%
9.友人・知人などの自宅	7.8%	10.9%	5.6%	6.8%	4.9%	10.7%	7.9%	7.5%
8.親、子、兄弟、その他親族の自宅	7.6%	9.7%	7.1%	6.0%	4.4%	10.6%	5.6%	9.6%
7.病院、デイケアセンター	5.5%	6.1%	5.9%	4.6%	4.7%	6.4%	4.5%	6.7%
10.その他	5.2%	4.8%	6.0%	4.7%	5.0%	5.1%	3.9%	6.4%
11.近所には過ごす場所はない 無回答	10.0% 1.7%	8.1% 0.7%	10.8% 1.9%	11.1% 2.6%	13.0% 1.9%	7.2% 1.2%	9.9% 1.1%	10.4% 2.1%

① 全体

住まいの周辺で過ごす場所としては多くの方が「商店」や「飲食店」をあげている。「公園など」「スポーツ施設」「公共施設」がそれに続く。一方で「近所には過ごす場所はない」と答えた人が1割いる。

区での違いも見られ、世田谷区では多くの項目で他区より住まいの近くで過ごす場所をあげており、特に「商店」などで過ごすという割合が高い。さらに「近所には過ごす場所はない」という回答も他区よりも低い。一方で豊島区は「公園など」と答えた人が他区と比べて低く、「遊興施設」という回答は世田谷区の倍程度ある。また墨田区は「商店」「飲食店」という回答がやや低い。また、その他、と回答した人の中では「デパート」「ショッピングモール」をあげた人も多く、さらに「自宅」という回答も複数みられた。

② 男女別

女性は「商店」「飲食店」で過ごす、との回答が男性よりも多く、また「友人・知人宅」「親族宅」で過ごす人も男性の倍いることがわかる。男女別では、「近所には過ごす場所はない」という回答は男性が女性の倍である。男性が女性よりも多く過ごす場所としては、「公園など」「遊興施設」などのオープンな公共

空間があげられる。

③ 年齢別

年齢別ではあまり違いがみられないが、「飲食店」で過ごす人は前期で多いといえる。

④ 男女年齢別

年齢別に男女を見てみると、「スポーツ施設」などの利用は男性は後期より前期が多いが、女性ではやや後期の方が多という違いがある。女性の後期では「商店」という回答がより多く、男性後期と比べると差が顕著である。「病院、デイケアセンター」と回答した女性は前期、後期でほぼ同数だが、男性後期は男性前期の3倍になっている。また「近所には過ごす場所がない」という回答は男女、年齢で全体の傾向と変化がないことがわかる。

(2) 参加している地域の団体・集まり (問15)

図表Ⅱ-7-2 参加している地域の団体・集まり
(複数回答/全体・3区計の降順)

	全体・ 3区計	世田 谷区	豊島 区	墨田 区	男性	女性	35-49 歳	50-64 歳
合計度数	2598	868	845	885	1264	1283	1347	1197
6.町会・自治会・マンション管理組合・商店会などの活動	6.1%	7.0%	4.9%	6.3%	4.8%	7.3%	3.8%	8.6%
1.趣味の会習いごと・勉強会	5.8%	6.6%	6.2%	4.7%	4.1%	7.3%	6.2%	5.2%
2.健康づくりやスポーツの活動	5.2%	5.4%	5.1%	5.1%	4.2%	6.2%	4.6%	5.8%
5.社会活動・ボランティア活動	3.3%	3.3%	2.5%	4.0%	3.0%	3.6%	2.2%	4.6%
3.高齢者グループの活動	0.3%	-	0.1%	0.7%	0.5%	0.1%	0.1%	0.5%
4.子育て・教育に関する集まり	0.1%	0.2%	-	0.1%	0.2%	0.1%	-	0.3%
7.その他	1.9%	1.7%	2.4%	1.7%	2.2%	1.6%	1.3%	2.6%
8.参加していない	80.9%	80.5%	82.2%	80.1%	83.6%	78.9%	84.5%	77.8%
無回答	1.8%	0.7%	1.9%	2.7%	2.0%	1.2%	1.0%	2.2%

① 全体

地域での活動、集まりには「参加していない」という回答が8割にのぼった。参加している人の中では、「町会、マンション管理組合などの活動」がやや多く(6.1%)、「趣味」や「スポーツの活動」などが続く。

区別には豊島区で「町会、マンション管理組合などの活動」がやや低い傾向がみられる。

② 男女別

男性で参加していない人の割合は女性よりもやや多い。特に「趣味」「スポーツの活動」を通じた集まり「町会、マンション管理組合などの活動」と答えた人は女性の方が多。

③ 年齢別

年齢別には、参加していない人は前期の方がやや多い。後期は「町会、マンション管理組合などの活動」「社会活動」に参加する人は前期より多く、「趣味」や「スポーツ」を通しての活動は前期とあまり変わりはない。

④ 男女年齢別

男女、年齢別では、男性の前期で「参加していない」が多く(86.6%)、女性の後期(74.5%)とやや違いがある。「町会、マンション管理組合などの活動」は後期に多くなるが、特に女性後期が10%を超える。また「スポーツの活動」への参加は男性前期(4.2%)および後期(4.0%)、女性前期(4.8%)と比べて、女性後期が高い(7.8%)ことがわかる。

(3) 地域活動への参加のきっかけ (問15-1)

図表Ⅱ-7-3 地域活動への参加のきっかけ
(複数回答/全体・3区計の降順)

	全体・ 3区計	世田 谷区	豊島 区	墨田 区	男性	女性	35-49 歳	50-64 歳
合計度数	2103	699	695	709	1057	1012	1138	931
5.問題意識や関心を持つなど自分の意思	37.2%	39.3%	38.4%	33.9%	32.5%	42.5%	39.6%	34.7%
1.友人・知人のすすめ	26.9%	32.5%	25.5%	22.8%	22.8%	31.4%	32.1%	20.9%
2.区の広報誌やホームページなどからの情報	14.0%	15.9%	14.8%	11.4%	9.1%	19.6%	13.6%	15.0%
3.活動団体からの呼びかけ	10.5%	11.4%	10.2%	9.7%	9.7%	11.3%	10.1%	11.0%
4.町会・自治会などの誘い	9.1%	7.9%	9.6%	9.7%	10.4%	7.7%	8.9%	9.3%
6.その他	4.5%	4.1%	4.9%	4.5%	5.1%	3.9%	4.0%	5.0%
7.特にない	35.3%	32.0%	34.8%	39.1%	40.6%	29.3%	31.6%	39.3%
無回答	0.3%	0.3%	-	0.6%	0.4%	0.2%	0.2%	0.3%

① 全体

どのようなきっかけがあれば、現在地域活動に参加していない人が参加するようになるかについては、「自分意思」という回答が3分の1を超えた。一方で、そのようなきっかけは「特にない」という回答も同じく3分の1程度ある。次に多いのは「友人・知人のすすめ」となっている。

世田谷区では「友人・知人のすすめ」が他区と比べて多く(32.5%)、きっかけは「特にない」という回答(32.0%)も比較的少ない。墨田区は「友人・知人のすすめ」という回答が低く(22.8%)、および他のきっかけについても低い傾向があり、結果として、きっかけは「特にない」という回答が最も多く4割程度となっている。

② 男女別

男女別では、女性は「友人・知人のすすめ」「自分の意思」というきっかけがあれば地域に参加するであろうという回答が男性よりも多い。また区からの情報も参加のきっかけになる人が男性の倍程度いることがわかる。一方男性は特にないという回答が4割となり、唯一、「町内会などの誘い」は女性よりもきっかけと考える人がやや多い。

③ 年齢別

年齢別にみると、「友人・知人のすすめ」は前期で多い。またきっかけは「特にない」と回答した人が前期よりも後期で多いことが読み取れる。

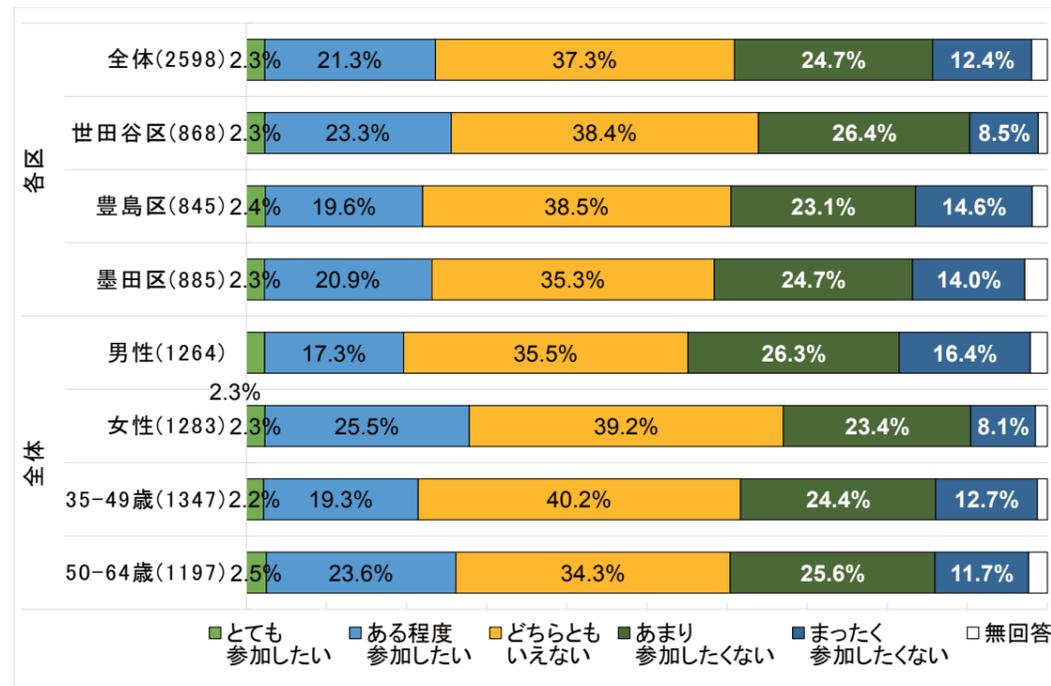
④ 男女年齢別

男性後期では「友人・知人のすすめ」「自分の意思」ともに前期より少なくなり、きっかけは「特にない」という人が約半数をしめている。女性では前期

と後期を比べると後期の方がきっかけは「特にない」という回答が増加するが、差は男性と比べると小さい。

(4) 地域活動への参加意向 (問16)

図表Ⅱ-7-4 地域活動への参加意向 (単数回答)



① 全体

地域に参加する意向があるかどうかについては、「どちらともいえない」という回答が最も多く、3分の1を占めている。一方で「まったく参加したくない」という人は1割を少し超える程度である。

世田谷区では「まったく参加したくない」という人が他区に比べて少なく、「ある程度参加したい」と考える人が若干多い特徴がある。

② 男女別

男女別にみると、全体的に女性の参加意向は高く、特に「ある程度参加したい」と考える人は男性より多い。また「まったく参加したくない」と考える男性は女性の倍程度いる。

③ 年齢別

年齢別の特徴としては前期で「どちらともいえない」という回答が多いが、それ以外はあまり全体の結果と変わらないといえる。

④ 男女年齢別

男女の年齢別でみると、男性では前期、後期で傾向は変わらない。女性は、「ある程度参加したい」と回答した人の割合は、前期よりも後期で多いことがわかる。

8. 一人暮らしのライフスタイル

(1) 災害への備え (問17)

図表Ⅱ-8-1 災害への備え (複数回答/全体・3区計の降順)

	全体・3区計	世田谷区	豊島区	墨田区	男性	女性	35-49歳	50-64歳
合計度数	2598	868	845	885	1264	1283	1347	1197
5.飲料水の確保	48.2%	51.5%	48.5%	44.5%	40.2%	56.8%	46.7%	50.7%
4.食糧の確保	39.4%	42.6%	38.5%	37.2%	31.0%	48.3%	38.9%	40.5%
7.照明・情報器具の確保	30.9%	34.2%	30.8%	27.8%	24.5%	37.6%	28.3%	34.3%
1.家具の転倒防止	17.7%	18.1%	16.6%	18.5%	16.9%	19.0%	14.3%	21.9%
9.トイレ対策(簡易トイレセット等)	16.1%	18.9%	16.2%	13.2%	8.4%	23.9%	14.8%	18.0%
3.消火の備え	13.9%	12.8%	14.6%	14.5%	13.7%	14.4%	9.9%	18.6%
6.燃料の確保	13.8%	16.7%	11.6%	13.1%	10.8%	17.1%	11.1%	17.1%
2.ガラスの飛散防止	6.4%	7.0%	5.9%	6.1%	4.7%	8.2%	5.0%	8.0%
8.感震ブレーカーの設置	1.6%	1.7%	0.6%	2.5%	1.8%	1.5%	0.7%	2.8%
10.その他	4.6%	4.7%	5.3%	3.7%	4.0%	5.1%	4.3%	4.7%
11.特にしていない	31.4%	30.5%	31.7%	32.1%	39.1%	23.7%	34.0%	28.4%
無回答	1.9%	1.0%	1.9%	2.7%	2.1%	1.2%	1.0%	2.3%

① 全体

3分の1から半分近くの人が「飲料水」「食糧」「照明・情報器具」の確保を行っているが、「感震ブレーカーの設置」「ガラス飛散防止」についてはまだ少ないことがうかがえる。また「特にしていない」という回答が3割程度いる。

区別に見ると、世田谷区では、「消火の備え」を除いて、全体に備えをしているとの回答が他区よりやや多い。

② 男女別

男女別では、「特にしていない」という回答では男性(39.1%)が女性(23.7%)よりかなり多く、全体的に女性の方が備えを行っている。女性で「トイレ対策」を行っている人は男性の3倍程度と高い。

③ 年齢別

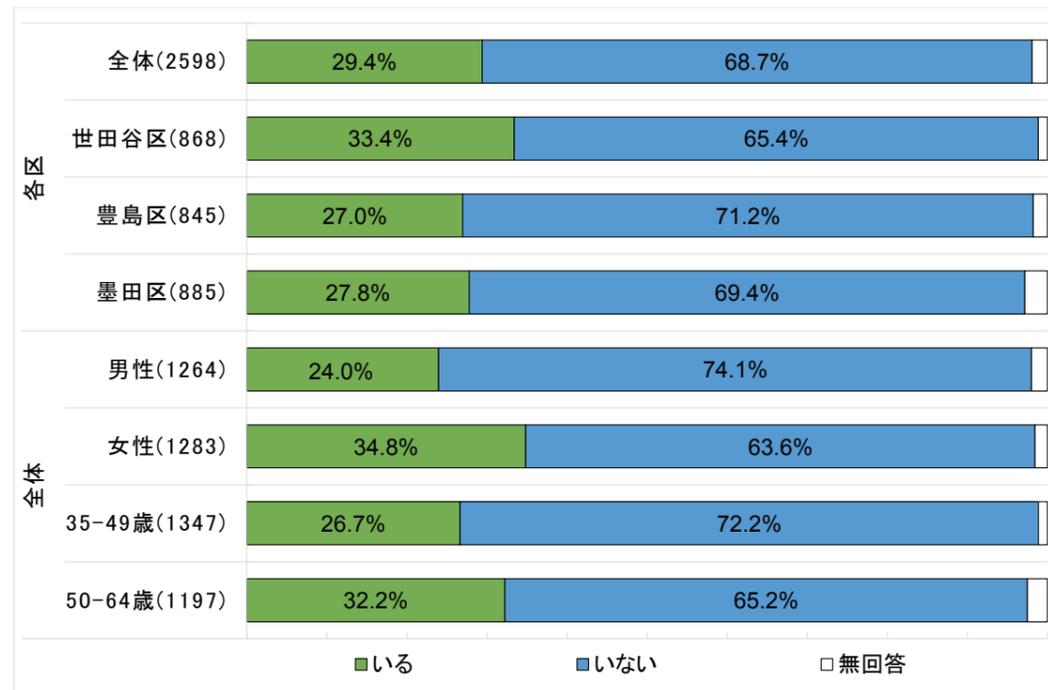
年齢別では全体的に後期の方が備えをする傾向であるが、特に後期で「家具の転倒防止」「消火」「燃料の確保」について備えている人が前期よりも多くなっている。

④ 男女年齢別

特に「特にしていない」というグループは男性前期では4割に達し、女性後期の倍以上となる。後期の女性は全体的に備えを行っているという回答した人が男性、および前期の女性よりも多く、「飲料水の確保」は6割以上の方が行っている。

(2) 災害時に頼れる近隣の人 (問18、18-1)

図表Ⅱ-8-2 近所で災害時に助けてくれる人の有無 (単数回答)



図表Ⅱ-8-3 近所で災害時に助けてくれる人の種類 (複数回答/全体・3区計の降順)

	全体・3区計	世田谷区	豊島区	墨田区	男性	女性	35-49歳	50-64歳
合計度数	764	290	228	246	303	447	359	386
2.友人	40.1%	47.2%	39.0%	32.5%	36.6%	43.0%	42.1%	38.9%
3.親・子・兄弟姉妹	38.0%	39.3%	33.3%	40.7%	34.0%	40.3%	37.3%	38.3%
1.知人	30.1%	30.0%	31.6%	28.9%	35.0%	27.1%	28.4%	31.3%
4.町内会・自治会の人、マンションの管理人	21.5%	17.9%	27.6%	19.9%	26.4%	17.9%	13.4%	28.5%
5.その他	9.8%	10.3%	9.6%	9.3%	11.2%	9.2%	12.0%	8.0%
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-

① 全体

全体の3割程度が災害時に助けてくれる人がいると回答している。それらの人のうち、「友人」「親・子・兄弟姉妹」「知人」がそれぞれ3から4割程度だが、「町内会などや管理人」と回答した人も2割以上いる。また、その他、と回答した人の中では「親・子・兄弟姉妹」以外の親族をあげた人が目立つ。「恋人やパートナー」「会社の関係者」という回答もみられる。

災害時に助けてくれる人がいる割合は世田谷区で若干上がるが、大きな違い

はみられない。一方助けてくれる人とどのような関係かの質問では、世田谷区では「友人」と答えた人が半数近くに達するのに対し、墨田区では3割と違いがみられる。

また豊島区では「町内会などや管理人」と答えた人が他区よりもやや多い一方、親族の割合が少ない。

② 男女別

男性と比べると女性の方が災害時に助けてくれる人がいる、という回答がやや多くなる。またそれらの人々は、男性では「知人」「町内会などや管理人」の人が多く、女性では「友人」「親・子・兄弟姉妹」が多い。

③ 年齢別

年齢別にみると後期(32.2%)は前期(26.7%)よりも助けてくれる人がいるという回答がやや多い。特に後期では前期と比べて「町内会などや管理人」などに頼る人が多いことがうかがえる。

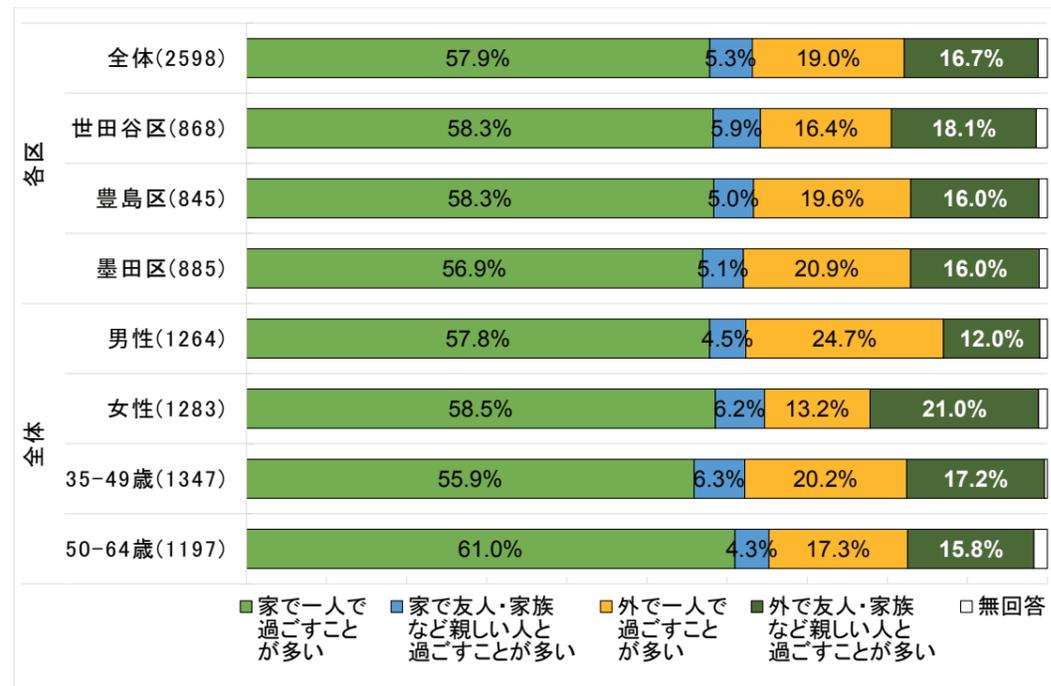
④ 男女年齢別

後期の女性は助けてくれる人がいる割合が約4割と、他と比べて最も高い。一方男性の前期では助けてくれる人がいないという割合が8割近くに達している。

また、男性は親族に頼る人が前期より後期で少ないが、女性では逆に親族に頼る人は後期の方が前期より多いことがわかる。

(3) 休日の過ごし方 (問19、問20 - a,b,c,d,e,f,g)

図表Ⅱ-8-4 仕事の無い休日の過ごし方 (単数回答)



① 全体

全体では6割近くの人が「家で一人で過ごすことが多い」と答えている。「外で一人で過ごすことが多い」という回答を加えると、約8割が一人で過ごしている。

区によって大きな違いはないが、世田谷区では「家」または「外で友人・家族などと過ごすことが多い」人が他区と比べてわずかに多い。

② 男女別

家で過ごす場合は男女ともに差がないが、外で過ごす場合、女性は友人・家族と過ごす場合が多く、一方、男性は外でも一人で過ごすことが比較的多いことが読み取れる。

③ 年齢別

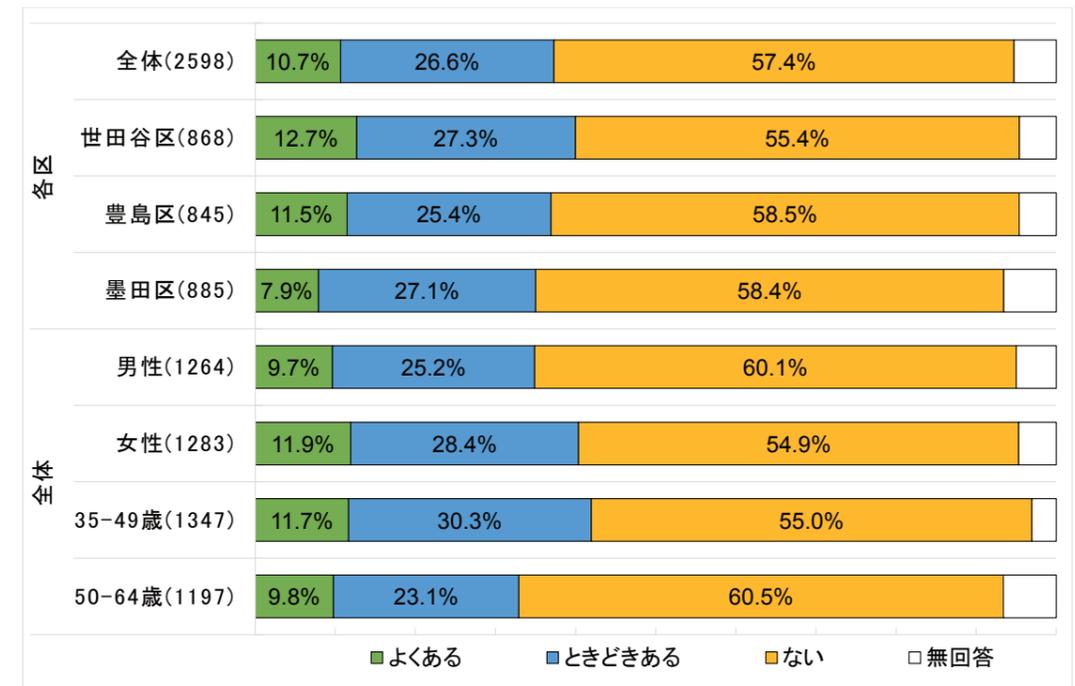
年齢別では前期は外で過ごすことがやや多く、後期は家で一人で過ごす場合が前期より多いといえる。

④ 男女年齢別

「外で一人で過ごすことが多い」と答えた女性は前期が多く(15.1%)、後期(10.6%)と違いが見られる。

(a) 仕事

図表Ⅱ-8-5 (a) 自宅に持ち帰った勤め先の仕事や副業の仕事をする (単数回答)

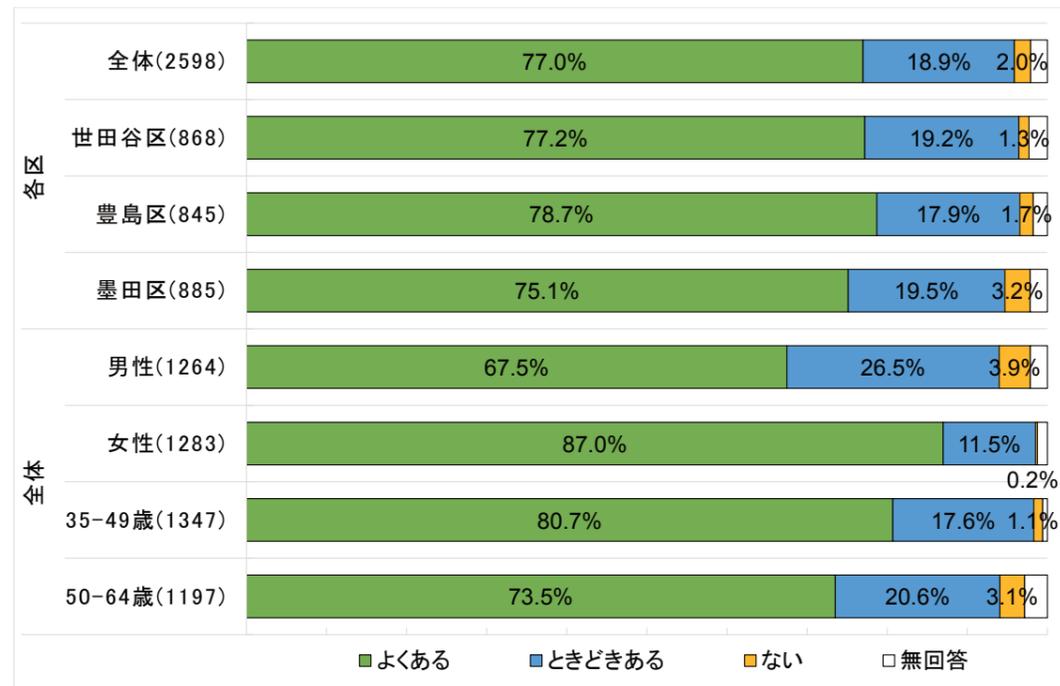


休日に自宅で仕事をするという回答した人は4割弱で、そのうち「よくある」と答えた人は1割程度であった。世田谷区で「よくある」と答えた人がわずかに多く、墨田区では少ないが、区ごとの違いは小さい。

女性の方が自宅で仕事を行う傾向がやや強い。また全体でみると後期では仕事をする人が前期よりやや少なくなる。これを男女と年齢でみると、男性では自宅で仕事することが「よくある」人で後期(7.2%)が前期(12.0%)より少ないのに対し、女性では後期(12.5%)が前期(11.4%)より自宅で仕事することが「よくある」という回答がわずかに多い。自宅で仕事を「しない」という回答は男性の後期(64.7%)で最も高くなる。

(b) 家事や身の回り

図表Ⅱ-8-6 (b) 家事や身のまわりのことをする (単数回答)

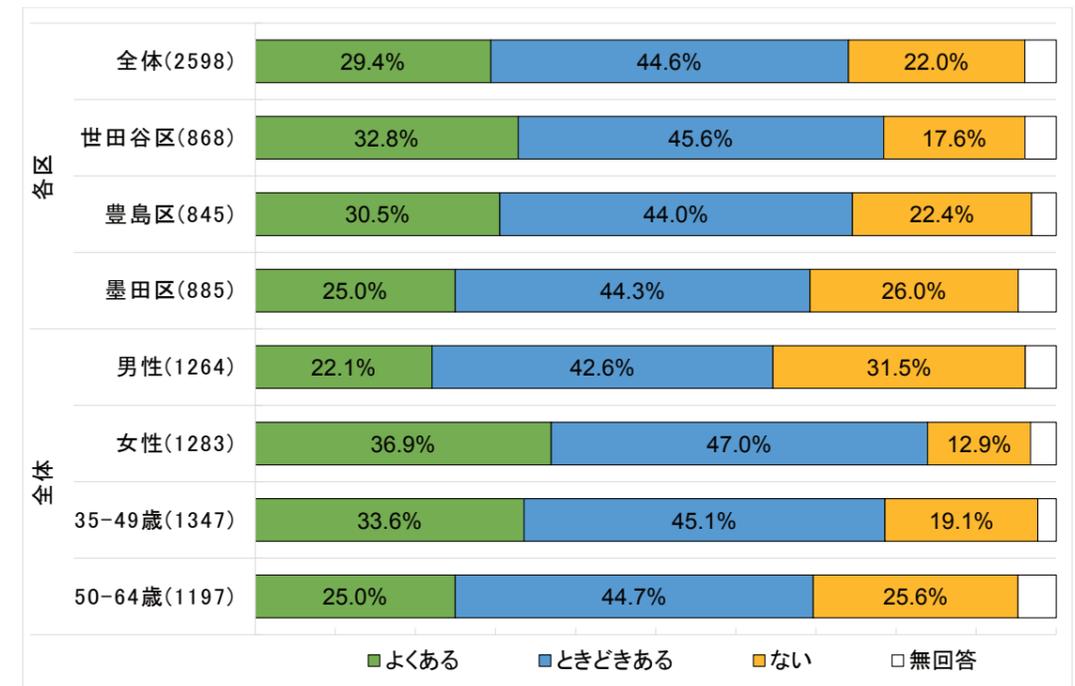


ほぼすべての人が休日には家事や身のまわりのことをすると回答しており、「よくある」と答えた人が8割近くに達する。区によっても違いはあまり見られない。

その中でも女性は家事等を行うことが「よくある」人が9割近くに達するが、男性は「ときどきある」という回答が女性と比べて多く、家事を行う頻度が下がる傾向がみられる。女性は年齢での違いは見られないが、男性では後期になると「しない」という回答(5.6%)が前期(2.2%)と比べて多い。

(c) 電話やメール、SNS

図表Ⅱ-8-7 電話やメール、SNS等で友人や知人と交流する (単数回答)



知人や友人と電話、メール、SNS等でよく交流するとした人が約3割いたが、一方で2割強が「交流しない」としている。墨田区では「交流しない」と回答した人(26.0%)が全体平均(22.0%)より多く、世田谷では比較的少ない(17.6%)。

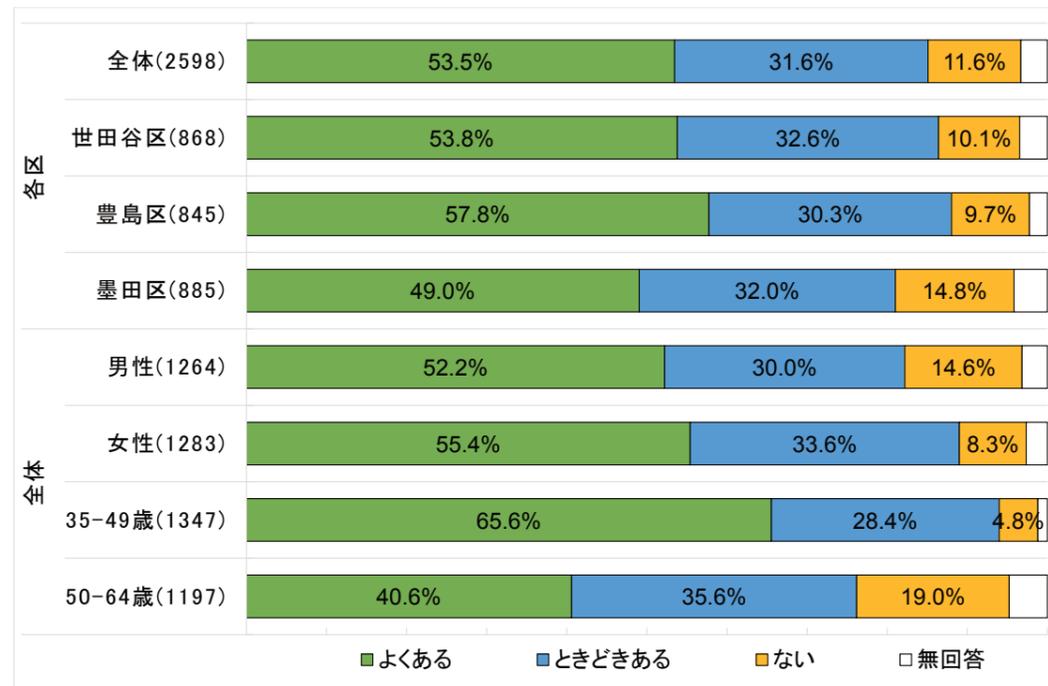
男女別では、電話、メール、SNS等で「交流しない」と回答した人が男性では3割に達するのに比べて、女性は1割強であり、女性の方が交流する頻度が高いことがわかる。

年代で見ると、後期よりも前期の方が交流をしている。さらに細かく見ると、男性の後期では4割弱が交流していないと回答し、女性、前期と比べると高い割合となっている。

また男性では交流をよくする、「ときどきある」と回答した人が前期と比べて後期で少なくなる(71.1%:57.9%)に比べ、女性は年齢層によって差がほぼない(85.4%:82.3%)ことが読み取れる。

(d) インターネット

図表Ⅱ-8-8 (d) インターネットを閲覧・検索、ネットショッピングする (単数回答)



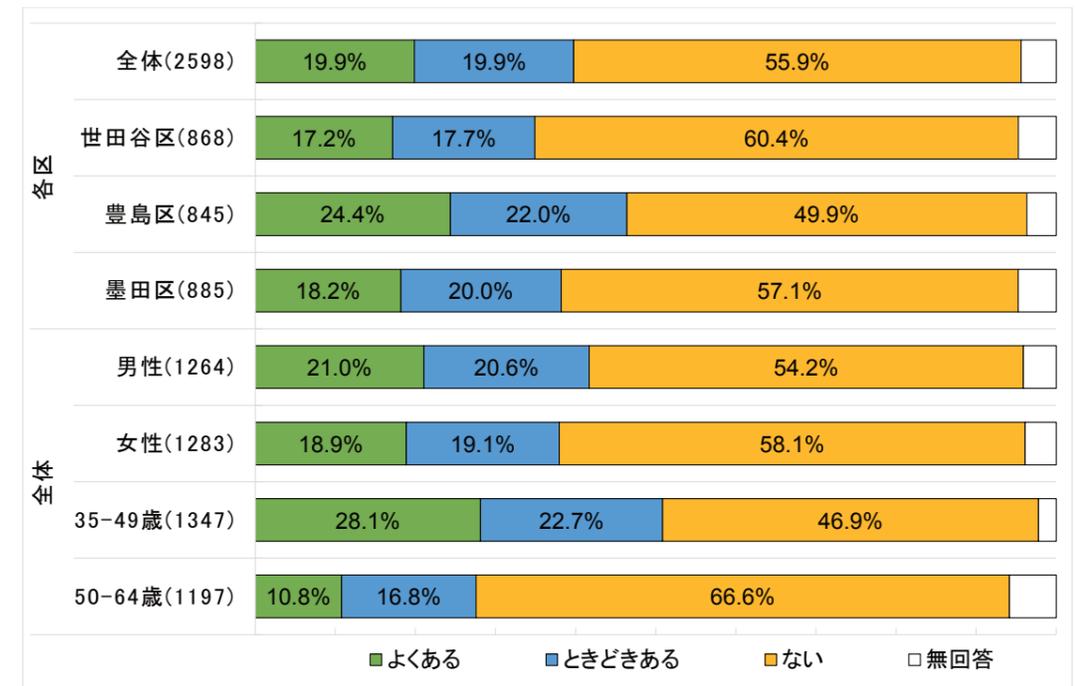
全体の8割以上が休日に何らかの形で自宅でインターネットを使用しており、「よくある」という回答も多い(53.5%)。

豊島区ではインターネットの利用が「よくある」人が他区よりもやや多く(57.8%)、「ときどきある」人を加えると9割近くに達している。

一方で墨田区では「よくある」とした人が比較的少なく(49.0%)、「ときどきある」人と合わせても8割程度であり全体の平均と比べてやや低い。

(e) 電子ゲーム

図表Ⅱ-8-9 (e) 電子ゲームをする(ゲーム専用機、携帯電話、ネットなど)(単数回答)



休日に自宅で電子ゲーム等は「しない」と回答した人は5割を超える。

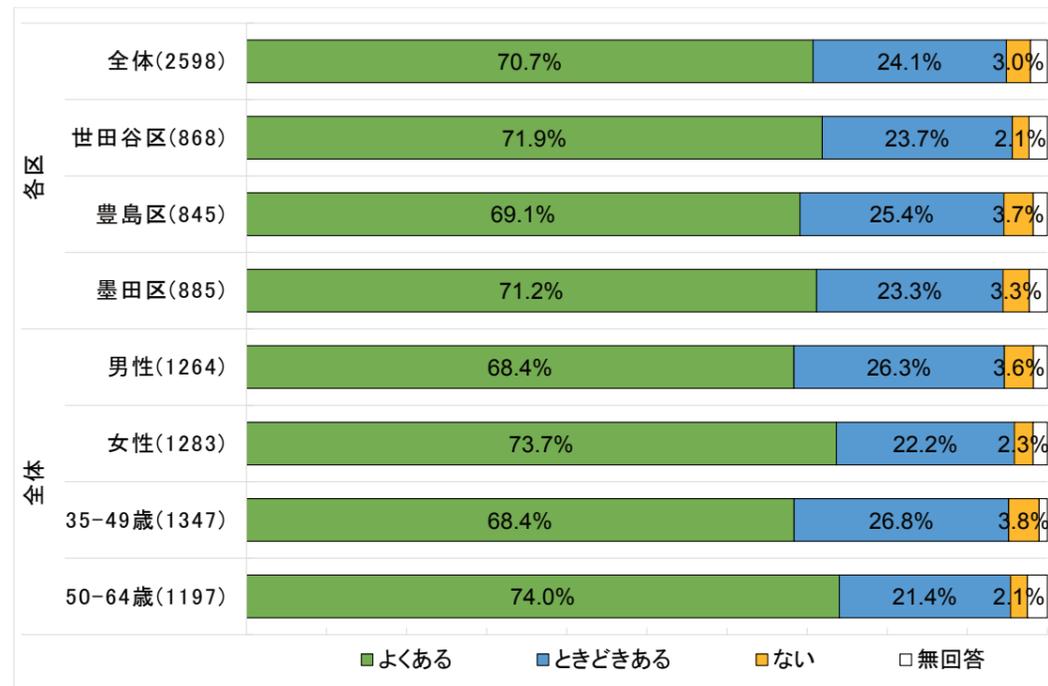
世田谷区は「しない」という割合がさらに増えて6割ほどである。その中で豊島区は「よくある」という回答が3区の中では最も高い(24.4%)。

男女別では大きな違いはないが、年齢をみると前期の方が後期より電子ゲームをする傾向がわかる。

さらに男女別、年齢別でみると、男性前期では3割強の人が「よくある」と回答し、「ときどきある」を合わせると6割近くの人が何らかのかたちでゲームをすることがわかる。また後期では女性の方が男性よりもゲームを「よくある」と答えている。

(f) 読書、テレビなど

図表Ⅱ-8-10 (f) 読書、ラジオ・テレビ・ビデオ視聴（単数回答）



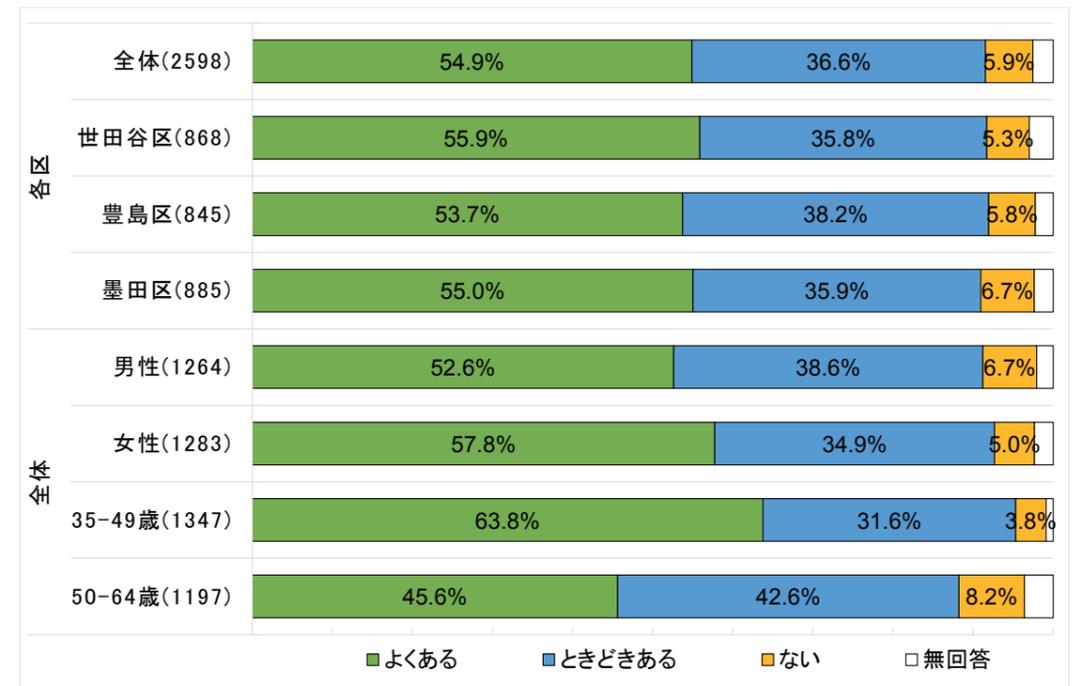
休日に読書、テレビ視聴などをする人は、家事を行う人の次に多く、「よくある」「ときどきある」と答えた人で95%を占める。区によって大きな違いはない。

男女別、年齢別でも大きな違いは見られない。

一方で、男女年齢別にみると、男性では前期と比べて後期では視聴の頻度が高く、また女性では視聴「しない」という人が後期で極めて少ない（0.9%）という結果となっている。

(g) 休息

図表Ⅱ-8-11 昼寝等、休息する（単数回答）



昼寝、休息をすることが「よくある」「ときどきある」という人を加えると9割を超え、家事、読書・テレビ等などに次ぎ多いことがわかる。区による違いもあまり見られない。

男女による違いはみられないが、年齢別では前期で休息をすることが「よくある」という割合が後期と比べて多い（63.8%：45.6%）。

これを男女の年齢別で見ると、女性の前期で休息をすることが「よくある」と答えた人が7割近くおり、最も高い。

(4) 一人暮らしで困ること (問21)

図表Ⅱ-8-12 一人暮らしで困ること (複数回答/全体・3区計の降順)

	全体・ 3区計	世田 谷区	豊島 区	墨田 区	男性	女性	35-49 歳	50-64 歳
合計度数	2598	868	845	885	1264	1283	1347	1197
5.病気になったときに身の回りの世話をしてくれる人がいない	64.0%	65.1%	62.6%	64.4%	65.1%	63.4%	64.7%	63.7%
1.家賃や生活費の負担が重い	41.6%	46.2%	40.0%	38.8%	37.6%	46.1%	44.1%	39.2%
7.人との会話が少ない	29.3%	29.3%	27.7%	31.0%	32.0%	27.0%	29.7%	29.3%
6.家事をするのが面倒である	27.7%	28.0%	25.9%	29.2%	29.7%	26.2%	30.3%	25.2%
10.宅配便の依頼や受取ができない	27.3%	28.2%	26.5%	27.0%	27.1%	27.7%	33.4%	20.9%
4.不規則な生活習慣や食習慣から抜け出せない	25.9%	25.7%	25.7%	26.2%	28.7%	23.6%	29.1%	22.9%
12.不在時の防犯への不安	25.0%	28.8%	24.5%	21.8%	19.9%	30.2%	26.4%	23.7%
9.近所づきあいが少ない	23.2%	21.8%	22.0%	25.9%	24.1%	22.4%	22.2%	24.5%
2.時間の使い方がいい加減になる	21.3%	21.0%	20.6%	22.4%	22.5%	20.5%	24.4%	18.3%
3.収入の使い方が雑になる	19.9%	19.7%	17.9%	22.0%	22.9%	17.0%	23.3%	16.2%
8.寂しいと感じることが多い	16.2%	17.3%	14.7%	16.6%	17.6%	14.9%	18.2%	14.2%
11.訪問販売などの勧誘への不安	8.5%	8.9%	8.9%	7.7%	6.4%	10.7%	10.3%	6.6%
13.その他	3.8%	5.3%	3.7%	2.5%	1.5%	6.0%	3.8%	3.8%
14.特になし	6.5%	6.2%	6.3%	7.0%	7.4%	5.8%	5.7%	7.6%
無回答	1.2%	1.0%	1.1%	1.5%	1.0%	0.9%	0.5%	1.3%

① 全体

一人暮らしで困っている、もしくは困ることが予想されることで最も回答が多かったのは「病気になったときの身の回りの世話」であり、6割強の人が困ると回答している。次に多いのは「家賃や生活費の負担」という経済的な負担について約4割の人が困った、もしくは困るだろうと回答している。区ごとの違いをみると、「家賃や生活費の負担」について、世田谷区で最も高くなり(46.2%)、墨田区(38.8%)と差がみられる。また世田谷区では「防犯への不安」(28.8%)も墨田区(21.8%)と比べて高い。墨田区では「近所づきあいが少ない」と答えた人(25.9%)が他区と比べてやや多い。

また、その他自由記載にも多くの記述がみられ、「災害時」「老後」「防犯」「ペットの世話」などを挙げる人が多い。

② 男女別

男女別にみると、「家賃や生活費の負担」について困る、困るであろうと考えている人は女性(46.1%)の方が男性(37.6%)より高くなっている。また「防犯への不安」も女性(30.2%)の方が男性(19.9%)よりも高く、「勧誘への不安」も含めて、安全への意識が高いことがうかがえる。一方で男性は「寂しい」「会話が少ない」、「近所づきあいが少ない」などで女性よりも困ることがあると考

えている。家事について困る人は男女で大きな差はない。

③ 年齢別

年齢で差が大きい項目はあまりないが、「宅配便の受取」については前期の方が困る、と回答する割合が多い。

④ 男女年齢別

さらに男女別、年齢別でみると、女性の前期で「防犯への不安」が多い(31.8%)。「勧誘への不安」も、女性前期(13.5%)は女性後期(7.3%)と比べても高いことがわかる。また、「寂しい」と感じる人は男性では年齢で大きな差が出ない一方、女性では後期になると全体的には「寂しい」と感じるこがやや少なくなる。

9. 食生活と健康

(1) 夕食の内容 (問22 - a,b,c,d,e,f,g)

① 全体

どのような夕食をとるかについては、全体では「自分で調理したもの」もしくは「弁当・惣菜」などを購入するとした人が多いが、頻度で見ると「自分で調理したもの」が最も多くなっている。また「外食」「テイクアウト、出前」「冷凍食品・インスタント食品」などの利用は、「よくある」よりも「ときどきある」という回答の方が多い。

区ごとの違いをみると、世田谷区では「自分で調理したもの」を「よくある」人の割合が他区と比べてやや高く5割を超えており、「外食」を「よくある」人の割合がわずかに低い。

② 男女別

男女別にみると、「外食」が「よくある」と答えた人は男性が多く、女性の倍以上いることがわかる。「居酒屋などのお酒(アルコール類)と一緒に外食」「弁当・惣菜」も「よくある」と答えた人も男性の方が多い。

一方で「自分で調理したもの」が「よくある」人は女性の方が多く、男性は自分で調理を「しない」と答えた人が4分の1にのぼり、女性(5.8%)と大きな差がある。また「家族、親族、親戚、近所の人が作ったもの」を食べる人は「よくある」「ときどきある」を合わせると女性(24.7%)が男性(16.2%)を上回る。

③ 年齢別

年齢別では前期の方がやや「外食(居酒屋などを含む)」人が多いが、他の項目では前期と後期であまり差がみられない。

④ 男女年齢別

「外食(居酒屋などを含む)」「弁当・惣菜」などの食事が「よくある」とした人は男性前期で多く、最も少ない女性後期と差がある。

図表Ⅱ-9-1 夕食の内容(単数回答)

	全体・ 3区計	世田 谷区	豊島 区	墨田 区	男性	女性	35-49 歳	50-64 歳
合計度数	2598	868	845	885	1264	1283	1347	1197
(a) 食堂、レストラン、ファストフードなど食事が主のお店での外食								
よくある	18.4%	15.6%	20.0%	19.5%	25.6%	11.5%	21.6%	14.9%
ときどきある	52.5%	56.9%	51.0%	49.5%	46.1%	59.6%	55.0%	50.7%
ない	26.8%	25.5%	26.4%	28.6%	26.0%	27.1%	22.5%	31.2%
無回答	2.3%	2.1%	2.6%	2.4%	2.2%	1.8%	0.9%	3.2%
(b) 居酒屋などのお酒(アルコール類)と一緒に外食								
よくある	11.6%	10.3%	12.0%	12.7%	14.9%	8.7%	12.9%	10.5%
ときどきある	46.0%	48.2%	43.2%	46.6%	41.9%	50.6%	52.9%	38.9%
ない	39.8%	39.5%	42.1%	38.0%	40.6%	39.0%	33.3%	47.1%
無回答	2.5%	2.1%	2.7%	2.8%	2.6%	1.7%	1.0%	3.4%
(c) 出来合いの弁当・惣菜								
よくある	30.7%	28.3%	32.0%	31.9%	37.2%	24.9%	33.6%	28.1%
ときどきある	51.1%	53.2%	52.2%	47.9%	44.7%	57.1%	49.4%	52.9%
ない	16.1%	17.3%	13.5%	17.5%	16.0%	16.5%	16.1%	16.4%
無回答	2.1%	1.2%	2.4%	2.7%	2.1%	1.4%	0.9%	2.7%
(d) テイクアウト、出前								
よくある	5.5%	5.8%	5.4%	5.2%	5.4%	5.7%	6.8%	4.2%
ときどきある	33.9%	32.9%	35.4%	33.4%	30.7%	37.3%	35.1%	32.9%
ない	57.9%	58.8%	56.4%	58.3%	61.1%	55.0%	57.1%	59.1%
無回答	2.8%	2.5%	2.7%	3.1%	2.8%	1.9%	1.0%	3.8%
(e) 冷凍食品・インスタント食品								
よくある	15.6%	14.2%	16.1%	16.6%	17.8%	13.6%	15.4%	16.0%
ときどきある	55.9%	56.1%	56.8%	54.9%	53.9%	58.5%	55.5%	57.1%
ない	26.1%	28.1%	24.4%	25.6%	25.7%	26.3%	28.1%	23.9%
無回答	2.4%	1.6%	2.7%	2.8%	2.6%	1.5%	1.0%	3.1%
(f) 自分で調理したもの								
よくある	46.0%	50.2%	43.6%	44.1%	33.4%	58.3%	43.1%	49.2%
ときどきある	37.6%	36.6%	39.4%	36.8%	40.6%	34.8%	41.4%	33.6%
ない	14.6%	11.8%	15.3%	16.7%	23.8%	5.8%	14.9%	14.5%
無回答	1.8%	1.4%	1.8%	2.4%	2.2%	1.0%	0.6%	2.7%
(g) 家族、親族、親戚、近所の人が作ったもの								
よくある	3.3%	3.1%	2.2%	4.4%	3.3%	3.3%	3.6%	3.0%
ときどきある	17.3%	19.2%	16.3%	16.3%	12.9%	21.4%	17.0%	17.3%
ない	76.8%	75.5%	78.8%	76.0%	80.9%	73.6%	78.4%	76.0%
無回答	2.7%	2.2%	2.6%	3.3%	2.8%	1.8%	1.0%	3.7%

(2) 食生活や健康面で気を付けていること (問23)

図表Ⅱ-9-2 食生活や健康面で気を付けていること (複数回答/全体・3区計の降順)

	全体・ 3区計	世田 谷区	豊島 区	墨田 区	男性	女性	35-49 歳	50-64 歳
合計度数	2598	868	845	885	1264	1283	1347	1197
5.年に一度定期健康診断を受ける	70.1%	70.0%	68.6%	71.4%	66.0%	75.1%	71.5%	69.6%
2.朝食をきちんととる	48.4%	47.8%	48.0%	49.3%	45.8%	51.2%	43.6%	54.1%
3.栄養のバランスがかたよらないようにする	41.8%	44.7%	42.0%	38.9%	36.9%	47.0%	38.5%	46.0%
1.定期的に運動をする	40.7%	40.8%	38.8%	42.4%	43.8%	37.8%	41.9%	39.3%
4.カロリーをとりすぎない	37.4%	38.2%	38.2%	35.8%	35.4%	39.6%	36.1%	39.5%
6.健康食品やサプリメントをとる	34.9%	37.3%	37.2%	30.5%	30.9%	39.0%	35.9%	34.1%
7.いずれもしていない	5.5%	4.8%	6.7%	5.0%	7.0%	3.9%	5.9%	4.8%
無回答	1.7%	1.2%	1.9%	1.9%	1.9%	0.9%	1.1%	1.7%

① 全体

何らかの形で「年に一度健康診断を受ける」人が全体の7割いる。また半数近くが「朝食をきちんととる」ようにしており、「栄養のバランス」「定期的に運動」「カロリーをとりすぎない」と回答したバランスがとれカロリーを考えた食生活をしている人が4割程度いる。「気を付けていない」という人は全体の5.5%しかいない。

区によって大きな差は見られない。

② 男女別

男女別にみていくと、食事面での注意(朝食、栄養バランス、カロリー)では女性の方が男性よりも実施しているという回答が多く、また「年に一度健康診断を受ける」割合も高い。一方で「定期的に運動」をしている人は男性がやや多くなる。ただし、「気を付けていない」という回答が男性(7.0%)は女性(3.9%)より多い。

③ 年齢別

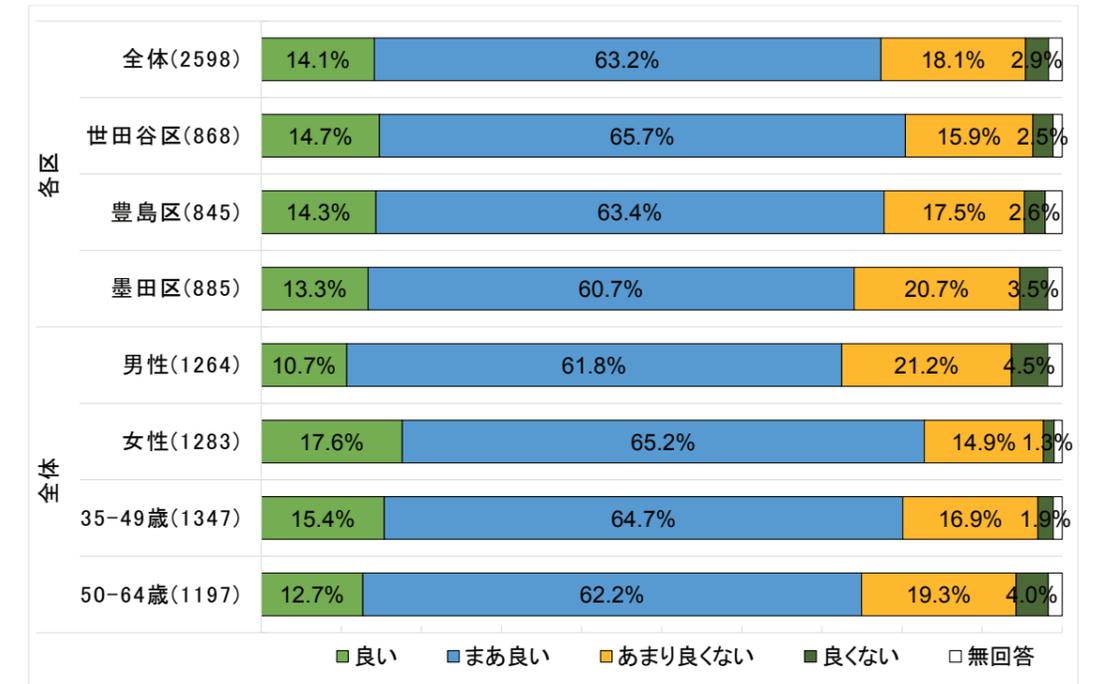
年齢別では食事面で後期の方が前期より注意をしている傾向がみられるが、そのほかでは大きな違いはみられない。

④ 男女年齢別

男女別の違い、および年齢別の違いを見ると、「気を付けていない」人が男性前期で7.3%いるのに対し、女性後期では3%と差があることがわかる。女性は「朝食をきちんととる」人が前期では45.2%なのに対し、後期では58.5%と多い。

(3) 健康状態 (問24)

図表Ⅱ-9-3 健康状態 (単数回答)



① 全体

健康状態は「良い」もしくは「まあ良い」と答えた人が合わせて8割弱おり、「良くない」と答えた人はわずかである。その中では墨田区が他区と比べて「あまり良くない」「良くない」と答えた人がやや多い。

② 男女別

男女別にみると、健康状態が男性では「あまり良くない」「良くない」(25.7%)と答えた人が、女性の「あまり良くない」「良くない」(16.2%)よりも多い。

③ 年齢別

年齢が上がると、健康について「あまり良くない」と感じる人がやや増える傾向にある。「良くない」と答えた人は数は多くないが後期では前期の倍の割合となる。

④ 男女年齢別

女性前期では健康状態が「良くない」と答えた人は0.7%に過ぎないが、男性後期では5.8%となる。

(4) 1か月の心の状態 (問25)

図表Ⅱ-9-4 最近1か月間の心の状態 (単数回答)

	全体・3区計	世田谷区	豊島区	墨田区	男性	女性	35-49歳	50-64歳
合計度数	2598	868	845	885	1264	1283	1347	1197
(a) 気分が沈んだり、憂うつな気持ちになったりする								
よくあった	12.9%	13.9%	11.8%	12.8%	13.5%	12.2%	14.9%	10.5%
ときどきあった	41.4%	41.9%	43.6%	38.8%	37.2%	45.8%	44.2%	38.5%
なかった	43.9%	43.0%	42.2%	46.4%	47.3%	40.9%	39.9%	49.0%
無回答	1.8%	1.2%	2.4%	2.0%	2.0%	1.1%	1.0%	2.0%
(b) 何か新しいことを始めようとする気持ちになる								
よくあった	15.5%	17.2%	15.1%	14.1%	14.0%	16.8%	16.9%	13.8%
ときどきあった	49.1%	48.8%	48.9%	49.5%	47.9%	50.9%	52.0%	46.6%
なかった	33.6%	32.7%	33.5%	34.5%	36.2%	31.0%	30.2%	37.4%
無回答	1.9%	1.3%	2.5%	1.9%	1.9%	1.2%	1.0%	2.2%
(c) どうも物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがする								
よくあった	10.7%	10.5%	10.4%	11.3%	13.4%	8.3%	12.8%	8.6%
ときどきあった	38.9%	37.6%	37.6%	41.5%	39.2%	38.8%	41.1%	36.9%
なかった	48.6%	50.8%	49.8%	45.3%	45.6%	51.8%	45.2%	52.5%
無回答	1.7%	1.2%	2.1%	1.9%	1.8%	1.1%	1.0%	1.9%

① 全体

1か月の間に気分が沈んだ、もしくは物事に興味を持てず楽しめないことが「よくあった」もしくは「ときどきあった」と答えた人は全体の半数超であった。一方で新しいことを始めようとする気持ちになったことが「よくあった」もしくは「ときどきあった」という人も6割を超えている。区での違いは大きくない。

② 男女別

男性の方が気分が沈んだりしたことが「なかった」と回答した人(47.3%)が女性(40.9%)よりも多く、女性は「ときどきあった」と回答した人(45.8%)が男性(37.2%)よりも多い。一方で、物事に興味がわかなくなったりすることが「よくあった」人は男性(13.4%)で女性(8.3%)よりも多い。

③ 年齢別

年齢別では前期の方が1か月の間に気分が沈んだりしたことがある。また物事に興味がわからない人が後期と比べて前期の方がやや多い。一方で、何か新しいことを始めようとする気持ちになった人も前期の方が多い。

④ 男女年齢別

気分が沈んだことがあり、また興味もわからないことが「よくあった」という人は男性は後期と比べると前期が多く、一方で、女性では年齢別の違いはそれほどない。何か新しいことをはじめようとする気持ちが「なかった」という回答も男性後期(41.9%)の方が男性前期(30.9%)より多い。

(5) 病気や怪我、介護時の身の回りの世話 (問26)

図表Ⅱ-9-5 病気や怪我、介護時の身の回りの世話してくれる人 (複数回答/全体・3区計の降順)

	全体・3区計	世田谷区	豊島区	墨田区	男性	女性	35-49歳	50-64歳
合計度数	2598	868	845	885	1264	1283	1347	1197
3.兄弟・姉妹	36.3%	42.3%	34.1%	32.5%	28.3%	44.4%	36.8%	36.2%
1.親	33.2%	36.8%	32.5%	30.3%	27.8%	39.0%	51.7%	12.9%
9.ケアマネジャーやヘルパーなどの行政の専門家	17.9%	18.4%	18.6%	16.6%	15.8%	20.3%	14.0%	22.7%
2.恋人・(元)配偶者・パートナー	17.7%	17.9%	17.0%	18.2%	18.7%	16.9%	19.7%	15.5%
6.仕事関係の友人・知人(元同僚を含む)	10.6%	14.3%	9.3%	8.1%	8.4%	12.9%	10.2%	10.9%
8.その他の友人	9.6%	12.1%	9.1%	7.7%	5.9%	13.4%	8.2%	11.3%
5.その他親族・親戚	7.3%	7.7%	7.9%	6.2%	4.7%	9.7%	5.3%	9.5%
4.子ども	6.1%	6.3%	5.7%	6.2%	4.3%	7.7%	0.8%	11.9%
7.近所の友人・知人	5.0%	6.1%	4.6%	4.2%	4.5%	5.6%	4.5%	5.7%
10.その他	1.6%	2.4%	1.3%	1.0%	1.9%	1.2%	1.0%	2.3%
11.誰もいない	19.6%	15.0%	21.5%	22.1%	27.0%	12.0%	18.2%	20.8%
無回答	1.7%	1.2%	1.9%	1.9%	1.9%	0.9%	1.3%	1.5%

① 全体

病気などの時に世話をしてくれると予想している人は、「兄弟・姉妹」「親」を挙げる人が3割を超えている。家族に次いで「ヘルパーなどの専門家」と回答する人が多い。また「恋人などパートナー」と答えた人も比較的多い。一方で、「近所の友人・知人」は5%にとどまる。また「誰もいない」とした人が2割近くいる。

区による違いでは世田谷区では全般的に頼れる人が、他区と比べて多い。特に「親」「兄弟・姉妹」「友人・知人(仕事上、近所、その他)」と回答した人が他区より多い。したがって「誰もいない」という回答も世田谷区は3区のうち最も低く(15%)、豊島区(21.5%)、墨田区(22.1%)と差異がみられる。

② 男女別

また男女別でみると、女性はほぼすべての項目で頼れる人が男性より多く、「誰もいない」という回答が男性の半分以下である(男性27%;女性12%)。ただし、「恋人などパートナー」と回答した人はわずかに男性が多く、「近所の友人・知人」という項目では差が小さい。

③ 年齢別

年齢別にみると、前期では「親」後期では「子ども」という回答が増える。一方で「兄弟・姉妹」「友人・知人」という回答は年齢での差異はあまり見られない。

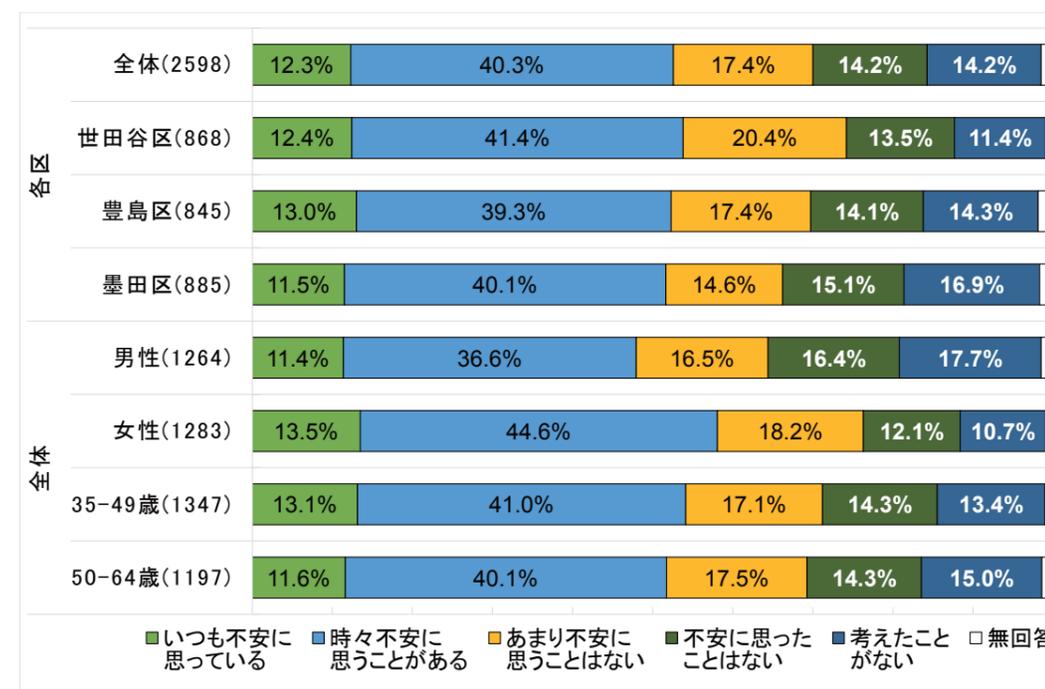
「ヘルパーなどの専門家」という回答は後期が前期を大きく上回る。「誰もいない」という回答は後期でわずかに多いが、あまり違いがみられない。

④ 男女年齢別

これらを男女年齢別で見ると、前期の女性は「親」との回答が6割近くとなりもっとも親を頼りとしている。「兄弟・姉妹」を頼りとする人は、男性では年齢とともにわずかに多くなるが、女性では後期の方が前期と比べるとやや少ないという結果となっている。男女ともに後期では「その他親族・親戚」に頼るという回答が前期よりも多い。女性後期では特に「その他の友人」と回答する人が高く、また、「ヘルパーなどの専門家」に頼る、とする人も4分の1おり、前期の男性と比べて高い。総じて、女性は頼ることができる人が多く、特に後期では家族、近所に加えて、専門家、その他の友人などが世話をしてくれると考えている傾向がある。

(6) 孤独死の不安 (問27)

図表 II -9-6 孤独死の不安 (単数回答)



① 全体

孤独死についていつも、もしくは「時々不安」に思っている人は全体の半数を超える。一方で「不安に思ったことはない」「考えたことがない」という人がそれぞれ14%ほどいる。

区の違いはあまり大きくないが、「考えたことがない」人の割合は世田谷区(11.4%)で一番低く、墨田区(16.9%)で一番高い。また、「あまり不安ではない」「不安に思ったことはない」という回答は世田谷区で一番高く(33.9%)、一番低い墨田区(29.7%)とやや差がみられる。

② 男女別

男性と比べて女性の方が「不安に思う」ことが多く、一方男性は「考えたことがない」という回答が女性と比べて高い。

③ 年齢別

年齢別には全体の結果とあまり差がみられない。後期であっても「考えたことのない」人は一定数おり、前期よりもわずかだが多い。

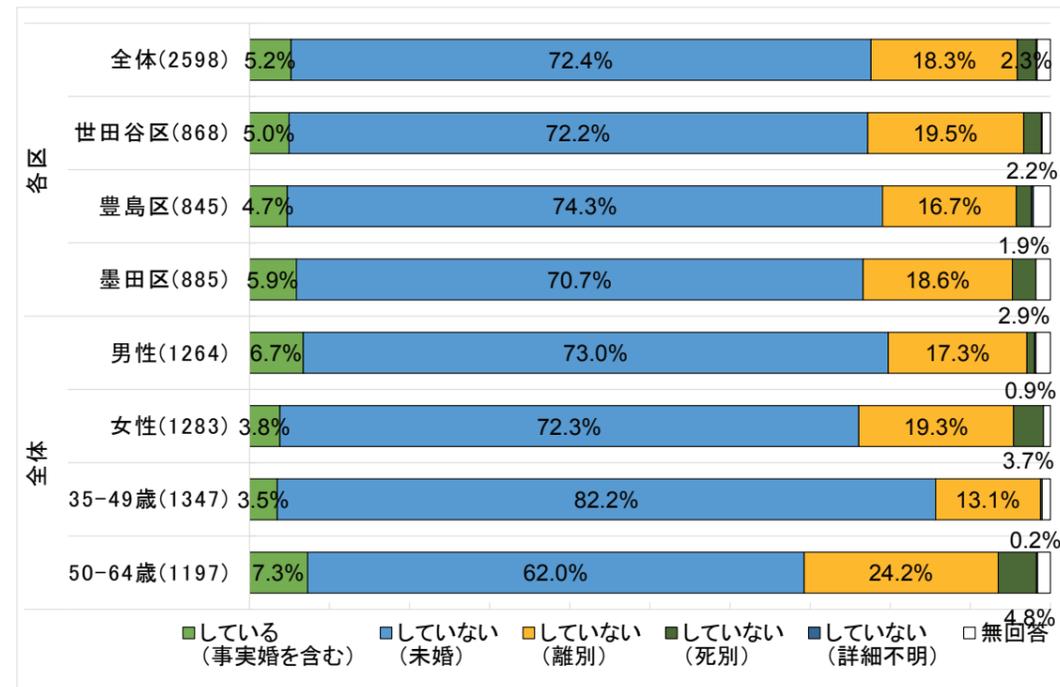
④ 男女年齢別

女性前期の方が後期よりも孤独死について不安を抱えている人がやや多く、一方男性では年齢による差がほぼない。

10. 結婚について

(1) 結婚状態 (問28)

図表Ⅱ-10-1 結婚状態 (単数回答)



① 全体

離別、死別を経験している人が2割ほどおり、また、事実婚を含む一人暮らしで「結婚している」という人が5%ほどいる。

区によって大きな違いはないが、豊島区で「結婚したことのない」人がわずかに多い。また墨田区では他区と比べてわずかに事実婚が多い (5.9%)。

② 男女別

人数は少ないが、男性で事実婚を含む「結婚している」人が女性より多く、一方で「離別」「死別」については女性の方がやや多い。

③ 年齢別

年齢では後期で「離別」「死別」が多く、また後期で事実婚を含む「結婚している」人が前期より多いことがわかる。また後期ではこれまで結婚を経験し (離別・死別ではない) もしくは事実婚状態であるが一人暮らしの人が約4割となる。

④ 男女年齢別

男女年齢別でみると「死別」を経験した人は女性後期で圧倒的に多く (7.8%)、

また「離別」も男性後期と比べてもやや多い。一方事実婚を含む「結婚している」の人は男性後期で8.7%となり、女性後期 (5.7%) よりも高い。

(2) 結婚していない理由 (問28-1)

図表Ⅱ-10-2 結婚状態 (単数回答)

	全体・3区計	世田谷区	豊島区	墨田区	男性	女性	35-49歳	50-64歳
合計度数	2420	816	787	817	1156	1223	1286	1091
2. 適当な相手にめぐり合わないから	60.9%	64.0%	58.4%	60.1%	59.1%	63.0%	66.5%	54.8%
1. 結婚の必要性を感じないから	27.5%	25.1%	30.6%	26.8%	25.6%	29.3%	26.4%	28.8%
4. 自由に使える時間が減るから	16.2%	14.8%	18.6%	15.3%	14.9%	17.2%	17.6%	14.4%
5. 収入面に不安があるから	15.9%	12.1%	16.4%	19.2%	28.2%	4.3%	17.1%	14.6%
7. 結婚するつもりはない	14.8%	12.4%	16.9%	15.1%	15.2%	14.2%	11.1%	18.9%
3. うまくつきあえないから	14.5%	13.2%	15.5%	14.7%	18.5%	10.7%	18.0%	10.4%
6. 仕事が忙しい、仕事を優先したいから	12.5%	13.1%	12.7%	11.8%	11.1%	14.0%	13.9%	11.0%
8. その他	6.2%	6.6%	6.7%	5.1%	6.1%	6.2%	6.0%	6.3%
9. 特に理由はない	9.8%	8.5%	9.9%	11.1%	9.2%	9.7%	7.4%	11.7%
無回答	0.9%	0.7%	1.1%	0.9%	1.0%	0.7%	0.8%	1.0%

① 全体

全体では「適当な相手にめぐり合わない」という回答が6割である。次に多いのは「必要性を感じない」人が3割弱であり、「結婚するつもりがない」と回答した人は14.8%であった。

世田谷区では「適当な相手にめぐり合わない」という回答が他区よりもやや多く、「結婚をするつもりがない」また「必要性を感じない」という人は他区よりもわずかに少ない。逆に豊島区では他区と比べると「結婚をするつもりはない」もしくは「必要性を感じない」との回答がやや多くなる。また「自由に使える時間が減る」という回答が豊島区では他区と比べてわずかに多い。一方で墨田区では「収入面での不安」を理由とする人が他区よりやや多い。

その他と回答し、自由記載をした人の中では、「親の介護」「本人の健康状態」を挙げる人が多い。「同性とパートナー関係にあり、結婚が認められていないので」という回答もみられる。

② 男女別

男女別では「収入面での不安」と答えた男性 (28.2%) が女性 (4.3%) より圧倒的に多く、また、「うまくつきあえない」と回答した人も男性 (18.5%) に多い (女性: 10.7%)。女性は結婚していない理由として「自由に使える時間が減る」「必要性を感じない」という回答が男性よりもやや多い。

③ 年齢別

年齢別にみると、「結婚するつもりはない」との回答は後期（18.9%）が前期（11.1%）より多い。また、「うまくつきあえない」「適当な相手とめぐり合わない」との回答は逆に前期が多い。

④ 男女年齢別

これを年齢と男女別にみると、男性前期で相手と「うまくつきあえない」と回答した人が4分の1近くとなり、男性後期（13.7%）とも差異がみられる。また、「仕事が忙しい、仕事を優先したい」または「自由に使える時間が減る」を理由とした人は、男性後期では男性前期、女性前後期と比べて少ない。

11. 高齢期について

(1) 高齢期の不安（問29）

図表Ⅱ-11-1 高齢期の不安（複数回答／全体・3区計の降順）

	全体・ 3区計	世田 谷区	豊島 区	墨田 区	男性	女性	35-49 歳	50-64 歳
合計度数	2598	868	845	885	1264	1283	1347	1197
1.健康や病気、介護のこと	73.6%	75.8%	72.1%	72.8%	72.7%	76.5%	75.2%	74.0%
3.生活のための収入のこと	66.6%	71.2%	65.1%	63.6%	63.5%	71.6%	73.4%	60.9%
2.頼れる人がいなくなり、一人きりの暮らしになること	40.8%	44.1%	39.2%	39.1%	38.4%	44.3%	49.4%	32.4%
4.住まいに関すること	39.7%	43.9%	38.2%	37.1%	36.6%	44.0%	44.1%	36.0%
12.自然災害（地震・洪水など）	35.4%	38.9%	33.6%	33.7%	27.9%	43.8%	33.0%	39.2%
6.親や兄弟などの世話	29.8%	30.3%	29.5%	29.6%	27.5%	32.9%	37.0%	22.6%
9.世の中が大きく変わってしまうこと	13.3%	12.6%	14.3%	13.0%	12.8%	14.1%	14.3%	12.4%
11.財産を失うこと	11.7%	11.6%	11.0%	12.3%	12.6%	11.1%	14.0%	9.3%
10.犯罪に巻き込まれ被害にあうこと	10.9%	11.6%	9.6%	11.4%	10.6%	11.5%	11.2%	10.9%
8.近隣、親戚、友人、仲間などとのつきあい	9.6%	10.9%	9.3%	8.6%	9.7%	9.8%	11.2%	8.1%
5.家業、土地や家などの相続のこと	8.9%	10.8%	7.8%	8.1%	9.0%	9.0%	9.5%	8.4%
7.親・配偶者・子どもとの人間関係	6.8%	6.6%	6.7%	7.1%	8.4%	5.5%	7.5%	6.3%
13.その他	0.8%	0.9%	0.7%	0.7%	0.9%	0.7%	0.6%	1.0%
14.わからない	2.0%	1.7%	1.8%	2.4%	2.3%	1.6%	2.3%	1.6%
15.不安に感じることはない	3.7%	3.6%	3.7%	3.7%	4.4%	3.0%	4.1%	3.3%
無回答	3.3%	2.4%	4.0%	3.6%	2.8%	1.2%	1.3%	2.7%

① 全体

高齢期（65歳以上）に向けての不安としては、約7割の人が「健康」「収入」に関して心配していることがわかる。その他では、「頼れる人がいなくなる」ことへの不安「住まい」「自然災害」「親や兄弟などの世話」などがあげられている。「不安に感じることはない」という回答は4%弱であり、多くの人が何らかの不安を感じていることが読み取れる。

世田谷区では、多くの項目で平均をやや上回り、特に「健康」、「収入」、「住まい」に関しては不安があると感じる人が多い傾向がみられる。

その他と回答した人の中では、「政治や社会情勢」への不安などを訴える人が多い。

② 男女別

男性と女性で大きく異なるのは「自然災害」への不安であり、女性の方が男性より心配をしている。また、「健康」「収入」「住まい」「一人きりになること」「家族の世話」などに関する不安も女性の方がやや高い。男性は「親・配偶者・子どもとの人間関係」で女性よりわずかに不安を感じる人が多い。

③ 年齢別

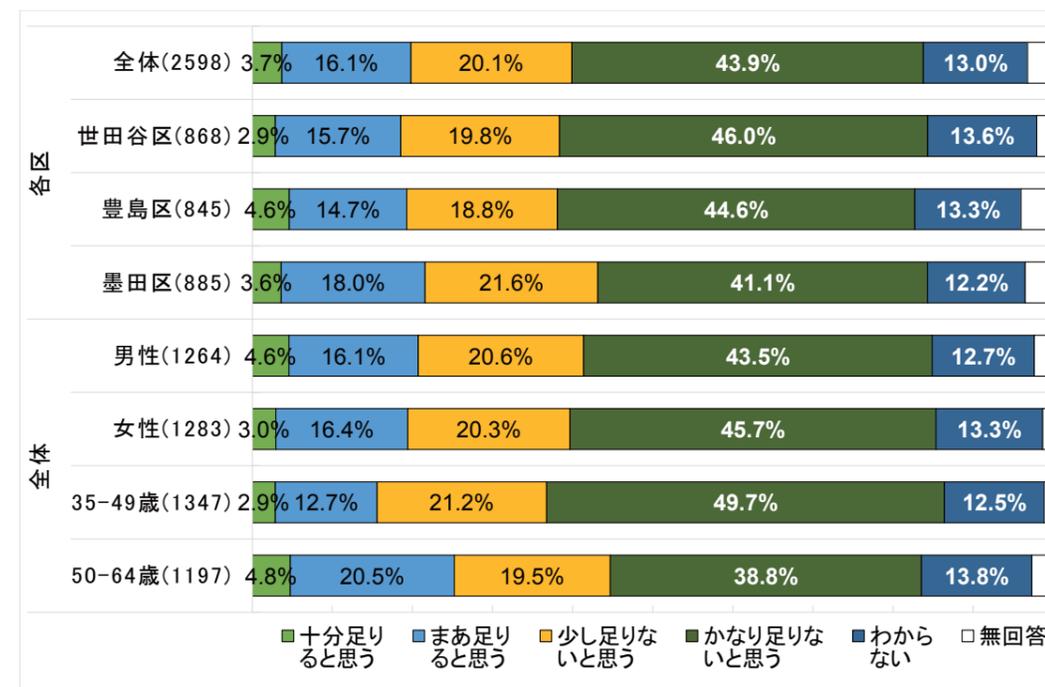
年齢別では、前期で全体に不安が高い。特に「収入」や「一人きりになること」「親や兄弟などの世話」などについて不安が高い。一方、自然災害についての不安は後期の方がわずかに高い。また「健康」については前期後期とも変わらず不安が高い。

④ 男女年齢別

「収入」についての心配は女性の前期で特に高く、約8割が高齢期になったときに不安であると回答している。また「自然災害」については女性後期で約半数が不安としている。

(2) 高齢期の経済的備え (問30)

図表Ⅱ-11-2 高齢期の経済的備え (単数回答)



① 全体

経済的な備えが「かなり足りない」と回答した人が4割以上となり、「少し足りない」という人と合わせると、6割以上となる。「十分足りる」もしくは「まあ足りる」と回答した人は2割である。これを区別にみると、世田谷区で「足りない」とした人が他区よりもやや多い。逆に墨田区では「まあ足りる」とした人が他区よりもやや多い。

② 男女別

男女別には大きな違いは見られない。

③ 年齢別

年齢で見ると前期では備えが足りないとした人が後期よりも多く、約半数が「かなり足りない」と考えていることがわかる。後期では4人に1人が「十分足りる」もしくは「まあ足りる」であろうと考えている。一方、後期でも備えについて「わからない」とした人が14%弱いる。

④ 男女年齢別

男女を年齢別にみた場合、経済的な備えについて女性前期がもっとも「かなり足りない」と感じている。一方で女性後期では「まあ足りる」とした人が男性前後期、女性前期と比べて最も多い。

(3) 高齢期の生計を支える収入（問31）

図表Ⅱ-11-3 高齢期の生計を支える収入（複数回答／全体・3区計の降順）

	全体・ 3区計	世田 谷区	豊島 区	墨田 区	男性	女性	35-49 歳	50-64 歳
合計度数	2598	868	845	885	1264	1283	1347	1197
6.国民年金や厚生年金などの 公的年金	63.5%	64.3%	63.1%	63.1%	61.6%	67.3%	61.6%	67.8%
1.給与による収入	50.4%	53.2%	48.5%	49.4%	47.2%	55.2%	56.2%	45.5%
5.貯蓄または退職金の取りくずし	37.0%	38.1%	37.0%	35.7%	35.7%	39.4%	39.9%	35.0%
7.企業年金や民間の個人年金・ 保険金	32.5%	34.6%	30.3%	32.5%	30.4%	35.5%	35.5%	30.2%
4.株式などの資産運用	17.3%	16.4%	18.0%	17.6%	20.6%	14.6%	22.9%	11.5%
2.事業による収入（不動産賃貸収入 を含む）	15.3%	18.0%	14.8%	13.1%	17.0%	14.0%	16.5%	14.4%
3.利子や配当などの資産収入	12.8%	12.2%	12.3%	13.8%	14.5%	11.5%	15.7%	9.9%
8.相続	6.3%	7.0%	7.0%	4.9%	4.9%	7.9%	7.3%	5.4%
9.家族・親戚からの援助や仕送り	0.8%	0.7%	0.8%	0.9%	0.7%	0.9%	1.0%	0.6%
10.その他	2.2%	1.5%	2.7%	2.4%	2.9%	1.5%	2.1%	2.3%
11.考えていない	2.1%	1.8%	1.8%	2.7%	2.5%	1.7%	2.2%	1.9%
12.わからない	4.9%	4.8%	5.6%	4.3%	4.5%	5.2%	4.6%	5.2%
無回答	2.9%	1.8%	3.8%	3.2%	2.1%	1.0%	1.0%	2.3%

① 全体

高齢期の収入については多くの人が「年金」「給与」で得たいと考えており、次いで「貯蓄や退職金」などである。一方で「資産運用」などで収入を得ようと考えている人はそれほど多くはない。

これを区ごとに見てみると、世田谷区では「給与」と回答した人がやや多く、「年金」とした人もわずかに他区を上回る。一方で「株式などの資産運用」に関してはわずかだが他区より低い。「相続」に対しては全体で低い回答（6.3%）だが墨田区では他区と比べてもやや低い（4.9%）。

② 男女別

男女別では女性の方が「給与」「年金」という回答が男性と比べて多い（給与：女性55.2%；男性47.2%）。一方で「事業収入」や「株式などの資産運用」という面では男性の方が多い傾向にある。

③ 年齢別

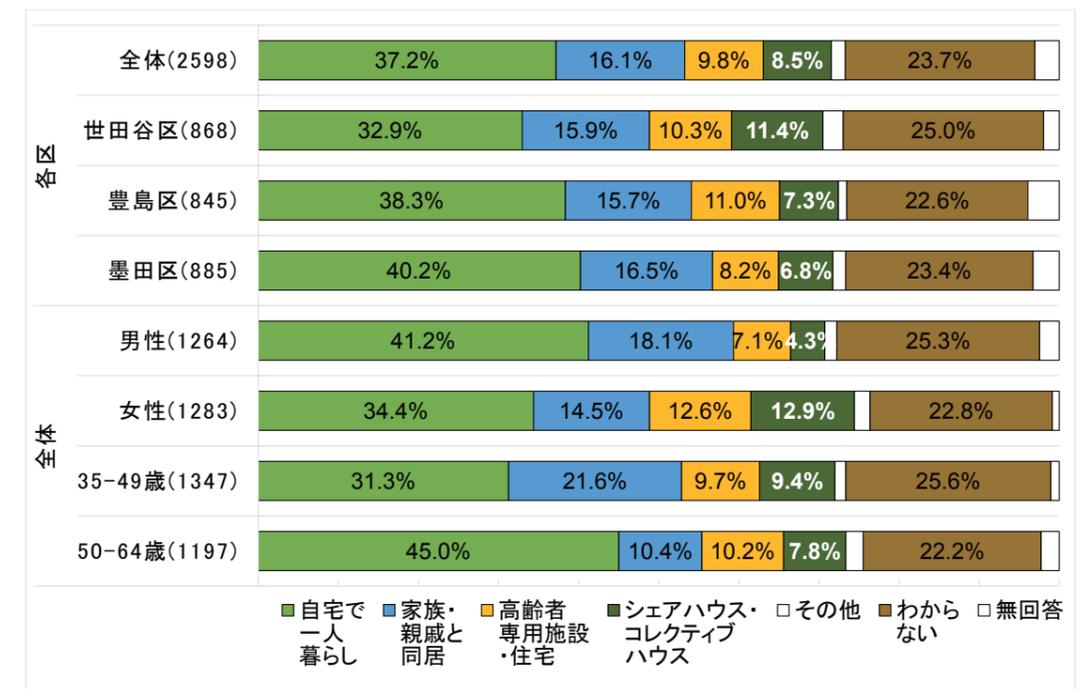
後期では「年金」という答えが前期より多い一方、前期では「給与」という回答が多くなっている。また、前期では「事業収入」や「株式などの資産運用」などと答える人が後期と比べて多い。特に「株式などの資産運用」については前期（22.9%）が後期（11.5%）の倍程度おり、期待が高いことがうかがえる。

④ 男女年齢別

これを男女年齢別にみると、「利子や配当などの資産収入」として高齢期の生活に充てようと考えている人が男性前期で20.3%いるが、男性後期では8.5%と大きな差がある。女性では前期後期にほとんど差がみられない。「株式などの資産運用」に関しては女性、男性ともに前期の方が高く、後期では低い。また女性後期では「年金」という回答が最も高くなり、7割以上となる。

(4) 高齢期の住まい方（問32）

図表Ⅱ-11-4 高齢期の住まい方（単数回答）



① 全体

高齢になったときの住まいについては「自宅で一人暮らし」と考える人が4割弱で最も多い。ついで、「家族・親戚との同居」となり、「高齢者施設」という回答は約1割である。また、「わからない」と回答する人が4分の1近くいることがわかる。区別にみると、墨田区、豊島区、世田谷区の順で自宅と回答する人が多い。世田谷区では「シェアハウス等」との回答がわずかに他区より多いが、一方で墨田区では「高齢者施設」「シェアハウス等」で過ごしたいと考える人の割合が他区と比べてやや低い。

② 男女別

男女別には男性が女性より「自宅で一人暮らし」もしくは「家族・親戚と同

居」を希望しているのに対し、女性は「高齢者施設」「シェアハウス等」との回答が男性より高く、特に「シェアハウス等」については女性が12.9%なのに対して、男性は4.3%と大きな違いがみられる。「高齢者施設」に対しても女性は12.6%が希望しているのに対し、男性は7.1%と少ない。

③ 年齢別

年齢別には後期で自宅で過ごしたいと思う人（45.0%）が前期（31.3%）よりも多く、一方で「家族・親族との同居」は後期（10.4%）で前期（21.6%）の半分ほどになる。年齢が後期であっても、高齢期にどのような住まいを望むか「わからない」人が5人に1人以上いることがわかる。

④ 男女年齢別

「自宅」での生活を希望している人は男性後期で最も高い（46.5%）。また、「わからない」という回答が女性は前期とくらべて後期でやや少ないが、男性では前期、後期の違いはあまり見られない。

12. 区政への要望

(1) 区政への要望（問33）

図表Ⅱ-12-1 区政への要望（複数回答／全体・3区計の降順）

	全体・ 3区計	世田 谷区	豊島 区	墨田 区	男性	女性	35-49 歳	50-64 歳
合計度数	2598	868	845	885	1264	1283	1347	1197
5.病気や入院時などに身の回りの世話をしてくれるサービス	57.1%	57.5%	58.8%	55.0%	53.1%	62.6%	53.5%	62.9%
1.一人暮らしの人向けの住宅対策	55.2%	59.7%	52.7%	53.2%	52.6%	59.5%	55.2%	56.9%
7.高齢になった時のための買い物・外出・通院支援	41.2%	44.8%	40.9%	38.0%	31.7%	51.5%	40.7%	42.9%
3.一人暮らしの人が参加しやすい地域活動の推進	25.3%	26.0%	23.9%	25.9%	24.5%	26.9%	24.7%	26.7%
2.一人暮らしの人が参加しやすい生涯学習講座などの開催	20.4%	21.3%	18.7%	21.2%	17.2%	24.3%	19.2%	22.5%
9.契約・交渉などの支援	19.4%	21.5%	19.2%	17.6%	15.3%	23.7%	20.0%	19.0%
8.話し相手、困ったときの相談相手の紹介	18.4%	19.8%	16.9%	18.5%	18.8%	18.6%	18.6%	18.7%
4.結婚・交際相手との出会いの場の提供	15.9%	15.4%	15.4%	16.9%	20.3%	12.0%	20.3%	11.5%
6.詐欺などの犯罪に巻き込まれないための情報提供	13.6%	15.7%	12.2%	12.9%	10.6%	16.7%	13.0%	14.4%
10.その他	3.7%	4.3%	4.4%	2.5%	3.2%	4.2%	3.8%	3.7%
11.一人暮らしの人向けの施策・サービスは特に必要ない	5.6%	4.7%	5.3%	6.8%	8.3%	3.1%	6.9%	4.3%
無回答	2.2%	1.4%	3.1%	2.3%	1.3%	0.3%	0.7%	0.8%

① 全体

区政への要望が最も高いことは、「身の回りの世話」と「一人暮らし向けの住宅対策」であり、6割程度の人が要望している。「高齢時の外出支援」がそれに次ぐ。「一人暮らし向けのサービスは特に必要ない」という回答は5.6%であった。

その他と回答した人の要望は多岐にわたるが、「経済的な支援（年金、高齢でも働ける仕組みなども含む）」についての要望が目立つ。「老後の不安全感」に対する要望、および「安楽死制度」についての言及がいくつか見られる。

世田谷区では、「一人暮らし向けの住宅対策」「高齢時の外出支援」「契約交渉支援」などの要望が他区より高い。豊島区では「一人暮らし向けの生涯学習講座など」や「一人暮らし向けの地域活動」などへの要望が他区と比べてやや低い。また墨田区では「高齢時の外出支援」「身の回りの世話」「契約交渉支援」などがやや低く、「一人暮らし向けのサービスは特に必要ない」という回答も

3区では最も高い。

② 男女別

男女別では全体に女性は男性よりも要望が多いが、「結婚などの出会い提供」については女性（12.0%）より男性（20.3%）が高い。

「高齢時の外出支援」を要望する人が女性では5割を超えるのに対し、男性は3割にとどまる。

③ 年齢別

年齢による要望の違いは多くの項目で見られないが、「結婚などの出会い提供」への要望は前期で多く、一方「身の回りの世話」については後期がやや高くなる。「高齢時の外出支援」については前期でも4割の人が要望しており、後期とあまり変わらない。

④ 男女年齢別

「結婚などの出会い提供」への要望は男性後期で15.8%と前期（24.8%）より下がるが、依然一定数が要望している一方、女性後期では6.9%と女性前期（16.2%）より少なくなる。また、「身の回りの世話」については男性が前期（45.9%）と比べて後期（60.7%）で要望が高くなるのに対し、女性では前期（60.4%）と後期（65.3%）でさほど大きな違いはない。

同様に、「犯罪予防のための情報提供」については男性は前期（8.6%）より後期（12.6%）で要望が高くなるが、女性は前期後期であまり変わらない。

Ⅲ 調査結果から明らかになったこと

壮年期単身者の現状や将来に対する意識等を明らかにする目的で3区（世田谷区・豊島区・墨田区）を対象にアンケート調査を実施し、その結果を集計した結果をまとめた。以前から特別区においては若年単身者（34歳以下）が全国や東京圏と比較して多いことはよく知られているが、近年増加傾向を示している壮年期（35～64歳）の単独生活者に対しては十分な関心が払われてこなかった。この問題に焦点を当て、壮年期の単独生活者の実態を明らかにすることを目的としたのがこの調査であった。今回の集計は、単純集計と区別、性別、年代別のクロス集計に限っているため、掘り下げた分析には至っていない。詳細な分析は次年度の課題に回し、ここでは今年度の段階でわかったことを整理してみる。

■ 壮年期単独生活者の基本的特徴

～高学歴者が多い。正規（管理職を含む）は50%。勤務時間は多様～

高学歴者が多い。「短大+高専」「大学（4年制）」「大学院・大学（6年制）」を合計すると男女共ほぼ60%で、同世代の全国平均と比べてかなり高学歴者が多い。高卒以下は、男性24.5%、女性15.6%と割合は小さい。就業状況は「正規（管理職を含む）」が約50%で、男性の方がその比率はやや高い。就業状況を見ると、夜間、深夜に働く、夜間（午後6時～午後10時）に働く（58%）、深夜から早朝（午後10時～午前7時）の間に働く（23.7%）、土、日、祭日に働く（40%台）など、勤務時間が多様であり、これらのいずれにも当てはまらない人は23.2%と少ない。しかも男女で大きな差がない。大都市で家庭をもたない単身者の働き方の特徴といえるだろう。

■ 所得の分布と暮らし向き

～所得は分散している。男性の内部、また後期の人々の内部での格差が大きい～

所得は低所得から高所得まで広く分散している。分散は前期より後期の方が大きい。男性は女性より高所得層がやや多い。暮らし向きは「ゆとりがある」「どちらともいえない」「苦しい」がほぼ同じ割合だが、女性より男性の方が「苦しい」がやや多い。また後期の方が「苦しい」がやや多い。現在の満足度を見ると、半数強は「満足している」が、女性より男性、前期より後期で「満足していない」が多い。暮らし向き、所得分布の分散、満足度を合わせてみると、男性の内部、また後期の人々の内部での格差が大きく、低所得者層と高所得者

層とがいるのではないかと思われる。

■出身地・居住年数・定住意向・一人暮らし期間

～首都圏外地方出身者が約半数。区内居住年数の長い人が多い。区への定住意向は強い。一人暮らしの年数は長いが今後も一人暮らしを続けるつもりとは限らない～

出身地を把握するために中学校時の居住地を聞いた結果、約半数は「その他道府県」、次いで2割が「埼玉・千葉・神奈川県」となっている。また、区内、「区以外の東京23区」に居住していた人は合わせて2割強である。女性は埼玉・千葉・神奈川県が男性より多く、男性は関東圏以外の地方出身者が多い。出身地の違いは、親や兄弟姉妹との距離の違いとなり、接触頻度の違いをもたらしているようである。関東圏以外の地方出身者が多い男性のなかには、親や兄弟姉妹との接触が薄くなった例があることが推測される。

単独居住者は区内に20年以上長く住む人が3割、10～20年未満および5～10年未満の人が4割で、後期になるほど居住期間の長い人が多い。転入のきっかけは「就職・転職のため」「通勤通学の便利さ」がもっとも多い。6割強の人は区内に長く住み続けることを希望している。一人暮らしの期間は10年以上が7割を占め、そのなかには30年以上の長期に及ぶ人が13.5%を占めている。このように一人暮らしの期間が長く、定住意向の強い人たちが多くいることは特別区の特徴と見てよいだろう。その一方で、一人暮らしを続けたいかどうかについては、「わからない」が4割強、「続けたい」が4割弱で、必ずしも一人暮らしを不変の状態と意識してはいないことも特徴とみてよいだろう。

■住宅

～賃貸住宅が多く、床面積は小さい～

住宅は賃貸マンション・アパートが約6割、分譲マンション・アパートが約2割で、持家率は低い。半数は40㎡未満である。後でみるように経済不安を感じている人が少なくないのは家賃負担がひとつの理由となっているのだろう。

■親の居住地と連絡頻度

～関東圏以外の道府県がもっとも多い。一方、同じ区内・23区内が2割を占める。4割弱は親との連絡が少ないか無い。一方、約3割(女性は4割弱)は、毎日～週1回連絡をとっている。女性の方が連絡の頻度がかかなり高い～

親が存命の場合、親の居住地は「関東圏以外の道府県」が4割強、埼玉・千葉・神奈川県が2割強である。逆に、同じ区内、区外の東京23区が2割を占めている。したがって親の住まいまでの移動時間は2時間以上がもっとも多くなって

いるが、その一方で、4人に1人は1時間未満の範囲に親がいる。「親とは月に数回程度連絡をとっている」が3割強、「年に数回程度」が約3割である。「連絡をとっていない」は6.8%と少ない。女性は男性より親と連絡をとる頻度が高い。また前期より後期の方が連絡頻度は高まっている。親の介護に関して、約4割は自分が担当するものと意識している。その傾向は女性の方が強く、自分の兄弟姉妹を第一位に置く男性との違いがみられる。

■兄弟姉妹の居住地・連絡頻度

～3割弱は、兄弟姉妹が区内・区外の23区に住んでいる。男性の2割、女性の1割強はほとんどあるいはまったく連絡をとっていない～

親よりは兄弟姉妹の方が首都圏に多くいる。特に3割弱は、「区内・区外の23区」に住んでいる。兄弟姉妹との連絡頻度をみると、約4割の人は「年に数回程度」であるが、女性は男性よりも連絡が頻繁である。一方、男性の2割、女性の1割強は、「ほとんどあるいはまったく連絡をとっていない」。前期より後期になると、頻度がやや高くなっている。

■友人・知人との関係

～3割ほどが「とても少ない・いない」。全体として女性の方が男性より友人・知人との関係が豊か～

約半数の人は、親しくしている友人・知人が「少ない方」、2割は「とても多い・多い」、3割ほどが「とても少ない・いない」である。「とても少ない・いない」は男性が女性の2倍程度いる。全体として女性の方が男性より友人・知人との関係が豊かである。

■休日の過ごし方

～男性は「休日誰とも過ごさなかった」「正月を誰とも過ごさなかった」が、女性より多く、しかも前期より後期の方がかなり多い～

休日に誰とも過ごさなかった人が2割以上いるが、男性は女性よりその割合が大きい。しかも後期の方がより大きい。また、正月を誰とも過ごさなかったのは男性29.9%、女性16.5%である。前期女性では約7割が親と過ごしている一方で、後期男性の35%ほどは誰とも過ごしていない。

親との関係、兄弟姉妹との関係、友人・知人との関係、休日の過ごし方を見ると男女の違いが大きい。女性は人との関係を維持していることが多いのと対照的に、男性は関係が希薄な傾向がみられる。「一人暮らしで困ること」でもっとも多いのは、男女共に「病気になったときに身の回りの世話をしてくれる人がいないこと」であるが、不安を解消するために人との関係を維持しようとす

る傾向は女性の方に際立っている。

■地域活動への参加

～8割の人は地域活動に参加していないが、「地域活動にまったく参加したくない」は1割を超える程度で多くはない。男性の参加および参加意向はより低い～

8割の人は地域活動に参加していない。しかし、「地域活動にまったく参加したくない」は1割を超える程度で多くはない。男女で比較すると男性は女性の2倍である。男女合わせて3分の1は「どちらともいえない」である。地域活動への参加のきっかけについては、3分の1の人は自分の意思としている。きっかけはないとする人も3分の1いる。つぎに多いのは友人・知人からの勧誘である。後期男性は、友人などの勧誘、自分の関心ともに前期より少なくなり、特にきっかけはないという人が約半数をしめている。独居生活者は孤立への不安を持っているが、地域活動に参加するきっかけは少ないことがわかる。そのことは、災害時には大きな障碍となるだろう。特に男性の社会的孤立を防止するためには、参加できるしかけが必要と思われる。

■災害への備え

～災害への備えは不十分。女性より男性の備えはかなり低い。男性の前期では8割近くが災害時に頼れる人がいない～

女性の方が男性より災害時のための備えをしている。男性は、食糧の確保、照明・情報器具の確保、トイレ対策、燃料の確保などを行っている率が、女性よりかなり低い。災害時に頼れる人がいるかどうかに関しては、知人、友人、親子兄弟がそれぞれ3～4割程度であり、町内会、管理人が2割である。後期の女性は4割が頼れる人がいて、もっとも多く、対照的に、男性の前期では8割近くが頼れる人がいない。全体的に女性の方が男性より頼れる人がいる人がやや多い。男性は知人、町内会等の人を上げる人が多く、女性は友人、親族が多い。

一人暮らしは災害への備えが十分とはいえない。そのうえ多くの人が隣近所との関係が薄いことを考えると、災害時に向けた一人暮らし対策が必要といえるだろう。

■一人暮らしで困ること

～女性は家賃や生活費の負担、不在時の防犯が多く、男性はお金の使い方が雑になる、人との会話が少なく、さみしさ、近所づきあいが多い～

病気になった時の身の回りの世話（6割）は男女共にもっとも多く、家賃や

生活費の負担（4割）が次に多い。女性は男性より家賃や生活費の負担が多く、防犯への不安ももっている。一方男性はさみしさ、会話の少なさ、近所づきあいなどで困ることがあると考えている人が女性より多い。

■孤独死の不安

～半数強の人が不安を感じている。女性は男性より多い～

半数強の人が不安を感じている。その傾向は女性の方がより強く、そのことが日頃から社会関係を作ろうという動機付けになっていると思われる。

■区政への要望

要望が高いのは身の回りの世話と住宅対策（共に6割程度）、高齢になった時のための買い物・外出・通院支援（4割）である。

まとめ

特別区に居住する壮年単独居住者の多くは、居住年数が長く定住意向も強い。区政としてはこれらの区民をしっかりと位置づけていく必要があるだろう。その際、留意すべき点は、単独居住者のなかに社会的孤立傾向のある人々が少なくないことである。親族、友人・知人、隣人との関係が希薄で頼りになる人がいない、休日はほとんど一人で過ごす、地域活動にはいっさいかわっていないという状態が放置されれば、高齢期はより一層孤立と孤独の不安定な生活状態に陥ることが予想される。これらの人々は、仕事中心の生活に埋没しているか、低所得、不安定な職業、地方出身者、健康状態が悪い等が重複している可能性があり、孤立の傾向は男性の方が強いという点に留意する必要があるだろう。

社会関係上の特徴とともに、経済事情にも特徴が見られる。一般的に単独生活者は、所得が低下するリスクを配偶者とシェアすることができないため、配偶者がいる人と比較して高い不確実性に直面する。本調査によれば、家賃や生活費の負担を感じている人が4割と多く、高齢期の生活のための収入への不安や住まいに関する不安を感じている人も少なくない。また、高齢期の経済的備えがかなり足りない・少し足りないと感じている人が6割以上と、経済的不安を感じている人が少なくないことも軽視できない。女性の方が経済的不安を感じている人が多いのは低所得者が多い実態から領けるが、男性の場合には女性以上に格差が大きく、低所得層がいることに留意する必要がある。

単独居住者の多くが抱える病気になった時の不安、災害時の不安、経済不安などは、高齢期に移行するなかで現実のものとなっていくにちがいない。本調

査の知見をもとに、大都市壮年単独居住者の実態をさらに掘り下げて検討し、都市政策に組み入れていく必要がある。

なお、本調査は特別区のなかから特性の異なる世田谷区、豊島区、墨田区の3区を抽出し、区による違いにも注意を払った。しかし3区に共通する特性に比べると区による違いは小さかった。都心に住む壮年単独生活者のライフスタイルには似た特性があるのかもしれない。いずれにしても、次年度に詳細な分析結果を待つことにする。

研究体制（◎はリーダー）

◎	放送大学／千葉大学名誉教授（機構顧問）	宮本 みち子
◎	慶應義塾大学名誉教授	大江 守之
	札幌市立大学デザイン学部准教授	丸山 洋平
	独立行政法人労働研修・研究機構アシスタントフェロー	酒井 計史
	明治大学専門職大学院ガバナンス研究科教育補助講師	松本 奈何
	調査協力区：世田谷区・豊島区・墨田区	

活動実績

活動項目	実施日・期間	内容
第1回研究会	平成31（2019）年 4月19日	メンバー紹介、アンケート調査の検討 等
第2回研究会	令和元年（2019）年 5月21日	アンケート調査の検討（協力区との調整、調査票の項目、設問検討）、国勢調査結果のオーダーメイド集計検討 等
第3回研究会	7月16日	アンケート調査の検討（設問検討）、国勢調査結果のオーダーメイド集計検討 等
第4回研究会	9月2日	アンケート調査の検討（設問確認）、国勢調査結果のオーダーメイド集計検討 等
第5回研究会	10月28日	アンケート調査集計方法検討、国勢調査結果のオーダーメイド集計検討 等
第6回研究会	12月2日	アンケート調査結果の報告・意見交換、報告書の検討、来年度の研究概要の調整 等
第7回研究会	令和2（2020）年 1月10日	報告書の検討 来年度の研究概要の調整 等
第8回研究会	2月28日	報告書の確認、報告会の準備 等

執筆担当

第一部 I II	大江 守之
第一部 III IV	丸山 洋平
第二部	宮本 みち子
	酒井 計史
	松本 奈何

アンケート調査委託

株式会社エスピー研